

目次

青山 太郎	2～3	中村 麻理	54～55
石川 豊美	4～5	成田 裕一	56～57
伊東 宣明	6～7	長谷川 聡	58～59
岩橋 涼	8～9	濱口 輝士	60～61
内田 英伸	10～11	平林 義章	62～63
大矢 信吾	12～13	本多 一彦	64～65
岡田 有司	14～15	松原 友子	66～67
落合 洋文	16～17	宮島 彩	68～69
景山 節	18～19	山田 直子	70～71
加藤 清子	20～21	山田 ゆかり	72～73
北川 絵里奈	22～23	吉田 友敬	74～75
木村 亮介	24～25	吉田 洋	76～77
國友 宏渉	26～27	渡邊 正樹	78～79
栗林 芳彦	28～29		
黒瀬 聡	30～31		
後藤 千穂	32～33		
木場 安莉沙	34～35		
小林 あづみ	36～37		
近藤 徹弥	38～39		
周 欣欣	40～41		
関 豪	42～43		
世良 清	44～45		
高橋 圭	46～47		
竹内 陽介	48～49		
田中 明子	50～51		
堤 浩一	52～53		

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：青山太郎
------	-------------	--------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は自らの専門領域である映像表現やその分析・批評などの実践的教育を通して、学生自身が人と人、社会、歴史や文化、さまざまな感情や感覚をつなぎ、来るべき「よりよい」（美しい、楽しい、快適な、充実した、など）共生のあり方を想像し、デザインすることを可能とするような洞察力と想像力、表現力を涵養します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： メディアデザイン入門	本講義では、近代デザインの歴史から、デザインを巡る近年の事例、理論、課題などを紹介・教授している。とりわけ、「人新世」や「ポストヒューマン」と呼ばれる現代社会において、「デザイン」という営みに何が求められるかを理解し、今日のデザインプロセスを成立させる手法や考え方の基礎を学生が身につけることを目指している。具体的には、第1フェーズにおいて「現代におけるデザインの役割と責任とは何か」を歴史的に検討し、第2フェーズにおいては、アーツ・アンド・クラフツ運動にはじまる近代デザインの歴史を概略的にたどってきた。第3フェーズでは現代的なデザイン・プロセスのうちのデザインリサーチに特に注目し、その内容を教授した。第4フェーズでは、デザイナーとして「そのデザインが本当に社会にとって必要かどうかを考える」方法をあらためて学生とともに検討した。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 映像メディア表現	4年生向けで、映像メディアコースの総仕上げとして位置付けられるこの授業では、最新の映像学・デザイン学の研究知見を取り入れた演習形式の授業を実施している。具体的には、ドキュメンタリー映像とZINEの制作取り組みを中心課題として、少人数の演習形式とし、最終成果展にいたるまでに中間審査を複数回取り入れた。それによって学生のモチベーションを維持し、作品のクオリティを向上させた。今年度は稲沢市荻須記念美術館と連携し、学外者への取材や成果物の学外への配布も行ったため、それによる学修効果も十分あったと思われる。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 情報と社会	本講義では、メディアによって形成された情報環境によって私たちが「社会」なるものを認知し、それに沿って「社会」に関わる行動をしているということを学生に理解させ、その上でそうした環境を変容させるためのデザイン・リテラシーの基礎を学生が身につけるよう心がけて指導を行った。そのため歴史的には古代から現代に至るさまざまな「メディア」の実践例を取り上げ、それらについての批判的・理論的考察を教授した。
4.教育活動や教育業績 科目名④： 映像制作演習II	この授業では、基本的に学生自身による解釈を必要とする課題を提示し、それを実装するために学生はグループワークに取り組み、完成した作品については教員と他のグループの学生全員で講評を行い、細かく分析するというかたちをとった。特に、制作スケジュールの計画から制作状況の中間報告、最終成果の講評までひとりひとりの進捗をケアし、適宜質問を受け付け、それぞれの状況に応じたコメントをすることで、学生自身が自主的に課題に取り組むことが出来たように考えられる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： メディアデザイン入門	全15回を通じて幅広い事例を取り上げつつ、各回の授業においてテーマを設定したため、情報量は比較的多いと考えられたが、関心を持続させて受講する学生が多く、そうした受講生の理解を促すことができたと考えられる。理解度については「理解できた・まあ理解できた」が79.0%と高く出ているが、一方でレポート課題をみるかぎり、十分に授業を理解していない学生も一定数おり、学修度の二極化が現れていると感じられた。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 映像メディア表現	サンプル数は少なかったものの、授業評価の理解度および満足度は非常に高い。また、最終的な成果物のクオリティも向上していることから、授業のねらいについての理解度も十分なものであったと考えられる。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 情報と社会	理解度の平均値が3.24、満足度が3.40と出ているが、それ以上に自由記述欄に「他の情報系科目と比べて、理論の学習でもなく、制作でもないため、考察がメインという難しい科目である」や「意識的にメモをよく取った」という意見が複数あり、その点では狙いがうまく受講生に伝わっていたものと考えられる。その一方で、授業の理解度（講義の分かりやすさ）という点では「理解できた」という意見と「難しかった」という意見が分かれており、傾向としては前者が多いように見受けられるものの、難しいと感じる学生のフォローをしていくことが今後の課題であると感じられる。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： 映像制作演習II	演習課題については、制作過程で受講生のアイデアを適宜チェックし、教員と学生のあいだで、また学生同士のあいだで意見交換する時間を十分に設けた。さらに、アイデア発表や進捗報告を全体に向かってプレゼンテーションする時間も増やすことで、学生が自分たちのアイデアを言葉で表現し、自らその内容を検討できるよう促した。その結果、それぞれのグループが特色あるアイデアを提案することができ、いくつかのグループでは自分たちの表現を追究する姿勢が見られた。全体的に緊張感を保った演習が実施できていたものと考えられる。理解度や満足度も比較的高評価であったといえる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	12月に愛知芸術文化センターで開催された、日本全国の映像系教育機関より選出された学生作品を紹介するイベント「Moving Image Festival 2023」に、本学の学生作品を出品することに成功した。また、3月に開催された日本映像学会中部支部第3回研究会でも本学の学生に発表をさせた。こうした活動を通じて、学生の自己肯定感の向上と、制作意欲の活性化につなげつつ、教員同士でも授業を進める上での工夫などについて意見交換を行った。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

全科目について、基本的には今年度までの方法を踏襲しつつ、学生の学修意欲の向上を図る。そのうえで、理解の進みが遅い学生のフォローを早めに行い、学修度の二極化の進行を最小限にとどめたい。	
---	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：准教授	氏名：石川 豊美
------	-----------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

学校、病院、福祉施設、事業所等をはじめとした様々な施設で給食は提供されている。限られた給食経営資源を効果的・効率的に使い、安心・安全でおいしい食事を提供できるだけではなく、多様化する利用者の嗜好やニーズにも的確に対応できる人材を育成する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：給食実務論	近年管理栄養士を取り巻く社会環境は大きく変化し、保健・医療・福祉等における食生活の課題に対応できる給食施設が求められている。管理栄養士の実務の基本である給食管理・運営に必要なマネジメントの基礎能力を養い、喫食者のニーズに対応した食事提供ができるよう、給食実務の基本全般について学習する。特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。
2.教育活動や教育業績 科目名②：給食経営管理学	給食運営や関連サービスを総合的に判断し、栄養面・安全衛生面・経済面など全般のマネジメントを行う能力を養うことを目的とする。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理や応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。
3.教育活動や教育業績 科目名③：給食経営管理実習Ⅰ	給食実務論、給食経営管理学で得た基本的な知識や技術を基礎に、給食管理運営業務について実習室を使用し、管理者として実践できるように体得することを目的とする。施設の組織体を想定し、グループ編成による役割分担で、健康人を対象とした給食運営の実習を行い、計画から評価まで一連を通して給食マネジメントを実践する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：給食経営管理実習Ⅱ	実習Ⅰで習得した給食管理技術に基づき、実習Ⅱでは応用編として、各種給食施設に応じた栄養・食事管理の展開をし、対象者別の栄養管理技術を習得する。個人の栄養調査を喫食状況調査で行い、実際の栄養摂取量の把握方法を学び、さらに栄養評価・判定を行う。また、納入から調理配膳までの作業工程の中で、品質管理・作業管理・衛生管理・温度管理を重点的に行い、経営の評価・判定へと進める。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：給食実務論	毎週冒頭にて前週・前々週の講義内容についての小テストを実施したが、学生に復習させ、理解を深める事につながったと考える。小テストでできなかった問題をその日のうちに授業スライド等をみて復習できるよう小テストは問題をプリントで配布し、解答はWebClassに入力させた。答え合わせを希望する学生もいたことから、次年度以降はコロナ禍以前のようにプリントでテストを実施し、自己採点させる方式に戻すことも検討する。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：給食経営管理学	定期的に復習させることを目的に、4講ごとに確認テストを行った。確認テスト直後に授業スライドを用いて解説・自己採点をさせた。確認テストは各講のポイントを中心に復習できるよう作成し、定期試験対策としても使えるよう工夫した。確認テストを行うことで配信したスライド等を丁寧に見て復習する習慣がついたのではないかと考える。病院や福祉施設などに関係する法律や通達等の必要な部分はWebClassで資料として配信し、実際の法規等も原文に触れるようにし、根拠を確認するように心がけた。しかしすべての資料に授業内で触れることは時間的に難しく、課題が残った。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：給食経営管理実習Ⅰ	大量調理は1つの料理を一人が最初から最後まで担当するのではなく、作業区分ごとに分担して調理を行う。学生にとって大量調理は初めてであり、本実習では作業手順や大量調理機器の操作の修得を目標としていることから、実習では汚染区域担当と清潔区域担当を週ごとに交替し、各自両方の作業を体験し、作業全体を見ることができるよう配慮した。また調理実習の前週には当日の作業の流れに沿って、調理操作や機器の使用法について説明し、当日のイメージトレーニングを試みた。今年度はグループ内での情報の共有がうまくできず、帳票作成に時間がかかってしまった。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：給食経営管理実習Ⅱ	今年度も使い捨て容器を使用した弁当方式での実習となり、昨年に引き続き健康栄養学科の教員に検査に協力いただいたことが、学生にとって大きな励みとなった。実習の事前準備については、臨地実習で多く出される献立作成の課題にも対応できるよう、調味濃度の確認を念入りにし、味付けについてはできる範囲で実際に調味料を混ぜて味見をさせるなど、試作の習慣をつけるよう心掛けた。新型コロナウイルス感染症も5類へ移行したことも鑑み、次年度以降他学年へ食券販売を再開し、自己満足で終わるのではなく、喫食者からの評価をきちんと得られるようにし、PDCAサイクルを回せるようにする必要がある。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	日本栄養改善学会学術総会 参加 日本給食経営管理学会学術総会 参加 日本給食経営管理学会研修会の受講 日本栄養士会研究教育事業部リーダー研修会 受講
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

給食実務論で食事計画力アップのため、毎週期間献立を作成したことで、料理に対する関心を深めることができた。しかし食材のポーションサイズや基本的な調味濃度が身についていないため、食事計画論・臨地実習指導とも連携を取りながら学生の献立作成に対する苦手意識を少しでも取り払えるような教材の開発を試みる。	
---	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 伊東宣明
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザー向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、「現代美術」「映像表現」「障害のある人の創作活動」「展覧会企画」という専門性から、主に「映像メディアコース」「メディアデザインコース」の授業を担当しています。 ①生きるための教育であること 私は今まで色々な教育現場で働いてきましたが、そこでは常にただ「知識」を伝達するのではなく、常にどのような職場・制作でも実践的で使える力を育成できるように指導をしてきました。 専門的な知識や技術の習得だけでは、本当の意味での社会で活躍できる人間になれるとは思っていません。芸術的感性を磨くための世界の捉え方や新しい知識の吸収の仕方、人と共に働くためのルールの伝授など、常に生きるための教育であることを心がけています。 ②私自身が学生にとっての居場所であること 若い世代はさまざまな悩みに直面し、時には大学に通うことも困難な場合があります。そのような時に「私自身が学生にとっての居場所である」という姿勢を心がけております。大学に通えない学生には連絡を取り、私自身のプロジェクトに協力したり、イベントやアルバイトに参加するよう促しております。その間、学生の些細な悩みにも真摯に耳を傾け、誠実に向き合い、一緒に考えることを心がけております。そして、学生たちを「見放さない」ことを大切にしております。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：芸術	近年、ビジネスでは「現代美術を鑑賞・理解し、意見が言える」ことが重視され、多くの関連書籍が販売されています。その中で、常套の逃げ文句のあった「芸術はわからない」という言葉を使わないため、「芸術を読み解くための」講義＋多様なワークショップを行いました。 具体的には、「思考」を書き続けるワークショップ、「抽象画」を下記つづけるワークショップ、まずは「形」をつくってからアイデアを作るワークショップ、歌謡曲・CMや映像の意味を読み取るワークショップ等、アーティストの思考方法やプロセスを辿ることで、「芸術を読み解く」力を育成しました。
2.教育活動や教育業績 科目名②：映像制作演習1	映像編集は、アプリ等の進化によって、いつでも誰でも容易に行うことができるようになりました。しかしながら、多くの場合、ただ映像のカットとカットを「つなぐだけ」に終始している状態です。 映像編集で生まれる力である、「グリフィス・モンタージュ」と「エイゼンシュテイン・モンタージュ」を、理論面での講義と実践面を行いました。映像編集の古典的な理論・手法ですが、あらゆる制作に応用できる、その絶大な力を学生自身が身につけることを目的としてました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：マルチメディア	実践的な映像技術を身につけるため「マルチメディア」では「（教育系）YOUTUBERになろう」という内容を行いました。本科は教職科目であることもあり、YOUTUBEやオンデマンドでの教育系映像、広報の映像が作れるようになること目標としました。 プロセスとしては、「嘘のドキュメンタリー」を作るところから、映像自体が持つフィクションの力を認識し、「（教育系）YOUTUBER」になるため、テロップや効果音・音声等、普段視聴時には意識しない箇所を重点的に行うことで、実践的な映像制作を学ぶことを目的とし、多くの学生が様々な教育系YOUTUBEの作成を行いました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：基礎演習	映像とデザインを学びたい人2年向けの基礎ゼミということもあり、学生ができるだけ興味がもてるようカリキュラムを組みました。具体的には「バズ研」と称して、SNS上で流行っている映像加工技術で構成されたバズ映像を一旦模倣し、模倣した上で自作品へと転化させるプログラムを組みました。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：芸術	「ワークショップが楽しかった」「すべてがよかった」「芸術たのしい」「様々な学習方法で楽しかった」「最初は行きたくない授業だと思っていたけど、途中から自然と自分の将来のためになると感じ、興味を持たせてくれる授業だった」等、多くのワークショップや講義を重ねることで概ね好評でした。本来の目的であった「芸術はわからない」という言葉を使わないための学習を行えたと思います。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：映像制作演習1	「色々と工夫してどんどん動画のクオリティを上げていくのが楽しかったです」「映像の基礎を学ぶことができた」等、映像編集は、ただ「つなぐ」だけでないことをしっかりと理解できたと思います。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：マルチメディア	「一人一人の受講者に向けての投げかけもあって意識して取り組める」「映像作りの基礎から学べた」「映像の面だけでなく、今後の人生に活かすことことを多く教えてもらった」等、学生が授業をつうじ広く学びを得たと思われます。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：基礎演習	学生は自発的に「どう作成されたか？」を読み解くことで、自由に制作し、自分自身のスキルとしていきました。また、何度も同じ映像をやり直すことで学生の意識が向上し、細かな面所に気を配ることができるようになっていきました。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	全ての授業で学内学習サイトであるWEBCLASSを通じての学生から質問の受付、全回答（翌週口頭読み上げやPDFでの文字での回答配布）を徹底しています。質問全回答を行うことで授業内の不明な点や、不満の解消を随時行いました。また授業内容に絡めて、就活や卒業後の仕事に役にたつスキルも伝えており、そのことで人間関係の構築や最終的な数値に反映されたと思われます。また、高大連携「稲沢緑風館高等学校ドキュメンタリープロジェクト」で国府宮はだか祭りに奉納する高校生を約一年にわたりドキュメンタリーの撮影を行いました。撮影は学生有志があつまり、私の撮影を同行することで実践的な撮影スキルを身につけました。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

本年度からの本学着任ということもあり、学生となるべくコミュニケーションをとることに重点を置きました。授業だけでなく、高大連携「稲沢緑風館高等学校ドキュメンタリープロジェクト」で学生と共に撮影を行いました。 徐々にではありますが、自身の教育理念である「①生きるための教育であること」「②私自身が学生にとっての居場所であること」は、授業や演習を通じ実践し始めたと思います。 令和6年度は演習ゼミも本格的に始まることもあり、ただ教える/教わるという関係に終始するのではなく学生と並走することで、共に成長することを目標といたします。	
--	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 岩橋 涼
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

食を学ぶにあたっては、国内外の社会的・経済的課題と関連づけ、食を多面的に捉えることが重要である。そして、毎日の食事や買い物といった日常の行動が世界の食をめぐる動向と結びついていることを理解する必要があると考える。教育活動においては、これらの点を重視して授業をおこなうことを心がけている。講義では、身近な食の話題からグローバルな食料システムに関する諸問題まで理解を深めることで、フードビジネスの専門領域に関する知識を身につけるとともに、社会の発展に貢献するための倫理観や責任感を養うことをめざす。また、国内外で生じている食に関する諸問題については、学生がまず問題への理解を深め、そのうえで問題解決のための方策を考え、実践する能力を身につけることを重視する。授業ではグループワークや発表およびディスカッションを導入し、学生が自らの考えを発信し、他者との意見交換ができる機会を提供する。それらを通じて、さらに深い考察を促すとともに、コミュニケーション力を高めることをめざす。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品流通論	2年生の授業である食品流通論では、導入として普段食べているものがどのように届くのかを前日の夕食のメニューから考えさせるなど、食品流通に関わる仕組みや基礎理論への理解がしやすいような授業構成を意識している。また、定期試験以外に複数回的小テストを実施し、知識の定着を図っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品貿易論	食品貿易論では、グローバルな視点から食料・農業の現状に対する理解を深めるため、とうもろこしや小麦といった具体的な農産物を取り上げたり、海外のドキュメンタリー映画を視聴するなどの取り組みをおこなっている。また、グループワークを取り入れて学生同士が考えを述べたり意見交換する機会を設けている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食品産業論	食品産業論は3年後期の選択科目である。食品産業に関する理解を深めるとともに、これまでの学びをふまえてフードビジネスおよび食をめぐる諸問題に対して自らの考えを論理的に述べられるようになることをめざす。レポート課題では、よりよいレポート作成をめざすため、こちらからテーマを与えるだけでなく、問いの立て方やレポートの構成などを説明する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習	専門演習では食の生産部門への理解を深めることを目的としている。具体的には農業をテーマとして、農業に関する統計資料からデータを読み取り、グラフ化して比較・検討をおこなう。データに基づいて地域農業の現状を知るとともに、複数地域を比較することで共通点や相違点を考察する。また、発表の機会を取り入れ、ディスカッションを積極的におこなう。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：食品流通論	アンケート結果はおおむね良好であり、自由記述では「スライドの内容や説明がわかりやすかった」「ノートにまとめやすかった」などの意見があげられた。ただ、中には課題が十分に理解できなかったという学生もいたので丁寧な説明を心がけたい。小テストを計3回実施したが、しっかり勉強して取り組んだ学生は学んだ内容を整理できたと言っている一方、勉強が甘かった、もっと勉強すればよかったという反省点を述べている学生もいた。小テストの実施は今後も継続し、毎回しっかり勉強するよう促していきたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食品貿易論	令和5年度は14名と少ない人数であったが、アンケート結果は概ね良好であった。また、エシカル消費に関して具体的な商品や題材にグループワークを実施したことについて、話し合いができたことがよかったという意見があり、今後も継続していきたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食品産業論	アンケート結果は概ね良好であったが、令和5年度から取り入れたレポート作成方法に関する内容については、提出された最終レポートを見る限り、何人かはこちらの意図を理解できていないようだった。次年度はより充実したレポートを書けるよう、丁寧な説明を心がけ、フィードバック等で理解度を高めていきたい。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：専門演習	専門演習は令和5年度にはじめて担当した。授業評価アンケートの対象外であるため、自己省察のみおこなう。統計資料の閲覧とグラフ化は細かい作業であったが、それぞれが丁寧に取り組んでいた。他地域との比較についても大まかなものであるが、データをもとに考察するという取り組みができたと思う。また、発表のスライド作成は学生の主体性に任せた部分もあったが、各自が自分なりの方法で作成しており、自分の考えを表現する機会として重要であることがわかった。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	講義科目で実施された授業アンケートの自由記述をふまえて、授業内容の改善・充実を図っている。具体的には、授業で課題に取り組む時間をもう少し欲しいという意見があったが、早く終えてしまう学生もいるため、じっくり考えたい学生には提出期限に余裕を持たせるようにした。また、学生の理解を促すため授業内容に関連する短い動画の視聴を取り入れているが、わかりやすいと好評であることから、今後も継続させていく。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度に担当した講義科目では、授業評価アンケートや学生の授業中の様子、最終課題等をみる限り、授業の組み立てや取り組みの方向性は良かったと考えている。ただし、学生によって差があるため、今後もより多くの学生の主体的な学びを促す授業づくりを心がけたい。また、演習では、生協や農協の店舗見学をおこない、働いている職員から説明を受けたり、直接質問できる機会を設定した。学生にとっては、食に関わる現場を知る大変貴重な経験であったと考える。
令和6年度は、講義内容の大枠はそのまま、一部のトピックでは最新のものや学生の興味・関心に沿ったものへの変更をおこなう。受講生の人数にもよるが、グループワークを積極的に取り入れて、自分の考えを他者に伝えること、他者の考えを聞いて話し合う機会を充実させたい。また、学生自身が自らの考えを文章として論理的に表現できるよう、文章を読む機会や書く機会を取り入れたい。この点については、演習を中心に、可能であれば講義のレポート課題でも実施したいと考えている。演習については、令和5年度は2年と3年の担当だったが、令和6年度は3年と4年を担当することになり、継続して受講している学生が多い。したがって、さらに発展的な学びにつながるよう、特に4年生の卒業演習については卒業研究として卒論等の成果を出すための指導をしていきたい。また、3年生については、食の現場を知る、食の現場で働く人に話を聞くといったフィールドワークの機会を設定することで、座学だけでなく実践面の理解を深められるようにしたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 内田 英伸
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザー向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

・地域の食材の長所と短所について自ら考える力を養わせる。 ・機能性栄養素に対する理解を深め、新たな研究成果を生み出し、発表することで、食による健康維持を考究させる。 ・人との交友関係を大切にし、他人に信頼され、各所に人脈を開拓し、実行力のある組織のリーダーになるように努力させる。 ・志を高く持ち、長期展望を抱きつつ、日々、学修、自己研鑽を続けることのできる人材を育成する。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品学実験	・モルの計算、ガラス器具の洗浄、プラスチックウエアの滅菌、微生物の顕微鏡観察、中和滴定、酸化還元滴定 ・試薬の調製方法、食品添加物の酸化還元反応、無菌処理、顕微鏡の取り扱い法を理解させる ・実験の結果の観察、集計と相殺 ・プレゼンテーションの体験
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品表示	・検定試験問題集の反復演習（ウェブクラスのクイズ、復習のプリント、小テスト、期末テスト） ・学内外の検定試験合格者の職の傾向を解説 ・課題プリントへの朱書き、返却、手渡しで学生の顔を覚える ・初級検定の団体申込（11月）、中級検定の受験勧誘（11月、翌年6月）、希望者に個別指導 ・webclass対策講座（夏休み、直前の個別学習）
3.教育活動や教育業績 科目名③：統計処理	・分散と標準偏差、確率分布のいろいろ、回帰分析、統計的解析の手法 ・ノンパラメトリック検定とフードビジネス、官能評価について概説 ・例題のオンデマンド解説、エクセル課題の解答と提出 ・提出課題への朱書き、返却で学生の顔を覚える ・課題プリントを2穴パンチ、綴じ紐で綴じ、整理、提出
4.教育活動や教育業績 科目名④：食品安全学	・フードスペシャリスト検定試験問題集の反復演習（ウェブクラスのクイズ、復習のプリント、小テスト、期末テスト） ・細胞の構造、微生物の不活化を解説し、食中毒の生物学的メカニズムを理解させ、HACCPによる衛生管理ができるよう指導する ・高校レベルの生物、化学の復習、洗剤、食品添加物、汚染物質の動態について解説 ・ISO22000、FSSCの規格について知り、企業における認証取得の例を学ぶ
5.教育活動や教育業績 科目名⑤：加工食品学	・モル濃度を通し、塩蔵、糖増の違いを理解させ、浸透圧を学ぶことで、膜濃縮を理解させる ・食品発酵の多様性を理解させる ・水分活性の定義を解説、保蔵性と腐敗防止について学ばせる ・ビール工場、ヨーグルト工場、お酢工場、かまぼこ工場について学ばせる ・食品添加物の利点、欠点を学ばせる

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：食品学実験	・すべての質問項目の評定点は4点が最多となり、昨年度より学生の全般的評価が改善した。 ・「動画があがっていることを途中で知らなかった」というコメントがあった。そのため、予習として動画を活用するよう、最初の週にアナウンスをするようにしたい。「事前に今回行う実験動画がwebclassにあげられている」、「事前に動画を見て実験方法を紙にまとめてから実験をおこない、いつもよりスムーズに出来た」というコメントもあったことから、まじめな学生はビデオでの予習ができていたと思われるが、来年度は、確実に周知させたい。「たまた理解できないまま、なんとなく実験してしまうことがあった」、「何のためにしている実験なのか理解できない時があった」という受け身に学生にも、ビデオでの予習を促し、積極的な取り組みを促したい。 ・「働く人と働かない人のバランスが取れたグループ編成にして欲しい。」というコメントがあったが、最初の数回の学生の様子を見て、中野先生に班の構成をチェックしてもらった。このように、対人関係に問題を抱えた学生が同一の班に入らないよう配慮したので、コメントのレベルであったなら、我慢をしてもらいたいと思う。3、4年生と2年生が混ざった班には、協力して実験操作をするよう、こまめに声をかけたつもりであるが、本科目は再履修生が多くやむをえないことではないだろうか。「日頃に体験できないところも実験を通してやることができた」、「日頃から使わない器具や、実験をすることで、商品との関連、商品開発に対してもつながる」というコメントがあった。実験を通し、初めて体験することで学習することは大きな進歩であり、それは、話したことのない上級生、下級生と共同作業をすることにおいても同様であろう。座学では体得できない重要なものを学びとっていることを、しっかりと伝えたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食品表示	・両時間とも学生の評価点は4点が最多になり、昨年度より評価が改善した。 ・「もう少しはっきりとした言葉で授業を」というコメントが昨年同様に1件あった。口ごもるところは、昔からの欠点ではあるが、コロナ対策でマスクを着用していたことが原因と思われる。来年度以降、マスクをとり大きな声で話したい。 ・「資格を取得できるよう（中略）取り組みました」というコメントから、食品表示診断士の資格の取得に対する学生のニーズが高いことが伺われた。ウェブクラスのクイズ、レポート、小テスト、定期テストと繰り返し問題演習を行い、過去問に対するパターン認識力を磨かせ、検定での合格点取得をめざす方針が合っているのではないかと。 ・アンケート回収率は水曜2限で低めであった。この原因であるが、このクラスのメンバーは学籍番号の後ろ側の組であり、食品学実験と同様、遅刻・早退する学生が多かったことが一因であったと思われる。ユニバーサルパスポートで遅刻、早退というボタンをこまめにつけ学生管理をしっかりするより、遅刻してきた学生に対し、小テスト・定期テストで正解を覚えてくるよう、声をかけてきた。逆に、まじめに出席していた学生でも、テストの点の低い学生にはCを付け、厳しく指導した。検定試験同様、持ち込み資料なしで正解できるよう、繰り返し指導した。アンケート提出をしっかり周知するため、来年度は、第12週以降（定期テスト対策の時期、小テストの時期）に繰り返しアナウンスをしたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：統計処理	今年は、昨年に比べ、履修数が多かったが、学生からの評価は概ね良かった。3年生、2年生ともに履修登録数が十分あり、課題の分からないところは、まず、隣の級友に聞くよう指導したことが良かったと思われる。理解度の評定が3.0で少し低めであった。学生のコメントから、課題の難しいところへの個別対応に気を取られた際、クラス全体への説明が途絶えがちであったのが分かった。来年度は、個別対応の際にも、全体への説明を絶やさないよう配慮したい。しかしながら、この評定点の標準偏差は最大であり、学生ごとのばらつきが大きかったことが分かる。欠席、遅刻が多く、十分理解しようとせずにレポートを提出する学生が若干名いたことも原因となった可能性がある。アンケートの回収率は63%であり、昨年の33%より改善した。このことは学生とのコミュニケーションが良くなったことを反映した結果であると思う。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：食品安全学	月曜1限のコマの評点は概ね3.3程度以上で、学生の評価が良かった。「理解度」についての評点は昨年と同じレベルであったが、今年はアンケートの回収率が73.3%、69.6%と昨年より上がり、授業参加の意欲のある学生が増えたのではないかとと思われる。また、「板書の字が読みにくい」というコメントがあった。振り返ってみると、青色マーカーの板書が多く、また、インクががすけていた回もあった。来年度は、黒色を多用し、補充インクを切らさないようにしたい。今年は、前の時限の統計実習の時間が伸びたり、休み明けの1限に時間割が組まれたので、講義資料の誤植訂正が間に合わなかったり、書画カメラとPCモニターの切り替わりに気づかず解説したことがあった。来年度は、余裕をもって教室に向かうようにしたい。 他学科からの受講生の一人から、「分からないことが多かった」コメントがあった。他学科の4名の内、成績の優秀な2名と卒業のかかった4年生はこまめに声をかけていた。その一方、他の1名は、3年であり、クラスに一人の他学科性であった。コメントはこの学生からのコメントかと思われる。この学生は、周囲に友達が居なく心細かったのかかもしれない。出席率は良かった学生なので、こまめに声をかけておくべきだったかもしれない。来年度は、他学科生に話をする時間を十分取りたい。学生のコメントから、ウェブクラスのクイズ、穴埋めプリント、プリントの採点・返却、小テスト、期末テストで、反復して学習する体制が軌道にのっているものと判断した。持ち込み禁止で期末テストを実施するのは、学生への負担が大きいのではないかと心配したが、内容を繰り返し学習することで、資料無しで回答することへの抵抗感が下がり、フードスペシャリストの資格試験対策が確実にになったと理解している。
5.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名⑤：加工食品学	この科目では安全学のように検定資格の受験を意識せず、化学・生物学の原理を解説し、課題を考えさせるようにした。さらに、今年は、食品会社の幹部になった高校時代の知り合いの事例を話し、交友関係の大切さ、長期的なビジョン・目標の設定の大切さを伝えた。元々この科目は、教科書の記述量も多く、学生には難しい内容であるが、話が脱線した際に、志を高くもこの大切さを伝え続けた。意欲のある学生には自分の担当ゼミへの参加、オフィスアワーへの来室を促した。本年度は、余裕をもって授業に臨めたと思う。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・食品学実験で質問をしてくる学生に、自分のゼミでやっている理科実験を紹介している。 ・食品表示では、授業と別にウェブクラスに検定試験対策講座を設置している。そこでは、授業で扱っていない中級レベルの問題の掲載を増やしている。 ・出席率の低い学生には、レポート返却時に、個別に、ウェブクラス課題への入力、筆記課題の提出を促して、定期試験以外の加点が上がるようにした。卒業のかかった学生には、繰り返し、補習課題を提示し、D判定とならないようにした。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の成果	・2023年度食品表示検定表彰、学校関連の部、初級2位、中級3位 表彰 ・日本理科教育学会第73回全国大会（高知大会）発表（2023年9月23日） 動画教材の開発_PCR (polymerase chain reaction)によるモチ米・ウルチ米の識別(1/3)～ゲノムDNAの抽出～ 内田美重、コンタウィクリスティンアイコ、呂虹橋、○内田英伸 発表論文集p.221 ・日本理科教育学会 第69回東海支部大会発表(2023年12月9日) 動画教材の開発_PCR (polymerase chain reaction)によるモチ米・ウルチ米の識別(2/3)～PCRによるモチ米特異的DNAの増幅～ 内田英伸・内田美重・呂虹橋・コンタウィクリスティンアイコ・山田昂汰・脇田結理・齊藤磨佑 発表論文集p.73
令和6年度の目標	・食品学実験では、ビデオ予習の周知をこまめに行いたい。 ・食品表示では、「常にあやふやのまま授業が進んで（中略）もっと教科書に沿った説明などをしてほしかった」というコメントがあった。検定試験対策は教科書の隅々までよく理解する必要がある。しかし、実例を示すことも必要であるため、バランスを考えたい。例えば、脂肪含量が違う食品の場合、アイスクリーム、アイスマルク、ラクトアイス、氷菓と名称が変わり、その協会は乳脂肪分や乳固形分のパーセント数によるのであるが、講義ではその数値を細かく解説せず、演習問題の事例での正誤を説明した。学生はゼロから食品表示を学習し、まず、初級の検定を受けるため、細かく解説するより大枠になれてもらうよう判断した。一部の優秀な学生には十分な満足感をあたえられなかったかもしれない。実際、授業開始前に、すでに初級検定に合格していた学生がいた。他の学生には、自分のクラスに合格している学生がいることを認識させ、奮起して勉強させたかった。今年度、優秀な学生には、個別に声をかけ、早めの検定受験を指導していたが、来年度は、内田ゼミに参加し、食品表示の調査研究に参画するよう促したい。 ・前述のとおり、声が通るようにマイク音量に気をつけるとともに、学生とのコミュニケーションを十分図りたい。また、余裕をもった授業準備をこころがけたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：大矢 信吾
------	-------------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

写真撮影に関する基礎的な理論とその撮影技術を中心とした具体的なフォトグラフィーを学びます。芸術的感性を活かすための、被写界深度、シャッタースピードからはじまり色彩などについての基礎的な活用スキルを身につけることで自己表現の幅を広げます。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：写真技術	スマホのカメラ機能の発達に伴い、昨今は綺麗な写真をほとんど技術を必要とせず撮影することができるようになっている。本講はそういった現状も踏まえ、メディア系の学部として、写真撮影についての理論とそれを理解するための写真撮影の実習を併せて行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：	
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：写真技術	授業評価アンケート結果の中で、理解度の数値が3.27と概ね3と4に集中、つまり理解されている傾向が見られる。当初の理解の目標には至っているのではないかと考える。しかしながら、課題として課している自ら撮影した写真（実際の課題答案相当）では全体の傾向として、題意に沿ったものがある一方で、そうでないものも散見された。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：	
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	撮影機材を大学配布のiPadのみと限定をした。これは、撮影機材が異なると、ボケ具合、オート機能の差、など撮影機材に由来する結果から授業で意図した知識が得られないことがあるからである（この辺りもなかなか理解されなかったことがあった）。また学生自身がカメラ機材を所有するのが稀であることと、もし手持ちのカメラで撮影する際にも本講義で得られる知識や技術は十二分に応用が可能であることなども考慮した。 また、課題答案を自身で撮影することなく、容易に複製するなどして受講生間でやり取り（いわゆる答案をやりとりしたカンニング）を試みる学生もあった。そこで課題提出期限や条件を厳密に決め、このような事象の発生を抑制した。加えて課題内容は生成AI対策も含むものとした。これらにより、所謂遑っ付け仕事のような答案の防止につながった。 理論に基づく撮影はほとんどの学生が馴染みがないと思われるので、実習中の質問には極力答えるよう、受講生と共に撮影現場（キャンパス内）で撮影を行い同条件の下での作例も示した。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

本講は理論と実戦（撮影）とを複合し実施している。科目名から写真を撮るだけが目的としばしば誤解をしてしまう学生が見られる。しかし、現実の撮影では理論的裏付けが最重要であって、特にISO感度、絞り、シャッタースピード優先オート機能の制御概念や仕組みなどは理解しておく必要がある。実習は得られた知識をもとに実践の上理解を深めるという位置付けになる。 前述の通り、理論に基づく撮影はほとんどの学生が馴染みがないため、実習中の撮影技法に関する質問には極力答え、さらに受講生と共に撮影現場において同条件下で撮影を行いリアルタイムで作例を示した。このことにより、理解を深めた、あるいは意図したフォトグラフィーが身を付けた例が見られた。しかしながら、受講生の中には、解説を聞くことなしにSNSに写真をアップロードする際のように単に写真を撮ってそれを提出しするのみで終わる学生も少なくなかった。理論的裏付けのある（クオリティーの高い）写真を制作するための本講の趣旨をいかに受講生に周知するかが重要な課題である。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：准教授	氏名：岡田 有司
------	-----------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーズ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

管理栄養士養成課程専門科目である「臨床栄養学」担当教員として、主として医療機関で活躍できる管理栄養士になれる学生教育を行うこと。 管理栄養士の対象者は「ヒト」であるが「臨床栄養（学）」の対象者は傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」であるため、学生には第一に正常な「ヒト」を理解した上で「臨床栄養（学）」に対象者である傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」を理解することを学生に求めています。 そのため学生には対患者の対応ができるように知識・技術の教育を行っています。 管理栄養士（もしくは管理栄養士養成課程の学生）は他の医療従事者（その職種の養成校の学生）との「臨床的」な認識の違いがあることを自身は実務経験・他大学での非常勤講師の経験から自覚しており、他の医療職の考え方を学生に伝えることが卒前教育が必要であると考えています。 管理栄養士国家試験での出題問題数が多く、最低限国家試験に必要な知識は覚えるように教育を行っています。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：病態栄養学Ⅰ	「臨床栄養学」分野の基礎となる傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」の栄養評価を主として教育する科目であるため、正常な「ヒト」の解剖学や生理学、生化学、栄養学の復習を行いながら授業を展開しました。この復習は受講生に質問を行いながら、授業に緊張感を持たせながら授業展開を行いました。 また臨床栄養管理実習Ⅰとの連携を意識して授業展開を行いました。
2.教育活動や教育業績 科目名②：臨床栄養管理実習Ⅰ	病態栄養学Ⅰとの連携を自身も意識し、受講生にも意識させるように授業展開を行いました。 傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」の栄養評価を教授するため、医療従事者として栄養学だけではなく医療従事者として傷病者・患者・利用者进行评估することを意識する授業展開を行いました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：病態栄養学Ⅰ	学生からはおおむね良好な結果を得たと考えます。 教科書と実務の乖離があるため、教科書を使わない（使えない）授業回があり、この点は次年度の授業展開につなげたいと考えております。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：臨床栄養管理実習Ⅰ	学生からはおおむね良好な結果を得たと考えます。 今後受講生に何度も行ってもらうことが必要な基本的な項目があり、受講生への課題が多くなったことは改善の余地があると考えております。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「授業がおこなわれているその時」実臨床で行われている業務、必要とされている知識・技術を自身が学会などで情報収集し、授業に活かせたと考えております。 座学では毎回アクションペーパーの提出を受講生に求め、知識だけではなく「その場」で考えさせるように授業を行いました。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

後期のみでしたが管理栄養士養成校用の授業資料、課題資料を作成することができた。 令和6年度は令和5年度の授業評価アンケート結果や自身の反省点を授業に取り入れていきたいと考えております。 また関連科目との「つながり」を意識した授業を行う計画を立てています。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：落合洋文
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育センターとしては（１）学生と教員がともに楽しく学べること、（２）大学らしく、高校までには経験したことのない創造的な学びの場を提供すること、（３）教員も学生もひとりの人間としてお互いを尊重すること、の3つを教育理念としています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：数的処理Ⅰ・Ⅱ	公式を覚えて使う式の数学教育ではなく、自然現象や社会現象の理解を深めるため、数値を使って想像する力を養うことを目標としています。数理モデルの作成や利用はその具体例です。またこの科目では1人で考えるのではなく、グループで話し合い協力して1つの課題に取り組むグループ学習を基本としています。グループでの討議を助けるため、2～3人の教員で授業を運営します。本学の取り組みは科研費研究「高水準数学リテラシー概念下での大学数学教育の実践」などにおいて文系数学の好ましい実践例として評価されています。
2.教育活動や教育業績 科目名②：日本語Ⅰ・Ⅱ	日本語という言語の特性を踏まえて、論理的に考えること、言外を読むこと、明快に説明すること等々に係る力を身につけることを目標としています。学科の学修内容にも考慮し、例えば情報メディア学科では特化型AIの企画書作成を課題とし、グループで話し合い協力して企画書を完成させる過程で上記の目標に近づくように指導しています。グループでの討議を助けるため、2～3人の教員で授業を運営します。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎理化学実験	初めて理化学実験を学ぶ学生のために、安全教育からはじめて、実験器具の扱い方や基本的な操作の要点、レポートの書き方などを指導します。実験は4人一組の班で行い、協力してデータ処理などを行います。レポートは1つの実験ごとに提出してもらい、その都度添削して返却します。
4.教育活動や教育業績 科目名④：自然科学Ⅱ（化学）	管理栄養士課程で学ぶ栄養学や生化学の基礎となる化学的知識を学ぶ科目であるため、講義の後で必ず演習の時間を設け、問題を解くことで理解を深めるようにしています。演習の時間には質問に答えながら、クラス全員で要点の理解を共有するようにしています。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：数的処理Ⅰ・Ⅱ	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：日本語力Ⅰ・Ⅱ	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：基礎理化学実験	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：自然科学Ⅱ（化学）	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。演習問題を初回の授業で配布して何度も繰り返し同じ問題を解くことで理解度が高まっているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	数的処理Ⅰ・Ⅱでは数理データサイエンスに係る内容を強化するため、数理モデルを用いる自然現象、社会現象のモデル化の比重を高めた。全国の大学で始まっているAI・数理データサイエンス教育プログラムにおいて数理に係る部分の実践例や教材が少ないという指摘が数学関係者からあがっているが、本学は豊富な教材をもっており、他大学にも供給しているほどである。また令和5年8月にはこのような問題に取り組む大学、高専の教員を対象として、数理モデル教材の作成ワークショップを開催し、講師を務めた。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年8月には数理データサイエンス教育に取り組む大学、高専の数学教員を対象として、数理モデル教材の作成ワークショップを開催し、講師を務めた。また数理モデル教材の作成法や作成例を雑誌月刊「化学」に「実践数理データサイエンス」として連載している（令和6年12月まで）。令和6年は、新規採用の助手を迎え、AI・数理データサイエンス教育における数理モデルの活用を強化する。また日本語力では日本語の特性を生かして、日本語で考える、説明する力を強化する方法について、基礎的な研究と授業実践を組み合わせることで実用に耐える日本語教材の開発を目指す。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：景山 節
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

学生は、若い世代であり、様々な才能が伸びていく可能性をもっている。それぞれの学生のもつ能力が最大限に発揮できるような教育が理想であり、それを目指している。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：生化学I、II（講義）	管理栄養士あるいは栄養士の養成では、食べたものが体内でどのように変化していくのかが、最も基本的なことであり、それを授業内で理解できるようにしている。具体的には、教科書に加えて、Webclassを利用して授業内容の資料を配信すること、また各回の授業において復習として練習問題を解いてレポートとして提出させるようにしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：	
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：生化学I	2つのクラスにおける理解度は、3.25、3.67であり、満足度は3.25、3.56であった。この結果は、過去3年間での比較では、理解度は3.48,3.28→3.59,3.53→3.25、3.67で、満足度は3.57、3.39→3.56、3.53→3.25、3.56であった。1限授業の理解度、満足度ともに低い結果となった。クラスによる差についてはよく分からないが、講義内容や講義方法はほぼ同じであるので、1限のクラスが集中度の低い、まとまりがないなど、クラスに起因するものとも思われる。期末試験の平均点は、1限のクラスが5点低い結果となっている。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：生化学II	理解度は、3.65 3.64であり、満足度は3.52 3.68であった。この結果は過去3年間の同じ授業の変化では、理解度が3.57→3.58→3.65、3.27→3.37→3.64で、満足度は3.74→3.65→3.52、3.40→3.43→3.68なので、年次ごとに少し高くなっている評価と言える。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業の要点をまとめたファイル講義プリントとして、また問題ファイルを学修プリントとして、Webclassに配信した。この2つのファイルを使うことで学生が自宅での学修や授業内での学修に取り掛かりやすかったのではないかと思われる。プリントに関しては、勉強に効果があるようでプラスに評価している意見が多かった。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

生化学の化学的な内容を理解することは、栄養学を学ぶ基本として重要である。今後も学生が生化学を学修し理解を深めるために、授業に加えてweb配信を活用していく。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：加藤 清子
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

これまで約20年間、周産・女性診療科を受診している中高年女性に対し医師と協働し、栄養アセスメントに携わった経験がある。幾度も失敗や成功を繰り返しながら、長い経験を経て得られた臨床感覚であり、やりがいを感じていた。直接的に経験しなければわからないことも多いだろうが、私自身の臨床経験から栄養指導の実践を学んでいただく機会を提供したいと考えている。 20年近く前の自分自身を思い起こすと、個別の栄養アセスメントにおいて正確な食事内容の聴取、改善箇所の把握に一生懸命で、専門的知識を生かして患者さんの栄養状態を改善することを第一に考えていた。しかし、そのような方法では上手くいかない方も多いことに気づき、自分の至らない点を探し、焦っていた時期があった。先輩の栄養アセスメントにオブザーバーとして参加させてもらって気づきがあった。先輩は、心の扉を開いてもらえるように相手の話したいことに耳を傾け、そのうえで食事の話や運動の話をするという対話を大切にしていた。臨床栄養では、何かしら抱えている疾患がある患者さんと向き合うため、教科書的な話だけでは伝わらないと痛感した。そして栄養アセスメントをおこなう上で信頼関係が欠かせない。相手の心にお邪魔する気持ちで、お話を聴かせていただくということを心がけるようになり、現在の臨床実践につながっている。私が経験した、このような数々の失敗や成功体験を共有し、一人一人が個別の特徴と人格を持つ人間を対象にしているからこそ、機械的にはできない部分を学生に伝えたい。 本学が示す「管理栄養士に合格する」だけでなく「実践力のある管理栄養士」を目指すとのメッセージは、まさに自分がこれまでの学んできたことを伝えることによって果たせる役割があるのではないかと考えている。次世代の管理栄養士となる学生の学びの助けとなるよう教育に従事し、それぞれの学生さんがご自分の人生を歩み、将来的に仕事のやりがいをも実感できることを願っている。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養教育論Ⅲ	これまで「系統的健康・栄養教育プログラム」の研究データ収集（体組成や安静時代謝、血管年齢測定、体力測定、食事調査、心の健康状態調査）と分析に取り組んできた。「系統的健康・栄養教育プログラム」は、管理栄養士と医師が中心に、食生活、運動習慣の見直しを行い、更年期女性特有の健康問題を改善することを目的としている。約7000名の20年間の追跡したデータ収集をほぼ一人で担当し、医師の研究にも積極的に協力してきた。私自身も、栄養指導を改善していくため、「体組成の変動と食事摂取の変化との関連」、「高たんぱく質食と各種栄養素摂取状況、体組成との関連」等について検討し学会発表を行ってきた。近年では、不定愁訴の影響で運動ができていない更年期女性など、より特定の問題を持つ女性に特化した食に関する支援に力を入れて研究活動をおこなっていた。
2.教育活動や教育業績 科目名②：	
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養教育論Ⅲ	理解度に関しては、評価2以下は1名であり十分な理解度を得られたと考える。「スライドの見やすさ」「授業終盤の練習問題」は特に学生から高く評価されたことから、これらは理解を深めるのに役立ったと考えている。但し評価4では十分に高いとは言えないため、改善の余地ありと認識している。 その他の項目では「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」「教科書やプリントは授業の理解に役立った」「板書やモニター提示の仕方や内容が適切だった」「課題の量は適切であった」が高い評価であった。これらは授業をおこなう際に自ら留意していたことであり、これを評価された点は良かったと思うが、さらに改善点を探っていくつもりである。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：	
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	昨年9月教員の職に就いたばかりでもあり、授業の感触を得ると同時に改善点を見出すため、学生全員に対して毎回授業の終わりに「リアクションペーパー」の記入をお願いした。これにより授業中の照明の具合やスライドの文字の見やすさ、理解が難しかった箇所やわかりづらい点など、様々な率直な意見を聞くことができた。良い点については自身の励みとし、改善すべき点は即座に改善することで、逐次、授業内容の向上を図ってきた。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度では、「若年女性における女性ホルモンと食事摂取状況・体組成との関連についての検討」をテーマに文教大学 秋吉教授との共同研究計画をすすめてきた。現在のところ、研究対象者へ実施するアンケートの作成・準備を整えている。 そして、自身のスキルアップを図るため、学会参加や講習の受講を積極的に続けていく所存である。そこで得た最新の情報を授業内容に取り入れながらブラッシュアップを重ねていくと共に、従来からおこなってきた学生に寄り添った授業に磨きをかけていく。 また、参加型の授業時間を一部設けることで学習内容の理解がさらに深まるような取り組みにも挑戦する予定である。	
---	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：北川 絵里奈
------	-----------	-------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザー向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、管理栄養士として人々の健康の維持・増進に貢献したいという熱意を持った学生を育成したいと考えています。 私が担当している「栄養教育論」では、将来、管理栄養士として栄養教育するために必要な専門知識を教授しています。栄養教育の意義や目的、行動変容を促すための理論・モデル・概念、栄養カウンセリングの基本と技法、栄養ケア・マネジメント、多様な場における栄養教育の特徴など、事例をもとに具体的に分かりやすく伝えることを心掛けています。また、「栄養教育実習」では、栄養教育論で学んだ知識を活かし、医療・福祉・学校教育・産業保健・地域保健など多様な場での展開、多様な対象者への栄養管理、栄養教育の進め方など、実践を通して教授しています。本実習では、学生が対象者を設定して模擬の栄養教育を行うため、これまでに学んだ食・栄養・健康に関するなど様々な知識を活用します。 これらを学習する上で大切なことは、学生が管理栄養士として働く姿を想像し、能動的に授業に取り組むことだと思います。そのため、学生には「実践を意識して授業に取り組むこと」、「将来の自分を想像して授業に参加すること」、「授業内で見つかった反省点や課題を今後に活かすこと」など、繰り返し伝えています。また、学生のモチベーションが高まるように、今学んでいることが将来どのように役立つのかイメージできるように話したり、学生が主体的に学べるような授業をデザインしたり、有意義な授業ができるよう日々工夫しています。社会で活躍できるスキルを身につけた学生を育成するために、今度も努力していきます。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養教育論Ⅰ	栄養教育論Ⅰでは、対象者の健康の維持・増進やQOLの向上のために、行動変容を促すための行動科学理論や行動変容技法、カウンセリング技法などを教授している。 また、栄養教育のマネジメントサイクルの概要を説明し、実際に栄養ケア・マネジメントを行う方法を教授している。 主に教科書、授業スライド、配布資料などを用いた講義や、カウンセリング演習などのアクティブラーニングを行っている。 また、演習問題の実施や2回の小テストにより、学生の知識が定着するような授業の組み立てを行っている。 小テストおよび定期試験により、学生が到達目標を達成したか評価している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：栄養教育論Ⅱ	栄養教育論Ⅱでは、妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期・思春期、成人期、高齢期などの各ライフステージへの栄養教育の方法や支援のポイントなどを教授している。また、栄養教育の事例を参照してアセスメントを行い、栄養教育計画の立案、実施、評価、さらに再立案するという、一連の栄養教育の方法を教授している。主に教科書、授業スライド、配布資料などを用いた講義や、事例検討によるワークやディスカッションなどのアクティブラーニングを取り入れている。 講義の要点をまとめて提出する課題をライフステージごとに行っており、学生が講義の復習や知識の整理ができるようにしている。 課題提出および定期試験により、学生が到達目標を達成したか評価している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：栄養教育実習Ⅰ	栄養教育実習Ⅰでは、アセスメント、栄養教育計画の立案、実施、評価、再立案といった一連の栄養教育の方法を習得するために模擬の対象者を設定した栄養教育を実施している。前半は学生同士のペアワークにより、学生が管理栄養士と学習者の双方の役割を体験しながら、栄養教育に必要な資料作成やカウンセリングを行い、栄養教育マネジメントサイクルに沿った栄養教育を実践して身につけられるような組み立てとしている。後半はグループワークにより、各ライフステージの集団を対象とした模擬の栄養教育を行っている。対象者とテーマの設定、栄養教育計画・指導案の作成、指導に必要な教材・配布資料などの作成を班員と協力して行い、栄養教育を行うための実践力を養うような組み立てとしている。 レポート、プレゼンテーション、参加態度などにより総合的に成績評価を行っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：栄養教育実習Ⅱ	栄養教育実習Ⅱでは栄養教育実習Ⅰに引き続き、一連の栄養教育の方法を習得するために模擬の対象者を設定した栄養教育を実施している。前半はグループワークでライフスタイル別の個人指導を想定して、管理栄養士役と対象者役のロールプレイングによる栄養教育のプレゼンテーションを行っている。対象者のライフスタイル、身体状況、食事状況などを設定し、食生活の課題を抽出し、栄養教育計画・指導案の立案、栄養教育の実施、評価を通して、対象者に寄り添った教育方法を学べる組み立てとしている。後半は個人ワークにより、集団を対象とした栄養教育のプレゼンテーションを実施している。これまでに学んだことを活かし、対象者・テーマの設定、指導案・教材・資料の作成、栄養教育の実施を学生が個人で行い、さらに学生同士の相互評価や栄養教育計画の再立案を行い、関連した知識や技術を統合できるような構成としている。 レポート、プレゼンテーション、参加態度などにより総合的に成績評価を行っている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養教育論Ⅰ	・授業の理解度は2Aクラスが3.56、2Bクラスが3.68（大学平均3.48）、満足度は2Aクラスが3.70、2Bクラスが3.75（大学平均3.55）であり、いずれも大学全体の平均値より高値であった。よって、学生が授業内容を理解しやすく、満足感の高い授業を実施できたと考えられる。 ・自由記述の内容（肯定的意見）から、教科書とスライドを併用した説明、穴埋め形式のプリント配布、2回的小テストの実施、国家試験問題の演習、カウンセリング演習のペアワークの実施などが学生の理解度や満足感に繋がったと考えられる。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：栄養教育論Ⅱ	・授業の理解度は3Aクラスが3.56、3Bクラスが3.58（大学平均3.42）、満足度は3Aクラスが3.70、3Bクラスが3.58（大学平均3.49）であり、いずれも大学全体の平均値より高値であった。よって、学生が授業内容を理解しやすく、満足感の高い授業を実施できたと考えられる。 ・自由記述の内容（肯定的意見）から、講義スライドの内容およびwebclassでの掲示、事例検討によるアクティブラーニングの実施、授業内容をまとめて提出する課題の実施が好評であり、これらが理解度や満足度の向上に寄与したと考えられる。 ・遠隔授業後のフィードバックについても肯定的な意見があり、遠隔授業は内容次第で満足度に繋がると考えられる。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：栄養教育実習Ⅰ	・授業の理解度は3Aクラスが3.66、3Bクラスが3.67（大学平均3.60）であり、大学全体の平均値より高値であった。満足度は3Aクラスが3.69、3Bクラスが3.50（大学平均3.58）であり、クラス間で差があったが、いずれも大学全体の平均値と同等かやや高値であった。よって、学生が実習内容を理解し、満足する授業を実施できたと考えられる。 ・学生が管理栄養士役となり栄養カウンセリングを行ったり、模擬の栄養教育を計画し、実際に実施、学生同士による相互評価等を行ったりすることで、臨地実習や就職したときのことなど、実践を意識しながら学べたため、理解度や満足度の向上に寄与したと考えられる。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：栄養教育実習Ⅱ	・授業の理解度は3Aクラスが3.73、3Bクラスが3.81（大学平均3.70）、満足度は3Aクラスが3.73、3Bクラスが3.75（大学平均3.71）であり、いずれも大学全体の平均値と同等かやや高値であった。よって、学生が実習内容を理解し、満足する授業を実施できたと考えられる。 ・自由記述の肯定的な意見から、学生が栄養教育のテーマを決めて、栄養教育を計画・作成し、発表、相互評価を実施するスタイルの実習は、学生にとって多くの知識や達成感を得られ、それらが理解度や満足度にも繋がると考えられる。また、学生の相談や質問に丁寧に対応することが、学生の自信やモチベーションの向上に寄与すると考えられる。 ・自由記述の否定的な意見（作成時間に関すること等）から、臨地実習との兼ね合いなどのスケジュール管理を自分でできなかった学生にとっては、栄養教育の作成時間が十分ではなかった。今後は、臨地実習が重なり課題の作成時間が制約されそうな学生には、個別に声をかけ、課題作成のスケジュール管理をサポートすることで対応する。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートの実施、インタラクティブ・ティーチング（東京大学 大学総合研究センター）の受講、授業内容に関する講演会・セミナーの参加など
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

<令和5年度の成果・教育業績> ・講義および実習の理解度、満足度がほぼ大学平均以上であった。 ・授業内容を改善した点について、授業評価アンケートにおいて肯定的な意見が多数みられた。 <令和6年度の目標> ・講義において、ペアワークやディスカッションなどをさらに取り入れ、アクティブラーニングを充実させる。 ・レポートやプレゼンテーションの評価方法を整理し、学生にも評価を上げるためのポイントなどを伝え、学生のモチベーションが上がるようにする。 ・臨地実習で授業を欠席する学生に対するフォローをこれまで以上に行う。授業の課題について、いつまでに何をしたいほうが良いか、実習による欠席を考慮して個別に期限を設けて伝える。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 准教授	氏名： 木村 亮介
------	---------------	---------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

「制作活動を通した実践力の育成」 私の教育理念は、「制作」を通じたアクティブな学びに焦点を当て、デジタル／アナログのバランス実践的なスキルの獲得を重要視していることです。学生が獲得した知識や技術を活かし、問題を発見し解決する能力、適切なコミュニケーションスキル、そしてその成果を適切にカタチにする力まで、一連のスキルを主体的な制作活動を通して養成しています。その中で、学生それぞれの潜在能力を最大限に引き出すことを目指し、異なる専門性や才能を持つ学生同士が協し合い、共同プロジェクトに挑む機会を提供しています。学外を含めた展示や発表を含み、個々の学生が持つアイデアを通じて多様な視点やアプローチを共有することは、協力とコミュニケーション能力の向上だけでなく、協働作業や展示を通じて倫理観や責任感を醸成でき、地域や社会への関心を深めることにつながると考えています。 「制作活動を通した実践力の育成」は、学生が知識とスキルを具現化し、将来のプロフェッショナルとして現場で活躍するための総合的な能力を培うプロセスであり、その過程を通じて、学生たちが実践的なスキルや知識を効果的に身につけ積極的に関与することを目指します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：卒業演習	「食」をモチーフにあらゆる視点から課題を発見し、学生各個人がデザインとしてアプローチするテーマを決め、展示作品の制作を行います。テーマを軸にリサーチからコンセプトを固め、表現媒体としての作品制作までの具体的な制作アプローチを指導し、学生各個人それぞれが作品についての「テーマ」「背景」「着眼点」「制作」「検証」「結論」を説明するプレゼンテーションを行います。また、制作した作品は本演習受講生および他の演習受講生との学外美術館にて共同展示を実施し、美術館での作品展示会の計画、搬入～展示～運営～搬出を行います。
2.教育活動や教育業績 科目名②：専門演習	学外企業様との協働として「NBMS商品開発プロジェクト」に取り組んでいます。実際の企業様から課題や取り組みについてヒヤリングをさせていただき、デザインソリューションとしてパッケージデザインの提案への具体的な制作アプローチを指導し、学生各個人それぞれが作品についての「テーマ」「背景」「着眼点」「制作」「検証」「結論」を説明するプレゼンテーションを行います。また、制作した作品は本演習受講生および他の演習受講生との学外美術館にて共同展示を実施し、美術館での作品展示会の計画、搬入～展示～運営～搬出を行います。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食とデザイン	現在の「食」に関する概念を広げながらデザインとしてアウトプット提案できる力を実践的に習得してもらうことを目的に、オリジナルパッケージデザインの制作、オリジナルコンセプトの動画制作を評価課題として進め、受講生それぞれが制作した作品を学生同士で講評する時間についても重きを置いて進めます。 パッケージデザインの制作フェーズではモックアップ（模型）作成における制作手順や素材の扱いについて、また動画制作では練習動画の制作ではモチーフとストーリーについて、より取り組みやすい考え方を指導し、より柔軟な発想力とバラエティ豊かで質の高いアウトプットを制作できる力を養成しています。
4.教育活動や教育業績 科目名④：デザイン基礎	Adobe Illustratorの基礎学習を通して「PCを使ってデザインすることの楽しさと可能性」について実践的に習得することを目的としています。各回少しずつ制作課題の難易度を上げていくことで、Illustratorの基礎技術からさまざまな応用技術を学習し、制作における一通りの技術を身につけてから、レーザーカッターによる切り出しデータの作成や地域をテーマにしたロゴマーク作成など、より実践的な手応えを感じやすい課題制作を通して、デザインの基礎を学びながらIllustratorの実践力を養います。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：デザイン基礎	2科目同じものを開講しており、令和5年度授業評価アンケート結果での授業理解度はそれぞれ3.59、3.70であり、概ね講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「キーホルダーを作ったり、ロゴの作成をしたり実用性の高い授業が多く良かった」「Illustratorを利用した活用しやすい技術を学べるので積極的に取り組んだ」「初歩的なところから最終的には手応えのある課題まで、後期の間でもとても勉強になる講義内容だったのでとても満足しています」「パソコンをあまり触ったことがなく、うまくできるか不安だったけど、回数を重ねていくにつれて、作りたいものがスムーズに形になっていくのを実感できて嬉しかった」など、初めてPCを使ったデザイン制作に取り組む受講生でも制作活動を通して実践力をつけることができたように見えます。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ビジネスコラボレーション	令和5年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.50であり、概ね講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「最終課題に向けて、一回一回の授業で段階を踏みながら新しい考えを発見することができた」「今まで考えたことがないようなことを学び、新しい価値観やものの見方を知ることができた」「課題作成に熱心に取り組むことができた」など、制作をする上での新しい考え方・見え方についての言及も見受けられ、こちらの講義の目的を理解してもらえ手応えもある中、「よくわからなかった」というコメントもあり、一部の学生を取り残してしまっていた可能性について反省する必要があります。次年度以降、授業進行での十分な全体的な理解の確認を実施して改善します。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：芸術	令和5年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.90であり、ほとんどの受講生が講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「自分の思考力を活用しながら、良い作品を作ることができました」「古今東西の芸術を広く学ぶことができ良かった」「何かを作ることは苦手だったが、自分なりに作りたいものを考えて作ることができた」など、ほとんどの学生が制作活動を通して知識や技術の吸収、作品完成による達成感を実践的に学ぶことができたと考えます。授業では教室全体を巡回して受講者全員に声をかけ、制作につまずいている学生に対して、アイデアの指南やアドバイス、技術的な指導を行います。が、「作品を作る楽しさを一緒に共有しようと何度も話しかけてくださった」というコメントがあり、それらも概ね効果的に機能していると考えます。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：食とデザイン I	令和5年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.82であり、ほとんどの受講生が講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「この授業では実際に自分で考える、作る、そして形にして見るという工程で学ぶことができるので、とても実践的で面白く理解を深めることができました」「動画撮影や編集は力を十分に発揮できた」「今までにやったことのない動画作成大変でしたが楽しくできました」など、積極的に課題制作に取り組む姿勢で実践力をつけることができたように見えます。ただ、制作に必要な資材や道具の準備が毎回大変であり、受講生からも「改善してほしい点は、片付ける人が少ないという点です。各回役割の人を設けて、片付けもスムーズに行くといいなと思いました」というコメントも見受けられ、準備・片付けについてスムーズな進行が行えるよう工夫を重ねて改善します。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	大学の取り組みとして各授業においては授業アンケートを必ず実施し、結果の分析とコメントを参考にして次期授業でのマイナーチェンジを含めた改善を毎回実施しています。また、フードビジネス学科の学修につながる取り組みとして、NBMSでの取り組みをはじめ、学外にて食に関係する業者や企業、教育機関、研究機関を訪問するほか、地元大垣市でのまちづくり団体との関わりからキッチンカーや店舗、個人事業主とのつながりをつくり、パッケージデザインやコンセプトメイキング、イメージ戦略や展覧など実践的な食のビジネスについて研鑽を重ね、ゼミや授業での展開、本学学生を含めた学外でのワークショップを実施してきています。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度に担当した全8講義（演習を除く）について、授業評価アンケート結果での授業理解度の平均は3.72、授業満足度の平均は3.76であり、受講者はそれぞれの講義における目的を理解し概ね満足できていると考えます。演習においては、専門演習で習作としてデザイン制作する力をつけてから、卒業演習では「食」をモチーフにあらゆる視点からアプローチするテーマを決めて制作活動を行い、令和5年度卒業制作展では秋洲記念美術館にて5日間の学生たちの作品展示を実施、地域住民をはじめ本学訪問の高校生・教員など学外にも向けた本学の活動発信の一環として公開して参りました。 令和6年度の目標としては、フードビジネス学科における「食とデザイン」の可能性をさらに深め、最新の動向、テクノロジーを含めたデザインとして、学生たちの成果物の質を向上させていくことであり、それは講義、演習ともに教育の目標としています。新しい視点を持ちながら提案・表現する力の育成として取り組みたいテーマとしてAIの活用があります。ChatGPTをはじめテキストの生成だけでなくテキストから画像や動画を作成するAIも多数あり、イラストや描画が苦手な学生でもイメージ画像の作成（ジェネレート）で自身のイメージを具現化することができるため、デザイン提案におけるサンプル制作の質を大いに向上させることに役立ちます。その他、画像生成だけでなく、授業内での習作制作ではコピーの作成や企画の文章校正、イメージの羅列、アイデア立案の場面でも活用でき、AIへの的確な文章作成能力（画像・文章に限らず自分のイメージを具現化するためのAIへの指示文作成能力）は、Googleを使って自身が求める（以上の）知識や情報に検索してたどり着く能力以上に、今後社会においても多様な場面で必要になることが予見されます。また、AIの回答から新しいインスピレーションへと制作におけるポジティブな連鎖をつくり出すことにも繋がるため、デザイン制作においては、これまでににおける既存の画像検索と比較して、よりオリジナルでクリエイティブな作業であると考えることができま。
他方、コロナ禍を通して経験したオンラインでのプロジェクト進行についても、効率を重視したビジネスの現場では場面に応じて必須になっています。授業の中でのグループでの作品制作やプロジェクト進行においても、オンラインについては念頭に入れながらも、制作を進める上で大切なことをきちんと指導することが教育の現場では重要であると考えています。 これらを踏まえ各授業の中でそれぞれ適宜取り入れていながら、一人でも多くの学生が授業で取得した知識や技術、獲得した考え方、また自身で積極的に挑戦した経験を生かし、各自それぞれが持っている独自の持ち味を最大限に活かす力、またそこから何事にも自信を持って取り組んで社会で役立てることができる力を育てていく授業にしていきたいと考えています。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：國友宏渉
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

小学校・中学校・高等学校で身に着けた知識、技能、人間性を土台にして、大学ではさらに高度な学習内容に取り組み、専門的知識、専門的技能、そして信頼、尊敬される人格を形成してほしい。健康栄養学科では、食、栄養、健康について幅広い知識と技術を習得してもらう。そのために日々の学生生活において、自己の責任において自身の健康を管理し、四年間の厳しい学習生活を乗り越えてほしい。その上で、人々が心身ともに健康で質の高い生活を送るために必要な、健康の維持・増進、病気の予防、治療ができるように、管理栄養士、栄養士として指導のできる資質を確実に身に着けてほしい。そこで、われわれ担当教員は、各専門領域における学習の目的、目標を明確に伝え、学習目標を達成するための受講方法と予習、復習の方法を指導する。また、単元ごとの理解度、習熟度を確認するために、小テストなどを行い、受講者全員が目標に到達できるように心がける。さらに、学期末においては、授業内容のすべてが受講者に理解されたかをはかる期末試験を実施し、到達できなかった受講者に対して追加の試験等を課し、補足的な教育を行う。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：健康管理概論	本科目では、受講者自身の健康管理、健康の維持・増進のために受講してもらうとともに、将来に管理栄養士、栄養士として人々の健康管理について指導できる指導者としての資質を身に着けてほしい。そのために、日々の学生生活における健康管理の在り方、健康の維持・増進のための方法、病気の予防と治療のための正しい知識を学習してもらう。そこで、講義中にミニレポートや小テストを行い、受講生の理解度、習熟度を確認している。また、講義中に様々な学習課題に対するの意見を発表してもらい、受講者全員で問題や課題の共有を行い、みんなで考える姿勢、態度を養っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：運動生理学	本科目では、運動を実施することによる身体の反応、適応について学習する。運動を行うと呼吸が荒くなる、身体が熱くなる。これは運動による身体の応答である。また一定期間運動を続けると、腕や足の筋肉が太くなる。これは運動による身体の適応である。このように、運動を実施することによる身体への影響を明らかにすることが運動生理学の重要な目的である。さらに、運動には精神的な面への影響もある。こうした運動の心身への影響は、健康の維持・増進に利用することができ、運動効果として捉えることができる。本講義内容は、人々が質の高い生活を送るために必要な体力（行動体力、防衛体力）の向上について理解を深めることができ、人々の健康な生活に貢献するための重要な資質を培うものとなる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：健康と栄養	情報メディア学科、フードビジネス学科1年生の必修科目として開講している本講義は、大学生として4年間、健康な学生生活を送るために必要な基礎知識を身に着けてほしいと考えている。延いては生涯を健康に暮らすために、健康管理に対して興味・関心をもってもらいたい。中でも日々の生活習慣、特に食生活習慣は重要であり、健康の維持・増進のために正しい食生活を送らなければならない。そこで本講義では、健康を支える食において、基本的な栄養に関する基礎を学習し、より理想的な食生活を実践できるようにすることである。偏った栄養摂取、過剰な栄養摂取、有害な栄養摂取などが起こらないように、健康と栄養の関係について詳しくなってもらいたい。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：健康管理概論	本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、平均値で3.46、3.46であった。昨年度と比べてほぼ近似値であり、ここ数年間においても安定して3.5前後の評価となっている。評価値としては高く満足している。また、自由記述においても、「分かりやすかった」「面白かった」「ためになった」という意見が多かった。一方、「スライドのスピードがはやい」「余分な話が多かった」といった意見もあり、改善すべきところもあった。15週でかなりの内容を教授する上で、やや詰め込みすぎのところがあ、もう少しポイントを整理する必要があると考えている。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：運動生理学	本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、3.71、3.86であった。選択科目であるためもともと運動と健康に興味のある学生が受講しているため、評価も高いと考えられる。内容的にかなり専門性が高く、初めて耳にするテクニカルタームが多いため、分かりやすくするための動画を用いている。そのことが受講生にとっては「分かりやすさ」を高めているものと思われる。今後も、できる限り図表、写真、動画を教材に利用して、身体の中で起こっている現象（生理反応）などを分かりやすくイメージできるように努めたい。また、日々の生活の中で経験する運動と応答、適応について取り上げ、より具体的な説明に心がけたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	情報メディア学科、フードビジネス学科1年生の必修科目として開講している。本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、3.52、3.65であった。また、自由記述では、配付したノートのブランクを埋めることでノートを完成させるため、「復習しやすかった」、「配付ノートに沿った授業内容で分かりやすかった」、「話が聞き取りやすかった」といった意見が多かった。4年間、健康な学生生活を送るために、受講生自身の健康管理、健康の維持・増進、病気の予防ができるように、日々の具体的な健康管理のあり方や方法について解説している。今後もタイムリーな健康に関する話題などを用意しながら、より健康管理に興味と関心を持ってもらえるような授業づくりの心がけたい。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	本年度の講義では、授業中にできる限り教員と学生の会話（ダイアログ形）を取り入れた。一方的に教員の話を書く講義から、課題に対する学生の意見や疑問を授業中に発言してもらうものである。またその意見に対する他の学生の意見を交え、問題を共有する形でディスカッションができるようになった。そのことにより、多くの学生が一つの課題に対して、より興味関心を示すようになり、授業が活気づいたように思える。こうした取り組みを、今後さらに発展させていきたいと考えている。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

半期15週の講義については、各単元の理解度を確認するために、ミニレポートや小テストを導入したため、それぞれのステージにおける理解度や習熟度が確認できた。また、授業において会話型（ダイアログ形式）を実践することで、課題、問題を共有することができ、受講生の興味・関心度がアップしたと感じている。授業評価アンケートにおいても、「発言する機会があつてよかった」、「みんなでディスカッションすることが面白い」、「眠さがなくなった」などといった感想もみられた。令和6年度の授業においても、このような授業方法を積極的に取り入れて、理解できていない学生をつくらないように心がけたい。また、一方的な講義ではなく、双方向に情報のやり取りがある、活気のある授業づくりを目指したいと考えている。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：栗林芳彦
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

大学での4年間は成人になるための準備期間であり、大学は幸福で充実した人生を送るに必要な教養と対人スキルを身に着ける場である。さらに、生涯に涉って自己を啓発し学び続ける習慣を身に着ける場でもある。学生たちには知的好奇心を高く保ち、社会や様々な学問領域に関心を持ち、一生モノの宝物を見つけてほしい。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：ブランド論	通常の講義であるが、毎回、ブランドに関連する課題を課している。そのなかでブランドに踊らされる消費者やそこから利潤を得ている企業の思惑などを理解し、賢い消費者になる道筋を明かにしたい。
2.教育活動や教育業績 科目名②：地域の課題	稲沢市の抱える課題について学生が5人一組のチームに分かれて、その解決策をプレゼンする。グループで討議をしプレゼンを完成させるプロセスを経て問題解決力を養う。また、課題は3回にわたって出題され、その都度チームを組み換え、一度同じチームになった人とは決して一緒ににならないようにしている。そうすることによって1から人間関係を築く作業を3回繰り返し返すことになる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：ブランド論	全体としては、概ね良好な評価であったと思う。毎回小さな課題を課して、注目すべき回答を復習を兼ねて発表しているが、「毎回の授業で取り組んだ課題を紹介してくれる所は、他の学生の目の付け所の参考になってよかったと思う」というコメントがあり、こちらの意図が伝わっていることが実感できた。コメントが授業で取り上げられることが学生のモチベーションに繋がっており、インボルブメントを維持する上で有効に機能していると思う。世の中にはいろいろな趣味の人がおり、様々な考えを持っていることが理解できることが望ましい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：地域の課題	全体的に高いスコアで、理解度は3.62、満足度は3.57で、まずまずの評価であった。学生のコメントでは「自分たちで考えてやれるところがよかった」「グループワークの力がつく」「普段はなかなか関わることのない上級生の人とも関わって、話す機会があったのがよかったです」などの好意的なコメントがあった。本学はサークル活動などもあまり盛んでなく、学部や学年を超えた人間関係の構築が難しい状況である。この科目は3学科共通で配当年次が1年生なので、まさに受講生は学科も学年もばらばらであるが、そのような学生がチームを組んで課題に取り組むところに意義があると考えている。問題点はコミュニケーションが苦手な学生が孤立する傾向があるので、そのあたりをどうするかを考えていく必要がある。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：Web解析	理解度は3.69、満足度は3.56でまずまずのスコアだと思う。学生のコメントにも「難しい内容の所は、わかりやすく説明してくれて理解がしやすかった」「プリントで自ら書き埋めていくことで知識を身に付けやすく、とてもいい授業だった」「丁寧な進行でわかりやすかった」などの好意的なコメントがあった。授業のやり方は他の入門科目と同様で、レジュメと復習用のシートを毎回配布しこのシートに書き込んでいくことで知識の定着とともに試験への準備が図れるようにしている。賞味期限の短い知識を修得する科目は、なるべくエネルギーを必要としないやり方がよいと思う。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：CM制作	私が最初の5コマを実施し、残り10コマは外部講師にお願いしている。昨年は外部講師が学生に不評で評価が低かったので、今年は新しい講師をお願いしたところ、これが功を奏して評価が好転した。授業の満足度が3.33から3.73と大幅にアップし、学生のコメントにも「たくさんのCMや動画を見ることができ、つくる側の視点から見ることもできて面白かった」「CM制作について考え方から表現方法まで詳しく学べてよかった」といったポジティブな評価が多かった。外部講師（ゲストスピーカー）やオムニバス形式の授業の場合、クオリティコントロールは重要だと思うが、今回は人選がうまくいったようだ。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	特になし。
-------------------------	-------

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年に関しては、とりえず自分の意図するところは形になっているかなと思う。来年度は所属も変わり、担当科目も「日本語力」が中心となる。コミュニケーション能力の向上と合わせて、一般教養を高めていけるような授業を実現したい。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：黒瀬 聡
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育センターとして、大学1年次のすべての学生に対して、大学の講義を受けてその内容を理解し、自らの興味関心のために勉強する態度を定着させることに努めている。 目指すのは、大学での必要知識の習得ではなく、知識習得のための手法であるため、使用する教材の内容それ自体は特に限定されない。しかし、近年の学生の傾向として、興味を示す対象が非常に限定的かつ閉鎖的なため、その時代の流行りや時流に合わせた内容にする必要がある。また、このような学生の学習態度の向上は、画一的に測定することは難しく、むしろ測定をしようと試みることによって教育効果を阻害することもあるため、運用・評価方法に気をつける必要がある。現在の取り組みとしては、いわゆる学習する上で悪い態度というものは、身体的精神的な不調であり、健康診断のようなチェック体制でその不調を察し、通常の健康な状態に近づけるという試みが適切なアプローチに近いのではないかと考えている。健全な学習態度は、知識習得にとって重要な要素であり、今後の大学教育の根幹を形成しうると考えられるため、基礎教育センターの取り組みとして今後も継続していく次第である。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：日本語Ⅰ・Ⅱ	今年度の講義は、健康栄養学科では「食の哲学」を、情報メディアにおいては「AIの企画書作成」をテーマとして講義をおこなった。 このような、学生が興味関心を示しやすい教材を用いて、講義中にサポート教員が巡回しながら、学生の授業態度を観察し、時にアドバイス・サポートすることで学習態度の変容に努めた。また、コロナ罹患による欠欠にも対応できるようにWebclassに全講義動画をアップロードし、いつでも授業内容を復習できるようにしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：数的処理Ⅰ・Ⅱ	コロナ禍における取り組みから継続して、講義内容を動画で撮影し、編集してWebClassにアップロードしている。 教員の作業負担が増えるが、コメントにもあるように学生からは非常に好評のため、今後も継続していくつもりである。また、今年度の講義は例年と比べ、取り組んだ問題を再度解いたり、復習に多くの時間をあてることを試みた。さらに、サポート教員を増やすことで躓いている学生を早期に発見しアドバイスすることができた。これにより広範に多くのトピックを扱うことはできなかったが、基礎的な内容に関してしっかりした知識を得ることができたのではないと思われる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：日本語力Ⅰ・Ⅱ	前年度と同じように、日本語力ⅠでAIの基礎を学んでもらい、Ⅱで「AIの企画書」レポートを提出してもらった。今年度は、特に後半のAIの企画書作成に関して、グループワークに多くの時間を割き、学生からの質問・相談に対応することによって、例年よりも質の高いレポートが多く提出された。 日本語力Ⅰの理解度は、両クラス平均で3.3であった。これは名古屋文理大学全体の中でも平均付近の数字である。AIの基礎という難しい内容ではあるが、学生は比較的 理解してくれているようである。しかし、試験の成績はあまり良くないため、小テストなどの追加課題を検討する必要があるだろう。日本語力Ⅱについても両クラス平均は3.34であり、Ⅰとあまり変わらない結果となった。AIを応用する企画する際のアイデア出しに苦戦する学生が多かったため、さらなる理解度の向上のためには、この部分のサポートが必要であると思われる。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：数的処理Ⅰ・Ⅱ	数的処理Ⅰ・Ⅱでは、統計と数学的モデリングの基礎を題材に、データサイエンスの基礎としての数字の取り扱いや、数学的思考能力の向上を試みた。 全体として、今年度は補助教員を増やし、サポート教員が学生に積極的にアプローチすることで、講義内容の理解を促進することができたように思われる。ただ、個別 的に見ると、人数が少ないためにより手厚くフォローできそうなフードビジネス学科の理解度が、他に学科の理解度と比べると低い値になった点は今後の検討材料である。 コメントや満足度を考慮すると、情報メディアや健康栄養学科の学生については、統計やデータサイエンスの内容についてわずかにでも自身の興味と結びつけることができていたように思われる。一方、フードビジネスの学生は、授業中に問題を解きたがらない学生が多く見られるなど、問題を解くことを強いられるという受け身の 傾向があった。今後より理解度を向上させるためには、今の方針を継続しつつ、学科ごとにより個別的に講義内容を変更していく必要性が感じられた。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	大学教育改革フォーラムin東海2024に参加した。
-------------------------	---------------------------

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

日本語力について：日本語力Ⅰでは小テストなどによる学習の定着を、日本語力Ⅱに関しては、アイデア出しに関するサポートを行うつもりである。また、今回の学生からのコメントで、復習用の講義動画 を見やすくしてほしいとの要望があった。現在の学生はコロナ禍での質の高い講義動画に慣れており、これに対応するためにも、教員側の動画作成スキルの向上を同時に行なっていく必要を感じた。 数的処理について：最近の学生は、自分の興味関心に無関係なものにむしろ積極的に取り組まない傾向が強くなっており、これまで以上に基礎的な内容を教えることが困難になっている。教員からの積極 的なサポートを継続していく一方で、それぞれの学科の学生に即した、もっと言えばその時代や個別的な学生の興味に即した講義内容や演習問題の作成を検討していく。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：教授

氏名：後藤 千穂

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

- 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
- 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
- 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
- 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

モデルコアカリキュラムでも示されている「栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する」管理栄養士であり、さらに社会から信頼され、自らもやりがいを感じる管理栄養士の養成を目指している。これを目指すため、統合科目としては、卒業演習ⅠおよびⅡ、実践の場としての臨床実習ⅠおよびⅢを担当している。特に卒業演習ではEBN（Evidence based nutrition; 根拠に基づいた栄養学）の考え方と実践力を身につけることを目指している。そのために自ら問題を発見し、その解決法を見だし、実践した上でその効果を確認するためのスキルや方法を身につけ、さらに、その過程および結果について自らの考えを持ち、ディスカッションおよびプレゼンテーション力を身につけることを目指している。これは「4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。」につながる。また、臨床実習では個別指導を通じ、管理栄養士としての職業倫理や実習先での社会人としての基本的な行動等を含め、施設ごとの課題への取り組みを通じて、自ら考え学び、主体的に行動し、実践につながることを目指している。これは「3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。」に該当する。その基本になる科目として、調理学実験を通じて調理の過程における食品の様々な変化と、それを実践につなげることを目指している。これは「1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。」にあてはまる。また栄養疫学、公衆栄養学、公衆栄養学実習ではEBNの基本的な考え方から情報収集方法、実践への応用を身につけることを目指しており、これは「2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。」に該当する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養疫学	食生活（栄養）を通して健康の維持増進、疾病の一次予防をするためには、人を対象として食習慣を含む生活習慣と健康・疾病の因果関係を科学的に明らかにする必要がある。そこで、食生活（栄養）と健康・疾病の関連をとらえる方法としての栄養疫学の原理と方法について修得することを目標としている。また、管理栄養士として栄養疫学データを適切に用いて健康・栄養活動の効果測定にいかすことができる知識と考え方を身につける。そのために、栄養疫学の原理と方法を理解し、食事調査と栄養摂取量の特性を学び、EBN (evidence based nutrition) の考え方を修得することを目的としている。これにより、食に関わる情報が氾濫している現代において、情報を収集し、科学的に吟味した上で取捨選択できるようになるよう、講義をすすめている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：公衆栄養学	わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について理解することにより、集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動につながる。さらに社会における管理栄養士の使命や役割および活動の理解することを目的としている。そのために、わが国および諸外国の健康・栄養の現状と問題点を説明でき、公衆栄養活動のマネジメントの理論と方法を理解し、わが国の栄養行政について説明できることを目標としている。また、実社会と関連のある科目であることから、日常生活においても社会の動向に関心をもち、新聞、テレビ、インターネット等の近年の健康・栄養に関する情報に関心をもてるよう、講義をすすめている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：公衆栄養学実習	地域や職域などのモデル集団を想定して、集団の栄養・健康問題を発見し、それに関連する要因を収集・分析し、さらに問題解決のために、公衆栄養活動プログラムの立案、実施、評価・判定の方法等について実習している。また、社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野を理解し、実践につなげることができるように、公衆栄養活動のマネジメントの理論と方法を活用し、コミュニケーション能力や総合的マネジメント能力を習得し、さらにプレゼンテーションスキルを身につけるよう、実習をすすめている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：調理学実験	調理の過程における食品の様々な変化を、物理的、化学的方法を用いて解析し、調理学の理論の根拠を明らかにすることを目的としている。また、食事管理や栄養教育への応用の基礎となる、調味や調理による食品の変化と味覚の関連などについて実験を通して理解し、調理を科学的に実践する力を修得する。この実験を通して各食品の性質を理解し、調理時に適切な取り扱う方法を身につける。また、食品の特性をいかした調理により、個々人の健康状態や嗜好に応じた食事を提案、提供できることにつながる。日常的に目にする調理上の変化についても観察し、その理由を考え、考察できるようにすることを目的としてレポート作成を通じて実験をすすめている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養疫学	栄養疫学（管理栄養士必修、有効回答数67名、回収率82.7％）において、授業評価12項目の平均値±標準偏差は、最高3.71±0.46、最低3.41±0.61であり、全12項目中、1クラスは全項目、他方は11項目が3.5を超える評価であった。特に高評価であったのは「1.授業への積極的な出席」「3.シラバス」「6.教科書やプリントは授業の理解に役立った」「7.モニター提示」であった。栄養疫学は、実際に自ら調査等を実施したことのない学生においては、内容を実感および理解しにくい科目であることから、配布資料を工夫している。また説明方法の工夫や練習問題を用いて理解度を確認した。理解度については、両クラスそれぞれ3.41、3.54であり、概ね高い評価と考えている。自由記述には、スライドが見やすい、説明がわかりやすい等のコメントがみられた。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：公衆栄養学	公衆栄養学（管理栄養士必修、2クラス、受講生71名、有効回答数54名、回収率76.9%および75.0%）である。授業評価12項目の平均値は、最高3.83、最低3.47あり、全12項目中、2クラスとも全項目で3.5を超え、昨年より評価が高かった。高評価であったのは「シラバスに沿っている」「教員の話し方」「授業の進み方」「課題の量」であった。全項目の平均は3.7であった。理解度に関しては3.47、3.3.50であった。自由記述には「説明がわかりやすかった」「確認問題がよい」「どこをやっているのかの説明がわかりやすかった」等であった。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：公衆栄養学実習	公衆栄養学実習（管理栄養士必修、2クラス、有効回答数63名、回収率82.4%および83.3％）において、授業評価13項目の平均値±標準偏差は、最高3.82、最低3.31であった。平均3.5を超える高評価であったのは、1クラスは13項目中全項目であり、他方のクラスは12項目であった。「12.授業内容の理解」においては、2クラスでそれぞれ3.68、3.57であった。公衆栄養学実習は、集団を対象とした評価、計画、実施のプロセスが重要な科目であるが、学生においては、なかなか内容を実感および理解しにくい科目であることに加え、授業期間中に臨地実習により欠席する学生が多いため、グループワーク等の実施については班内の連携をとりやすいよう考慮して実習をすすめた。また、実際のデータをもとにグループ発表を行うようにしている。この結果、自由記述欄においても「発表を積極的に行えた」という肯定的な記述がみられた。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：調理学実験	調理学実験（必修、2クラス、受講生74有効回答数59名、回収率79.7％）において、今年の授業は5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、試食を昨年より増やした。授業評価13項目の平均値は最高3.93、最低33.72であり、2クラスとも全13項目で3.5を超える高評価であった。本実験では、毎回レポート課題を出し、次の実験時に提出としており、学生としてはある程度の課題量であるが、それが復習および理解を促すことにつながり、達成感となって学習効果につながったと考えており、理解度は3.78、3.85であった。また、本実験では毎時の冒頭で「なぜ、この実験を行うのか」「実験を通して何が得られ、どう役立つのか」について具体例を用いて説明し、また、レポート作成時の考察のポイント等も明示したため、どこにポイントをおいて考察するか等が理解し易く、レポートの負担感が減っていることも考えられる。自由記述欄にも「講義がわかりやすく、レポートが書きやすい」等の記載があった。また、実験科目では積極的に取り組むことが重要であり、こちらも両クラスにおいて評価平均3.88、3.78であり、自由回答欄に「積極的に実験を行った」「考察を頑張った」「初めて実験を面白かった」との記述があり、教育効果につながっていると考える。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	担当する必修科目（栄養疫学、公衆栄養学、公衆栄養学実習、調理学実験）で学生による授業評価アンケートを実施し、評価結果をまとめ、次年度へ向けた授業準備に役立っている。学会活動として、第70回日本栄養学教育学会学術総会の総会長を担当し、学術総会テーマを「栄養学教育におけるデータサイエンス」として、名古屋文理大学で開催した。自身の専門である栄養疫学にはじめ、臨地実習に関する情報交換や公衆栄養学の面から見たアプローチの研修の場を学会員に提供するとともに、自らも学びを得た。また、担当科目の特性上、多方面から情報を得る必要があることから、年間70講演以上の研修会に参加している。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

卒業演習は、指導したゼミ学生を筆頭発表者とし、学会発表（第70回日本栄養改善学会学術総会で発表）を示説にて行った。発表タイトルは「都道府県別食塩・野菜摂取量と循環器疾患死亡および都道府県健康増進計画の評価状況に関する地域相関研究」である。また産官学連携事業（マックスバリュ東海株式会社、清須市、清須市食生活改善推進協議会、清須保健所、名古屋文理大学）として愛知県の「健康チャレンジ」の取り組みのうち、食環境整備（無関心層にも届く仕掛けづくり）としてマックスバリュ東海にてゼミ生考案の食材セットを販売し、新聞社から取材を受けるなど好評であった。また健康関心層への働きかけとしては、対面による食育活動として稲沢市の依頼により「健康フェスティバル」で地域住民に対して野菜摂取量向上にむけた啓発活動を行った。これも新聞2社に掲載され、好評を得た。学生自身も自らが考案した食材セットが実際に販売される様子から、かなり積極的に取り組み、やりがいと達成感をえられていた。また実際の地域区住民を対象とした食育活動では、伝えられる楽しさとやりがいを感じていた。さらに卒業演習の活動は冊子にまとめ、報告書とすることにより、自らの活動をまとめる力が身についたと考えられる。
さらに、臨地実習の個別指導の状況については共著による発表として第12回日本栄養学教育学会学術総会にて「管理栄養士養成課程における臨地実習のための学生個別指導時間」として行った。公衆栄養学は2年生後期2クラス、栄養疫学は3年生前期2クラス、公衆栄養学実習は3年生後期2クラス、調理学実験は2年生前期2クラスを担当した。公衆栄養学はテキスト「管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 2024年版 公衆栄養活動の実践のための理論と展開」を日本医歯薬出版より出版した。各科目の授業内容については、昨年に続き、今年度の授業評価においても、授業の最初の復習と、モニター提示や練習問題が有効であったことが示されたので、今後もこれらは継続して向上を目指す。また、練習問題の内容や説明方法も検討を加え、理解度の向上に努めたいと考えている。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 木場 安莉沙
------	---------------	--------	------------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

これまでの教育実践において、学生の英語習熟度やコース目標に応じて教材やテーマを適宜変えながら授業を実施している。Practical English, Media Englishではe-textを活用し、課題の提出や自主学習、プレゼンテーション資料作成等を電子媒体で行わせつつ、対面での個別指導や自主作成の教材を用いたゲーム等を行わせ、習熟度が異なる学生の修学モチベーション維持に努めている。また、担当するゼミ（基礎演習：テーマ「メディアから見る社会：広告の「意図」とは」）では、メディアの言語／社会文化的背景について考察させ、発表やディスカッションを通じて身近な社会問題について意見を述べる能力を養成した。このように学生の社会的関心・コミュニケーション能力の向上を目指した授業実践を通じて、学習者が相対的な視点から物事を見る力が培われるとともに、本学の教育方針である「思索力の養成」や「信頼される日本人の育成」が達成されると考えている。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：ブライダル・イングリッシュ	2021年度：ビジネスシーンでの実践的な英語表現の習得を目的とし、リスニングやコミュニケーションを中心に授業を行った（テキスト：Passport to work, Oxford University Press出版）。テキストに沿った内容の他、自作の小テストや理解確認テストを実施し知識の定着を図った。学期末には授業内で学習した表現や語彙を用いてロールプレイのスク립トを書かせ、口頭発表や英語で話している動画の作成を実施させた。 2022-2023年度：より基本的な文法項目の復習・習得および四技能の向上を目指し、また、データサイエンス教育の強化という学科の教育目標に沿った授業実施のため、e-text完備のテキストに変更した（テキスト：Side by Side, Pearson）。毎回の授業における自作の復習用小テスト、学期毎の習熟度チェックテストに加え、習熟度が高い学生がより深く英語を学習し、また授業内容への不足感を軽減するため、追加課題を毎度設定した。3回に1回の頻度でライティングも実施し、全学生に対し個別に指導を行った。
2.教育活動や教育業績 科目名②：フードビジネス・イングリッシュ	聴講生含む受講学生の学習到達目標・学習目的に合わせた授業内容を設定し、他大学の教員とも連携を取りつつ、学生の興味関心に沿った参考書や学習方法を案内した。また、到達目標に合わせた評価方法で成績を評価した。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	「メディアの批判的分析」をテーマに、学生が普段触れる機会が多いSNSや広告といった題材を取り上げ、マスメディアの特徴や社会問題との関連などと結び付けながら講義を行った。また、ディスカッションや発表を通じて、社会問題や身近な問題について他者の意見を聞いたり、それを踏まえた上で自身の意見を述べる能力を養成した。スライド作成を課題にすることでパワーポイントの使用に慣れさせ、作成したスライドを基に発表させることで、将来の進路で役立つような資料作成および発表能力を涵養した。
4.教育活動や教育業績 科目名④：メディア・イングリッシュ	One-minute presentation in English（松柏社）をテキストに使用し、英語でのプレゼンテーションを行ったリグループでの協働作業に取り組む力の習得を目指した。テキストの各回のテーマをそれぞれ2回の授業に分けてこなした。まずテキストのサンプルから表現や語彙を学ばせ、プレゼンテーションの際に使えるtips（パワーポイント作成のコツや、司会者の役割等）についても教示した。次にスク립トやスライドを作成させ、それらとともに発表後はリフレクションシートも提出させることによって、自分や他者の発表を比較し、できたこと・できなかったことについて自己評価をさせた。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：ブライティカル・イングリッシュ	全科目を通して、全項目において相対度数4を選択した学生が最も多く、概ね満足度は高かったのではないと思われる。特に、「授業での課題にしっかり取り組むことができた」は1科目を除きほぼ全ての科目で度数4が70%を超え、「板書やモニター提示の仕方や内容が適切だった」では全科目で度数4が70%以上であった。このことから、小テストやライティング、授業内で行っているテスト等、自主学習にしっかりと取り組む学生が多かったのではない。学生の間で習熟度が大きく異なるため、授業内に練習問題が早く終わった学生用に+αの課題を設定しており、手が空いた学生から積極的に取り組むよう促していることや、早く終わった学生が何をすれば良いか毎度具体的に指示していることが功を奏したと思われる。一方、相対的に評価が低かった項目としては、「シラバスは自主学習の役に立った」「授業を受けて履修の目標が達成できた」といった項目が挙げられる。これについては、実際の学生の習熟度や様子を見て進度を適宜変えているために、必ずしもシラバスに沿った進度ではなかったことが理由として挙げられる。このことは各授業で前期のはじめに伝えているが、授業の進度によって復習や予習の範囲が変わることを、よりしっかりと周知していきたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：メディア・イングリッシュ	受講者数が少なかったため回答数も少なかったが、概ね満足度は高かった。特に、少人数であることを活かして個別指導（英文の添削や英語で作成したプレゼンテーションスライドの添削）に力を入れ、休みがちな学生などにも根気強く声掛けなど実施したためか、個別での対応の細やかさを高く評価した回答が見られた。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケートの内容を参照し、前年度と同じテキストを使用する場合でも、毎年板書の内容や量、説明の内容・量、教案や課題を適宜見直している。例えば、前年の学生が躓きがちであったり、混乱している学生が多く見受けられた回については、説明や資料、簡単な自作の練習問題などを増やしている。課題についても、できる限り各回の課題量にばらつきが出ないように心掛けつつ、進度に合わせて範囲や量を変更している。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

【令和5年度の成果】 1. 2023年3月 オンラインディスコースにおける「文化批判」に見られる人種主義－アニマルライツ団体の事例から－ 木場安莉沙、張応謙 社会言語科学会第47回研究大会、東京国際大学 2. 2023年3月 『オンラインディスコースにおける「文化批判」に見られる人種主義－アニマルライツ団体の事例から－』木場安莉沙、張応謙 社会言語科学会第47回研究大会発表論文集, pp.79-82. 3. 2023年7月 War symbols and anti-Asian sentiments in online animal rights advocate discourse, Arisa Koba, Yingqian ZHANG, The 18th International Pragmatics Conference, Université Libre de Bruxelles / Online 4. 2023年7月 The interference of religious belief and racism in animal rights discourse on social media, Arisa Koba, Yingqian ZHANG, 言語科学会第24回年次国際大会、中央大学 5. 2023年7月 "The interference of religious belief and racism in animal rights discourse on social media," Arisa Koba, Yingqian ZHANG, JSLS2023 Conference Handbook, pp.62-65. 6. 2023年9月 大幸財団人文・社会科学系学術研究助成獲得 研究題目『「アフターコロナ」の日米社会－少数者の語りに見るCOVID-19諸問題と経験の組織化－』 7. 2023年12月 『日米社会と「多層的」少数者のディスコース分析－性的・民族的アイデンティティの「はざま」で－』、木場安莉沙、大阪大学出版会 8. 2024年3月 感染症流行とオンライン・ディスコースの連関に見る病の「意味」の生成－SNSにおける投稿とコメントの分析から－、木場安莉沙、張応謙 社会言語科学会第48回研究大会、福岡女子大学 9. 2024年3月 『感染症流行とオンライン・ディスコースの連関に見る病の「意味」の生成－SNSにおける投稿とコメントの分析から－』木場安莉沙、張応謙 社会言語科学会第48回研究大会発表論文集 【令和6年度の目標】 目下の課題として、発言が極端に苦手な学生や、言語障害などでペアワーク・グループワークに参与し辛い学生への対応を考える。これまでは、筆談を許可したり自分が間に入る等で対応してきたが、偏りなく机間巡視の必要性などからこれらの対応では限界があるため、会話の前にメモを作成する時間をしっかりと取るといった対策を考えつつ実践していきたい。	
--	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：小林あづみ
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

1. 学問の本質を探究し、エッセンスをつかむ姿勢を大切にします。2. 学んだ知識や技術を実際の現場で活用し、問題解決に取り組む姿勢を大切にします。3. 自己の責任を重んじ、誠実な態度で人々と協力し、信頼を築きます。担当する基礎教育は、学生の人間的成长において重要な基盤です。各科目において、学生の表現力、読解力、現代の日本をとりまく諸問題への理解、古典を中心とする芸術作品への理解を育むことを目指します。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：日本語力	基礎教育科目のうち、各学科で必修の科目である。フードビジネス学科の1年生のクラスを担当しているため、フードビジネスを通じて社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力をまず養うような講義を実施する。そして、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する表現力を養う課題に講義内でとくんでいく。講義を受講し課題にクラスメートと取り組むため、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけることになる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：現代日本史	基礎教育科目のうち、全学部、全学年が選択可能な講義科目である。科目名からは、歴史学にカテゴライズされる印象があるが、歴史学に必要な歴史史料が未公開であるケースが多いことや、本学には歴史学を専攻する学科を有する文学部が存在しないため、歴史学としてよりも、現代の日本における様々な問題の起源と経緯を理解することを第一の目標にする。受講生はフードビジネス学科と情報メディア学科の学生がほとんどであるため、以下のような取り組みをする。1. 食品の安全性、食品ロス削減などに焦点を当て、専門領域の知識と実践力を支える学力を養う。2. 社会的課題をメディアどのように扱ってきたかを理解することで、自らもメディアを通じて課題解決への取り組みを伝える能力を養う。
3.教育活動や教育業績 科目名③：芸術	基礎教育科目のうち、全学部、全学年が選択可能な科目である。本学には四年制大学の情報メディア学科において、映像や音楽による芸術表現を学ぶ科目があるため、本講義では、それらの科目ではあまり扱うことのない日本の古典作品を主題にし、実際に筆を執ることや現代のアニメやマンガといった作品のベースになっている古典作品の理解を中心とした内容になっている。また、作家が生きた時代の問題を理解することで、芸術作品が社会のなかでどのような意義を持つのかを俯瞰し、今後の制作をすすめる上での基礎能力を養うことになる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：文学	短期大学部の全学科で受講可能な基礎教育科目である。主として古典作品を扱うが、古典作品を主題にした和菓子など、食、とくに製菓専攻の学生にとって今後の商品制作に必要な知識の習得をめざす。また、古典作品が制作された時代の女性たちの生き方を学ぶことで、今後の人生を考えるてがかりにする。講義内で提示される課題に対して、クラスメートと取り組むことで、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけることになる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：日本語力	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。本年度の当該科目は、他学科でノートをとることを評価に加えると知らされたため、急速フードビジネスに関する動画を視聴してメモをとり、文章を作成する機会を複数回持つことにした。（動画であれば、2クラスとも内容は同じになるため）効果としては、勉強になった、ためになった等の好意的評価があり、否定的な内容はなかった。文章作成についても、講義冒頭で生成AIの利用について留意点を説明し、生成AIに教えてもらいより、周囲の受講生と共に考えて（自力で）文章を作成するよう促した。この方針については評価も高く、添削内容が分かりやすかったというコメントを得られた。 また、今回、LearnWizOneという意見集約ツールを利用して、受講生が気軽にコメントできるようにした。それも評価が高かったが、教育者仕様の申請をしても受け付
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：現代日本史	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。当該科目について、本年度は講義初回にとったアンケート結果に従い、①今まで扱ってきた難民に関する内容を扱わず、SDGsに関する内容に特化した。また、情報メディア学科の受講生の専門性を考慮し、②写真などの芸術作品を通して歴史を考える内容を増やした。 以上の2点について、自由記述欄からは、①に関しては特にコメントはなく、②に関しては肯定的に捉える意見があった。（否定的なものはなかった） 理解度に関しては、理解が出来なかった受講生が今年度は存在した。講義時にとったノートを確認したり、毎回の課題やレポートに関して内容や提出方法などのアドバイスをした受講生ではないかと思う。講義内容自体をこれ以上レベルダウンするべきではなく、アドバイスも本人がこれで良いというまで行ったこともあり、今年度特
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：文学	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。今年度の講義は、形式的には感染症の影響を脱し通常モードで行ったが、内容的には①高校までの感染症対応の受講スタイルからの脱却、②生成AIの教育的利用の2点について特に悩むことが多く、手探りの講義運営であった。 昨年度までは、webclassのチャット機能を利用して、意見を交換・集約することを心がけたが、今年度はLearnWizOneという意見集約ツールを、受講生の同意を得た上で利用してみた。しかし、プロ利用の申請をしても受け付けてもらえず、また、受講生が生成AIで解答を出力しコピペする可能性、そしてツールの特徴である返信機能を受講生が使いこなせない、といった点から学期途中より使用を控えた。その分、講義中の受講生同士の交流に欠ける部分があり、自由記述欄にもそれは現れている。（内容が難しい、というコメントが1件あった）今後どのようにするか、考えたい。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：芸術	以下は四年制大学で実施した「芸術」に関する内容である。当該科目は、講義冒頭で生成AIの能力について触れ、望む内容を入力するためには、自分自身が手を動かして描いたり撮影したりする技術や審美眼を養う必要があることを伝え、①自分の手で描く②芸術作品を多く鑑賞する機会を増やし、引き出しを増やすのを講義目標にすることを明らかにした。その内容に理解を示した学生のみが受講したため、比較的评价は高かった。自由記述欄からは、本学に比較的近い美術館で作品を鑑賞する機会を増やしたことも、高評価につながっているように見える。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「芸術」以外の全ての科目で、毎時間ごとに受講生からの疑問や意見を募り、その内容を次回の講義に反映した。また、受講生同士の交流を促進するために、Learn wiz one を利用し講義参加への意欲を高めた。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

担当科目はすべて基礎教育科目であり、専門科目のように国家試験の合格率などによって成果を客観的に測ることができない。そのため成果といっても学生からの授業評価等でしか把握できないのが現状である。（例えばノートをとる習慣が、担当科目の受講により身に付いたかは、今後他の科目の受講態度で評価するしかない） 今後は生成AIの利用について、適切な利用や活用法について、情報を収集し、理解を深め、効果的な活用をこころがけたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：近藤 徹弥
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

食と健康に関する幅広く高度な専門知識を持つ管理栄養士がその役割を十全に果たすためには、既存の知識を正しく使うだけでなく、常に知識を更新して、実践する力が必要です。したがって管理栄養士養成の教育において大切なことは、知識を単に伝授するだけではなく、学生のやる気や能力を引き出し、大学において得られた知識や考え方を基に卒業後に応用・実践できる力を身につけさせ、さらに社会に貢献できる人材を育てることであると考えています。そのため、以下の3点を教育理念としています。(1) <u>主体的に探究し、学ぶ力を身につける手助けをする</u> 。熱意をもって丁寧に講義や研究指導を行うことで、学問の面白さや達成感を与えると共に、自主的に学ぶ力を身に付けさせたいと考えています。(2) <u>単なる知識の習得に留まらず、知識を現場で応用・実践できるような教育を目指します</u> 。調理・加工や保存による成分・物性の変化について具体的な事例を提示し、また、考えさせる指導を行います。教科書だけでは学ぶことのできない具体的な加工や保存の状況をイメージする能力が身につくことにより、卒業後の学生が実現場で柔軟に対応して、実用的な力を発揮できるように育成したいと考えています。(3) <u>コミュニケーション力や交渉力等の人間関係形成力を育成する</u> 。管理栄養士がその専門能力を活かして効率的に仕事を行い、成果を上げるためには、知識や実践力と共にコミュニケーション力や交渉力等の人間関係形成力が不可欠です。講義、学生実験や卒業研究を通じて、「学び」、「教え」、「話し合い」、「議論」し、共に学ぶことの喜びやチームワークの大切さを身につけさせたいと考えています。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品学Ⅱ	食品学は、管理栄養士にとって最も基本的で重要な学問の一つである。様々な食品を対象に、素材・成分から加工変化まで内容も多岐に亘っている。そこで用語の単なる丸暗記に陥らないように、プレゼン資料に写真や図を多用することで重要ポイントをイメージとして理解し、相互に紐づけしやすいう工夫を行っている。学生が無理なく学べるように、授業開始時に前回授業の簡単な復習、授業終了時に簡単な演習、さらに幾つかの単元ごとの小テストを行っており、一定の成果は出ていると考えている。国試対策だけでなく管理栄養士として社会に出たときに役立つように、また食品学の面白さに興味を持ってもらうため、食品の特性を活かした加工・調理法や食品にまつわるエピソード等を授業の合間に紹介している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品学実験Ⅱ	全員が実験に主体的に取り組めるように、3～4人の少人数で実験グループを構成している。実験の手順書を予め配布し、実験のフローチャートを作成・提出させることでスムーズかつ安全に実験ができるようにしている。実験に慣れていない学生が理解を深めることができるように、テキストや配布資料を使って、実験の目的、実験方法、測定の原理、注意点等を丁寧に解説・指導をしている。食品学の講義と相互に連携をとり、学生の理解度を高めるよう努めている。実験レポートの作成に当たっては、レポートの書き方や各実験の要点について解説、指導をしている。提出されたレポートについては、学生のモチベーションが上がるようにコメントを工夫している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習Ⅱ	卒業演習では、新規発酵食品の開発に関する研究をテーマとしている。研究の過程で、醸造用微生物の働きや発酵食品の機能性・有用性について指導するとともに、食品衛生・食中毒、食品分析、食品包装に関する知識を深めるための勉強会も行っている。また、様々な食品の試作・開発を通じて、楽しみながら食品の加工特性への理解を深める工夫を行っている。チームワークの大切さが身につくように、実験の役割分担や結果のとりまとめ、考察に関して、教員がサポートしつつもゼミ生が主体となって議論しながら進めている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：食品学Ⅰ,Ⅱ	授業の進め方や内容については、"スライド・配布資料がわかりやすい"、"説明が丁寧である"、"小テストが役に立った"など、肯定的な意見が多かった。これらの結果から、学生の能力とニーズに応じて適切な授業がほぼできたと考えている。一方で授業スピードが速いときがあるとの意見があり、講義の内容や進め方について見直しをしている。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食品学実験Ⅰ,Ⅱ	食品学と連携が取れるような資料を事前に配布し、実験の待ち時間や終了時に丁寧な説明をしたこと、レポートの書き方について丁寧に指導したことが評価されたと考えている。以上の結果から、学生の能力とニーズに応じて適切な授業がほぼできたと考えている。学生が楽しみながら、座学で学んだ知識をより深く理解できるように、引き続き工夫を凝らしていきたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	講義内容の理解を深めるため、小テストを何度か行った。Web上に授業資料を上げ、学生の事後学習や欠席者の学びを目的として、Web上に授業資料を上げ自由に閲覧できるようにした。成績不良者に対しては、追加のレポートをマンツーマンで指導し、講義内容を深める手助けをした。実験においては、レポートをまとめる際の着目点を例示して、文章やレポートを書くのに慣れていない学生の不安を減らす手助けを行った。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

講義： (令和5年度) ・ 授業開始時に前回授業の簡単な復習、授業終了時に簡単な演習をおこなうことで、授業内容の定着を図ることができた。 ・ 教科書に載っていない情報や知識も積極的に講義した。授業に対する興味を高め、理解度も深めることができた。 ・ 講義内容の自主学習に役立てるため、Webclassに講義資料や確認問題の解説、小テストの解説をアップした。多くの学生が閲覧しており、授業内容の復習に有益であったと考えている。 ・ 小テストを複数回実施するとともに、小テストの点数が悪い場合はレポート提出を義務付けた。授業内容の理解を深めるのに役立ったとの意見を幾つかもらっている。 (令和6年度) ・ 今年度の授業アンケートやテストの結果をもとに、学生の苦手な箇所の把握を行い授業に反映させる。 ・ 講義内容の理解を深めることができるように、授業毎の確認問題の充実を図る。 実験： (令和5粘土) ・ 実験の待ち時間や実験終了時に、パワーポイントを使って関連分野の解説を行った。解説と実験の相乗効果により、学生の理解度を深めることができた。 ・ レポートの書き方に悩む学生も多かったことから、実験毎に、レポートのポイントや書き方について配布資料を使って解説した。レポートの書き方の習熟に有益であった。授業時間外にも相談に来た学生に丁寧に説明した。 (令和5年度) ・ 学生の理解度を随時チェックしながら、適切な対応(追加資料配布等)をとる。 ・ 実際に手を動かすことで、座学では味わえない感動が得られるような実験内容を工夫したい。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：周 欣欣
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

誠実な研究態度と正しい学習方法を身に付けさせ、将来社会に貢献できる人材を育てます。 一人一人の学生を大切に、学力の高い学生だけでなく、そうでない学生も成長できるよう努力します。 自身の利益と学生の利益が衝突する場合は、学生の利益を優先します。 初心者立場に立ち、学生に寄り添い、役立つ授業を提供するよう努めます。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： コンピュータグラフィックス基礎	令和5年度前期授業は、2年生の「CG基礎」3コマ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰと卒業演習Ⅰ合わせて6コマを担当させていただきました。 CG基礎の授業では、2年生に対して、実習しながら3DCGの原理を紹介しました。二つのCGソフトウェア（SketchUPとShade3D）によるCG作成方法を教えました。自作教材を使い、予習復習できるようにWebClassにアップロードしました。今年は対面授業で15回を実施できました。
2.教育活動や教育業績 科目名②： コンピュータグラフィックス演習	令和5年度後期授業は、2年生の「CG演習」3コマ、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱと卒業演習Ⅱ合わせて6コマを担当させていただきました。 後期のCG演習では、Blenderを使用してCGの作成方法を紹介しました。Blenderは、オープンソースの3DCGソフトウェアです。 学生は、Blenderを使って3Dモデリング、レンダリング、ライティング、アニメーションの基本を学びました。 市販教科書を利用し、WebClassで毎回の要点などを配布しました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	基礎演習Ⅰでは、シンプルで分かり易いプログラミング言語Processingを用いて、メディアアートの制作しながらプログラミングの基本を学生に指導しました。 基礎演習Ⅱでは、幅広い用途に活用できるプログラミング言語Pythonの使い方（画像処理、機械学習など様々なライブラリ）を学生に指導しました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習と卒業研究	専門演習と卒業演習では、以下のことを指導しました。 Unityの使い方や、C#の基本を指導しました。 3dsMaxによる3DCG制作を指導しました。 Unityを用いてアプリ開発を指導しました。 Python言語、ChatGPT、APIなどを用いてアプリ開発を指導しました。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： コンピュータグラフィックス基礎	CG基礎の学生によるアンケートの集計結果では、学生の目標達成度、理解度、満足度の三項目の平均は、木曜日1限は4点満点の3.64、3.64、3.55、木曜日3限は3.38、3.19、3.38、金曜日1限は3.59、3.59、3.65でした。三つのクラスの平均値は、3.54、3.47、3.53（100点満点の88点、87点、88点）でした。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： コンピュータグラフィックス演習	CG演習の授業評価の集計結果では、三つのクラス（火曜2限、火曜3限、木曜2限）の平均的な理解度は4点満点の3.64（100点満点の91点）でした。満足度の平均値は4点満点の3.72（100点満点の93点）でした。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：基礎演習	演習につき、授業評価アンケートを取りませんでした。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：専門演習と卒業研究	演習につき、授業評価アンケートを取りませんでした。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケート、アクティブラーニング、学会発表を行いました。
-------------------------	--------------------------------

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の成果・教育業績は、卒業研究の学生12名は無事に卒業し、研究論文を2篇投稿できたことです。 令和6年度の目標は、現在の3年生は良い成績で卒業できることです。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：関 豪
------	-------------	-------	--------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

常に立学の精神を念頭に置き、学生らが主体的に課題に取り組み、解決に導くことができるような教育を心がけている。 特に健康と運動の観点から学生へアプローチし、充実した学生生活を4年間過ごせるようサポートする。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：スポーツ科学	生涯健康な生活を営むために身体運動のメカニズムを理解し、体力の維持・増進を目標とした運動を自ら実践できるようにする。 アクティブラーニングとして、講義に対する質問、感想、要望等をB6程度の用紙に記載してもらい、講義終了時に毎回提出させている。質問、感想、要望に対して、次の講義にてフィードバックしている。また、パワーポイントおよび資料の提示に加え、映像を視聴させるなど工夫を凝らしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：スポーツⅠ・Ⅱ	生涯健康な生活を営むためにスポーツ（運動）を活用する機会が見受けられる。 各自の体力および基礎能力を把握して取り組むことが必要であり、体力の維持・増進、熱中症予防など身体への理解を深めさせる。 また、実技種目のパフォーマンスの向上のほか、グループワークを通じて仲間づくりおよび協調性を身に付けさせる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：スポーツ科学	スポーツ科学：理解度3.65、満足度3.71（2コマ平均） スライドの文字、配布資料の大きさなどについて指摘する学生がいたため、次年度に向け改善を心がける。 1コマは受講者が98名と多くなり若干窮屈感はあったものの、2コマとも静かな環境を維持することができた。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：スポーツⅠ・Ⅱ	スポーツⅠ：理解度3.82、満足度3.87（4コマ平均） スポーツⅡ：理解度3.90、満足度3.94（4コマ平均） 学生ら理解度、満足度も非常に高い結果である。 熱中症等の事故を防ぐため、特に休息および水分補給に配慮した。学生からは空調など施設面の要望も多く、事故を未然に防ぐためにも設置は必要である。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	令和4年度授業評価アンケート結果を反映し、令和5年度よりパワーポイントで提示した内容を資料として配布（一部WebClassにもアップ）した。 学生からの評判もよく、今後さらなる資料改善に努める。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度および令和4年度授業評価アンケート結果について理解度および満足度から比較する。 スポーツⅠ・Ⅱは、昨年度とほぼ変わらず非常に高い結果を得ることができた。引き続き事故等がないように努める。 スポーツ科学においても昨年度とほぼ変わらない結果であり一定の評価は得られている。令和5年度は資料の配布およびWebclassの活用など新たな取り組みを行ったが、より良いものへと改善に努める。また、学生へ提示する資料収集のため、学会などへ参加し情報を取り入れるよう努める。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：世良 清
------	-------------	--------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神から、とりわけ「世界に信頼される日本人」、情報メディア学科ディプロマポリシーからは「情報システムやネットワークに関する知識と技術」に着眼し、卒業後、産業界や地域社会で活躍し、貢献できる人材育成が重要と考え、授業科目、演習を通して、社会常識やビジネスマナーなどの指導に力点を置く。その上で、国家資格である情報技術者試験の受験指導を通して、より高度な技術の習得を目指す指導を行う。また、著作権や産業財産権などの知的財産権の知識や態度を身につけることによって、グローバルな感性をもった人材の育成に努める。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 情報と職業	今日の産業構造には、「情報産業」と称される業種・業態が出現した。第1・2次産業では、主として、有形の「もの」を扱ったが、「情報産業」では、第3次産業を超え、無形の「もの」を扱うことが根拠にある。この「無形のもの」は、換言すれば「無体資産」あるいは「価値」として捉えられるが、これを取り扱う職業のあり方について検討する。また、職業適性検査などの体験と、その指導法についても実習する機会を設定する。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 情報と法律／情報管理	今日の情報化の進展には、光と影の部分がある。コンピュータやネットワークは、人々の生活や産業の発展に大きな変革をもたらした一方、著作権法違反や不正アクセス、コンピュータウィルスによるトラブルなど、情報化に伴う事故・事件が多発している。本講義では、情報にかかわる法律を概観し、セキュリティ技術のほか、個人情報保護や著作権を含む知的財産についても講述する。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 情報管理	本講義では、内閣府サイバーセキュリティセンターや（独）情報処理推進機構などの行政機関や民間会社へのサイバーセキュリティ対応状況を把握すると共に、サイバーセキュリティに関する情報処理技術者試験（ITパスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験など）の問題演習を通して、意識や知識の定着を図る。
4.教育活動や教育業績 科目名④： ITパスポート	本講は、情報処理技術者試験の内のITパスポート試験に合格することを目指し、ITを活用するこれから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を身に付ける授業である。受講期間内にITパスポート試験の受験は必須であり、各回の授業は、問題演習を中心に行う。従って、受講者は、授業に際し指定した事前・事後の演習問題に欠かさず取り組む必要がある。また、2年次で実施する基本情報技術者試験免除制度（FE講座）を希望する者には本講の受講を推奨している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： 情報と職業	2022年度後期開講に引き続き、2023年度前期の開講であり、内容や授業進行には、比較的練れた状況であり、卒業・就職に向けて、実用的な授業として、授業者としては特段の課題は把握していない。教室のホワイトボードは、縦に細長い教室では見にくいことから、昨年度から、Ipadを持参するように指示し、ZOOMの画面共有機能を使用してハイブリッド授業を行っており、熱心な学生は積極的に使用しているが、「板書（黒板に書く）」やモニター提示の仕方や内容が適切であった」が低い状況は、おそらく、使用しなかったことによると考えられる。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 情報と法律／情報管理	受講者は、主として2年生を対象とし、3・4年生も含めて87名と多く、また、学外からの聴講者1名もあり、昨年の授業の踏襲ではなく、授業内容に工夫を凝らした。「倫理」を単に知識として習得するのに留まらず、情報社会で直面する今日的課題（SNSの不適切な投稿や、いわゆるブラックバイトの問題など）を、新聞記事などから喫緊の話題を取り上げるなど、受講者の身の周りの身近な問題を取り扱ったり、教科書の論議を行うなどにより、大人数ではあるが、その短所をカバーするように努めた。受講生のコメントには「話が脱線する」との記述が見られるが、これは決して単なる雑談ではなく、各種の事例を取り上げて、具体化するためのものであり、むしろ授業進行にとって重要なものではあるが、これまでに、単純に教科書などを単純に上から順に読み上げていくような授業を受け身で通してきた者にとっては、違和感があるのかもしれない。受講者の実態に即して授業展開を単純化するなどの工夫の必要性を感じる。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 情報管理	主として1年生を対象とし、2年生以上からの受講もあったが、30名と適切な受講者であり、比較的落ち着いた授業展開ができた。ただ、4年生で、「情報倫理」と「情報管理」を今期に同時に受講した者もあり、情報社会で直面する今日的課題などは、重複する部分もあり、苦慮した部分がある。「情報セキュリティマネジメント試験」のB試験（A試験は知識を問う、B試験は実例をもとに、一般化された情報セキュリティ管理の設例をもとに、状況を読み取り、対応策を考えるなどの問題）の解説を行ったが、これは全般に良好であった。これを背景に、今後は、事例研究を充実させたいと考えている。なお、情報セキュリティマネジメント試験に合格した学生も少数ながら輩出した。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： ITパスポート	カリキュラムの相違により、学科特別科目（単位は認定するが、卒業要件とならない）として開講する2年生以上と、卒業要件として開講される1年生向けに、カリキュラム上で別科目であるが、実態としては合体して行った。前者は5名、後者は32名の受講者があり、さらに、すでに単位を修得した者にも、希望によって聴講を認めた。3名の希望があった。これは、学科特別科目受講者と併せて、単位を修得したいのではなく、ITパスポート試験に合格したいと考える受講者であった。卒業要件となる1年生も全般として、欠席数や授業遅刻は比較的少なく、受講態度は良好であったが、ITパスポート試験合格に向けた意欲は、双方の科目間には差異が見られ、授業アンケートにも明確にしが現れている（但し、回答者数に差異があることには留意が必要）。実際に2年生からは、実際に複数のITパスポート試験の合格者があった。合格した者は、正規の授業時間内だけではなく、個別に対面・オンラインで指導を行ったことも合格者輩出の背景にある。単位認定が終わった後も、引き続き個別指導を希望している学生もあり、フィードバック指導を続けている。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「情報と職業」については、中間提出のレポートに、個別添削を行ったり、手づくりの「クレベリン検査」などを実施している。市販の検査用紙は有料のため、学生の経済的負担があり、当然に不法複写はできないので、私自身の手作りの検査用紙を作っている。 「情報と法律・情報倫理」は、受講者は、主として2年生を対象とし、3・4年生も含めて87名と多く、また、学外からの聴講者1名もあり、昨年の授業の踏襲ではなく、授業内容に工夫を凝らした。「倫理」を単に知識として習得するのに留まらず、情報社会で直面する今日的課題（SNSの不適切な投稿や、いわゆるブラックバイトの問題など）を、新聞記事などから喫緊の話題を取り上げるなど、受講者の身の周りの身近な問題を取り扱ったり、教科書の論議を行うなどにより、大人数ではあるが、その短所をカバーするように努めた。受講生のコメントには「話が脱線する」との記述が見られるが、これは決して単なる雑談ではなく、各種の事例を取り上げて、具体化するためのものであり、むしろ授業進行にとって重要なものではあるが、これまでに、単純に教科書などを単純に上から順に読み上げていくような授業を受け身で通してきた者にとっては、違和感があるのかもしれない。受講者の実態に即して授業展開を単純化するなどの工夫の必要性を感じる。 「情報管理」は、主として1年生を対象とし、2年生以上からの受講もあったが、30名と適切な受講者であり、比較的落ち着いた授業展開ができた。ただ、4年生で、「情報倫理」と「情報管理」を今期に同時に受講した者もあり、情報社会で直面する今日的課題などは、重複する部分もあり、苦慮した部分がある。「情報セキュリティマネジメント試験」のB試験（A試験は知識を問う、B試験は実例をもとに、一般化された情報セキュリティ管理の設例をもとに、状況を読み取り、対応策を考えるなどの問題）の解説を行ったが、これは全般に良好であった。これを背景に、今後は、事例研究を充実させたいと考えている。なお、情報セキュリティマネジメント試験に合格した学生も少数ながら輩出した。 「ITパスポート」は、カリキュラムの相違により、学科特別科目（単位は認定するが、卒業要件とならない）として開講する2年生以上と、卒業要件として開講される1年生向けに、カリキュラム上で別科目であるが、実態としては合体して行った。前者は5名、後者は32名の受講者があり、さらに、すでに単位を修得した者にも、希望によって聴講を認めた。3名の希望があった。これは、学科特別科目受講者と併せて、単位を修得したいのではなく、ITパスポート試験に合格したいと考える受講者であった。卒業要件となる1年生も全般として、欠席数や授業遅刻は比較的少なく、受講態度は良好であったが、ITパスポート試験合格に向けた意欲は、双方の科目間には差異が見られ、授業アンケートにも明確にしが現れている（但し、回答者数に差異があることには留意が必要）。実際に2年生からは、実際に複数のITパスポート試験の合格者があった。合格した者は、正規の授業時間内だけではなく、個別に対面・オンラインで指導を行ったことも合格者輩出の背景にある。単位認定が終わった後も、引き続き個別指導を希望している学生もあり、フィードバック指導を続けている。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の成果・教育業績については、一部で上に述べたが、総括すると、立学の精神やディプロマ・ポリシーに基づく教育理念に示した事柄の実現を目指した。 本学に就任し、3年目を終えるにあたり、本学の学生の特質の現状と、引き続き改善すべき課題が見えてきた。学生はWEBCLASSなどで即答できるような授業がとつきやすく、好む傾向がある。ITパスポートのような資格試験対策には適している。一方、情報倫理のような、受講者がじっくりと考察するような科目には、方法にもよるが、全般として余り適切とは考えられない。むしろ、紙と鉛筆でじっくりとレポートを書き上げるような授業を行いたい。学生の実態に迎合するだけではなく、毅然として、自己で考え意見を書き表す指導をしないと、論文を書く力が身につかないので、学生は結果、卒業論文をしっかりと書くことができなくなると考えるからである。 「情報と職業」については、中間提出のレポートに、個別添削を行ったり、手づくりの「クレベリン検査」などを実施している。市販の検査用紙は有料のため、学生の経済的負担があり、当然に不法複写はできないので、私自身の手作りの検査用紙を作っている。 「ITパスポート」は、実際の資格試験対策を兼ねて、途中2回の中間テストを行った。受講生自らが中間の学習状況を把握して、学習意欲や学習成果の向上を図った。 情報倫理と情報管理は、単なる知識のばらまきを選び総合的な考察力を身につけるため、12月の14回目の授業で、レポート課題を示し、1月の15回目提出することとした。两科目、1000字以上2問＝2000字以上の記述を求めたが、大多数のレポートで、規定字数の記述があった。文字数だけで評価するのではないが、受講生にとって、年末年始に取り組むことができ、記述する能力の向上に資したと思われる。 科目共通としては、本館3階などの縦に細長い教室では、後部座席からはホワイトボードを見ることが困難で有り、また、画像提示装置を使用しても、南側窓からの直射日光の照射は、カーテンを開けても見にくいようである。そこで、事前に用意したプレゼン画面などは、プロジェクタなどに投影しつつ、ZOOMの機能を使用して送信した。但し、インターネットを介した公衆送信は、著作権の取扱いに留意する必要があり、使用できない場合もあった。リアクションペーパーを元に、随時、記述された内容を、次の授業でコメント返しを行った。これらを通して、レポートや論文執筆を指導するように努めた。 今後は、職位の変更はあるが、引き続き、昨年度から実施している「基本情報技術者試験免除講座（FE講座）」にも一層の力点を向けたい。修了試験を今年度前期に初めて実施したが、人数は10名と多くないものの、80%の合格率であった。引き続き、合格率を維持するとともに、本試験での多数の合格者輩出を目指す所存である。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：准教授	氏名：高橋 圭
------	-----------	--------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私がこれまで学んできたことや体験したこと、今学んでいることなどを通して、学ぶ楽しさや他分野・他職種の連携の重要性・多角的な視点、学生の将来の可能性の幅を広げることを軸にして教育に取り組むたいと考えている。本学学生には勉強する経験や習慣がない子が一定数いるが、学ぶことで視野が広がる経験をしたり分らなかったことが分かるようになる楽しさを知ること、主体的に課題解決に向かったり、学問を通して技術や知識を磨くことにつながると考えているためそのように教育をしようと努めている。 担当する応用栄養学は色々な科目とも関連し、健康の維持・増進や疾病の予防について学ぶため、他科目との関連付けを行いながら実施している。同時に臨地実習や卒後の社会での実践的な能力を身に付けさせるため、学んでいる知識の活用方法や例などもなるべく入れるようにしている。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：ライフステージ栄養学Ⅰ	栄養管理の流れ、食事調査方法、身体計測や血液検査内容、体重管理、1日の栄養量の基準についての内容について1年生後期に講義をしている。これらの内容は2年生以降の病態や臨床・応用系科目の基礎になる部分であるため、関連付けたり例を出しながら説明するようにしている。特に体重管理の部分では、体格指数(BMI)や標準体重などの計算方法を説明するが、計算をしなくてもおおよそのBMIがイメージできるようワークを少し行ったり、体重の種類(標準体重、目標体重、現体重など)の使い分けなど実践をイメージしたことも取り入れるようにしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：ライフステージ栄養学実習	調乳や離乳食の作成、対象者に合わせた栄養アセスメントと献立作成・調理実習などの演習を行っている。座学で学んだことを体験してもらうことも行っているが、3年前期科目であり臨地実習に行く前であるため、今まで学んできたことの振り返りなども取り入れながら、それらを活用できるような演習(献立の立て方のポイントやアセスメントのコツ、生活習慣病などと栄養の関係などのワーク)を行うよう努めている。栄養アセスメントおよび栄養計画の内容については、なるべく色々な視点を持てるようにアドバイスしながら演習を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：臨地実習指導	3年生前期科目で臨地実習とは、言葉使い・メールの書き方、服装、実習ノートやお礼状の書き方などについての講義、臨地実習ⅠとⅡそれぞれのポイントについての演習、現場の管理栄養士の先生方からの各施設での栄養士の役割についての講演などを実施している。オムニバス形式ではあるが、学生が社会人・文理大学の学生・実習生としての責任や品性について自覚できるように努めている。また、各現場でのしごとについてイメージできるように取り組んでいる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：臨地実習Ⅱ	実習前の自主課題は、学生1人1人に実習での目的意識をもたす為に実習前に行わせている。自主課題は学生自身が病院で主体的に学びたい内容を考え、それに対して目的、方法、事前学習を作成する。できる限りその内容を選んだ理由や学びたい理由を聞き、その内容に合わせて質問内容をブラッシュアップするようにしている。1つでも多くのことを学べるように方法の内容や周辺領域についての説明や他に見てきた方が良い内容についても学生に話をしている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：ライフステージ栄養学Ⅰ	ライフステージⅠは検査数値や栄養素の摂取すべき基準値についての内容であるため、1年生にとっては難しめの内容にはなっている。それでも理解について85%以上の学生が「3」以上をつけているので、理解は得られているかと考える。自由記述でも「スライドがまとめられてわかりやすい」などの意見もあった。しかし、成績評価を国家試験を踏まえて定期試験の1回勝負にしており、ライフステージⅡやⅢと比較して再試験者の数が多くなっている。きちんと定期試験に向けて内容を覚えられるように、さらに理解度を上げることやアウトプットの方法を考えたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ライフステージ栄養学Ⅱ	ライフステージ栄養学Ⅱについては「授業の内容が理解できた」と「この授業に満足している」はほぼ同じ傾向である。「授業の内容が理解できた」で1および2をつけた学生は5人しかいないが、再試験が必要な学生は17人でありギリギリ点数をとって単位取得した学生も10人弱いることを思うと理解できた主観と定期試験結果の客観では違いが生じる。しかし、今回の定期試験では高得点をとっている学生が多いため、授業に参加しきっちり学修して理解度4を記入した学生は点数に反映しているかもしれない。なるべく難しい単語を使わず、分からないことを前提に話をしていることも理解度の役に立っているかと思う。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：ライフステージ栄養学Ⅲ	ライフステージ栄養学Ⅲについては両クラス合わせて、理解度および満足度が95%以上の学生で「3」以上であった。特に他の科目とやり方を変えているわけではないので、学生の興味のある分野だったリイメージしやすい内容だったのだろうと考えが、定期試験も再試験者が少なかったためきちんと理解をしていると考える。他の科目についても同じようになるよう努めたい。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	ライフステージ栄養学実習については、学生のレベルなどを考えコロナ前に比べて課題の時間にゆとりを持たせて行った。また、臨地実習に向けて取りこぼしそうな基本的な内容も本分野に合わせて行っている。座学のライフステージ栄養学を踏まえての実習であるが、単位を落としている学生や内容を忘れ去ってしまっている学生も多いと思い、基本から説明する所はゆっくり丁寧に説明することとしている。その結果、理解度につながっていると考えが、しっかり分かっている学生にとっては説明がくどく長くなっているかもしれない。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業アンケートが実施されているため、その内容を見ながら改善できるような内容は取りいれられるようにした。 ・臨地実習指導はオムニバス形式で複数の先生で担当しているが、他の先生の担当回も参加し、学生へ伝えている内容を踏まえながら自分の担当回でもその屋いようを組み込みながらを行うようにした。 ・外部のオンラインセミナーなどに参加し知識を増やし、自身の授業にも取り入れたり、自分の担当科目との関連性を説明した。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の単独科目はライフステージ栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ライフステージ栄養学実習をそれぞれ2クラス、卒業演習Ⅰ・Ⅱを担当し、オムニバス形式の科目は臨地実習指導、教職実践演習(栄養教諭)、健康栄養学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、総合演習Ⅰ・Ⅱを担当し、その他学外での実習科目として臨地実習Ⅱ・Ⅲ、栄養教育実習(教職)も担当した。 臨地実習では22施設のべ47人、教育実習では3人に対して、実習先で1つでも多くのことを学べるように、生活指導なども含めた事前・事後の指導を行った。 令和6年度は、座学では学生が自主的に学べるように、臨地実習の指導では実習直前の課題の駆け込みをせず余裕をもって取り組むように仕向けられるよう努めたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 竹内 陽介
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

本学では主に社会学、社会調査関連科目を担当している。これらの科目は食と情報に重点を置く本学において必修ではないものの、学生が生きていく将来社会や現代社会の成り立ちを理解する上で必要な科目である。 社会学は人々の意識や行為、集合行為に着目して、社会の様々な領域を分析する学問であり、社会調査とは社会学の実証的研究法である。これらの授業が学生に教授する知識は、ディプロマ・ポリシーにおける「社会への関心」の涵養、あるいは社会の「課題発見力」と強く関連している。例えば国内の食糧自給の要である農家が抱える諸問題の検討や、コロナ禍で露見した飲食店経営のある種の脆弱性など、食に関わる領域においてもフィールドワークや統計調査を駆使して現状を分析し、課題を発見することができる。社会学や社会調査法はそうした資質の基礎を養うものである。 社会学は「正しいこと」や「こうすべきである」ということを言うための学問ではない。それらは倫理観や価値観の問題である。社会学はなぜそのようなにして事実が構成されているのかを、実証的に探求して、そのプロセスや帰結を説明する学問である。そうした態度の涵養に寄与する教育を本学で実践していく。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：社会学	現段階で担当しているのは社会学のみであるが、本講義では過去と現在の比較を一つのテーマにしている。主に家族、働き方、地域社会という、社会を分析する基本的な視座を主軸に据えて、なぜそのような変化が起きたのかを、受講生に投げかけ、考えさせたり簡単な発表をさせたりしながら講義を進めている。例えば昨今社会問題化している「若年層の出生率の低下」は、若いカップルや家族の何が変化したことにより生じているのか。受講生はまず自身で考える形で「仮説」を構築し、講師は後にそれをデータを示しながら解説していく。さらにその解説は絶対的な答えではなく、現実に変化していること、学生の示す見解こそが社会の一部を構成していることを述べる。以上が社会に対する「なぜ？」を涵養するための実践の一部である。
2.教育活動や教育業績 科目名②：	
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：社会学	アンケート結果は「概ね良い」評価だったと言える。平均評点が3.5前後であり、目立って低い項目がなかったためである。特にポジティブな評価がされていたのは、授業・資料・講師の話の分かりやすさである。社会学はとっつきやすいが難しい学問である。それを分かりやすく伝えられたという点で、本講義は概ね成功していると評しても良いだろう。一方でシラバスの意図をより明確に説明する必要性、講義に参加する積極性に関しては相対的に評点が低かったため、シラバスに記載されている授業の目標や意図の説明を初回でより丁寧に行うこと、よりとっつきやすい授業構成等の改善が必要である。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：	
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	本講義では毎回コメントシートの提出を求めており、これが学生のリアクションや疑問を確認する媒体になっている。さらにここでの感想や質問を授業毎に取り上げて解説する形で授業が始まるため、学生は他の学生の考えを知り、疑問を解消するとともに、前回講義を一部復習しつつ講義に望むことができる。 また講義内でWeb Classを利用したアンケートを行っている。これはFDのためというより、講義内容を理解するためのものだが、双方向で講義が行われる事例として記載しておく。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年9月に着任し、社会学を半期教えたのみで成果や教育業績など語り得るものではない。したがって令和6年度の目標を中心に記述する。 まず社会学の講義を行っていて目立つのは、意欲のある受講生と講義に関心のない受講生の差である。基礎教養の講義では例年生じることだが、令和6年度からは社会調査士科目等、別講義も担当することから、こうした課題を踏まえつつ授業方法を検討したい。とりわけ資格科目では教授する内容にある程度の制約があり、身につけさせる知識がはっきりしている。こうした科目の場合、例えば習得が必要な地域に関しては穴埋め形式の資料を作成して書いてもらい、期末試験等で問うなどの形式を取り入れても良い。要するに講義を受講する上で、作業工程が明確な講義構成にすることで、取り掛かりやすい形を用意するということである。次年度のいくつかの科目ではこうした取り組みを行う。 また今年度の講義は学生に発言を求めることもあったが、講義内のごく一部であり、受講生の評判は良かったものの、講師としては効果が不明瞭だったと考えている。したがって次年度では、担当する科目に学生が能動的に取り組む科目が多いことから、そうした科目で学生の取り組みを支援し、報告機会を多く設ける講義の実践、および効果を確認していきたい。 最後に、今年度から社会調査士科目を復活させ、次々年度以降、資格取得が可能となるように準備が進んでいる。したがってそのスタートとなる次年度の講義では多くの志ある学生に社会調査に関心を持ってもらい、社会分析の方法を学んでもらうことも目標としたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 田中 明子
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

世界に約7000あるといわれる言語の中からなぜ自分が母語について学び、第二言語として英語という言語を学んでいるのかを学生自身が考えるきっかけとなる講義・演習を行うことは、大学における英語教育の重要な役割の1つである。その役割を果たすための工夫の1つとして考えられるのは、講義・演習の中に学生が英語史や英語学の研究成果に触れることのできる機会を作り、それによって母語への気づきを促すことである。このような体験を通して学生が専門以外の科目の学びにも責任感を持って取り組む姿勢を身につけることができれば、大学での専門分野の学びもより豊かなものになると考えられる。同時に、大学における英語の講義は、学生が英語を使って自分の考えを明確に伝える力を身につけるための場としても重要な役割を担っている。その役割を果たすための工夫の1つとして考えられるのは、講義の中に学生がコミュニケーションの効果や意図を理解し適切に表現する能力を身につけるための実践的な活動を用意することである。このような活動を通して学生がグローバルな問題に関心を持つことができれば、それらの問題を解決したり他者と協働するためのコミュニケーション力を育むことができると考えられる。このような理念に基づき、英語の講義は継続的な英文作成に焦点を当て、フードビジネス学科の演習は商品名に観察される音象徴に焦点を当てる。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：プラクティカル・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	英語の歴史、母語獲得と第二言語習得の違い、翻訳ツールの仕組みなどに関する講義を行う。基礎的な英語力を強化するための解説と実践指導を行い、すべての教材をWebClassに掲載し、講義資料をWebClassで公開する。毎回提出される英文に対して個別の添削を行う。
2.教育活動や教育業績 科目名②：フードビジネス・イングリッシュⅠ、Ⅱ	英語がフランス語から受けた影響やイギリスの食文化について、英語史の視点から講義を行う。専門的な英語力を強化するための解説と実践指導を行い、すべての教材をWebClassに掲載し、講義資料をWebClassで公開する。毎回提出される英文のレシビや企画書に対して個別の添削を行う。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習、研究発表	音象徴について講義を行う。商品名調査の手法と、音声分析の手法を解説する。学生が自ら輪読会や討論会を運営できるよう事前打ち合わせを行う。アンケート調査および分析を指導する。共同の研究発表会と個別の卒業論文執筆に向けた指導をする。名古屋図書館での絵本の会の企画を指導する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：フードビジネス学入門	予習課題として行なったWebClassアンケートをもとに、ヒトの言語の機能、英語の歴史、翻訳ツールの仕組みについて講義を行い、フードビジネス・イングリッシュを学ぶことの意義や心構えを解説する。知識の定着のための授業課題としてWebClassに教材を掲載する。復習課題としてレポートを課し、WebClassの機能を活用して、フィードバックを行う。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：プラクティカル・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	4つのクラスで多少のばらつきはあったが、アンケート項目の平均値は3.22から3.89、理解度の平均値は3.39から3.58であった。学生にとって学びやすい講義の進め方になっていたと考えられる。自由記述からはWebClassにすべての資料と教材を掲載していることが、計画的に課題に取り組み、理解を深めるきっかけになった要因であることがうかがえる。情報メディア学科の1クラスを除き、自由参加の課題にもほとんどの学生が積極的に取り組んでいたことから、継続して能動的に学ぶ姿勢が身についている様子もうかがえた。ほとんどの学生が毎回行う個別の英文添削にも前向きに臨み、多くは修正した英文の再提出も行っていたことから、自分のペースで学びたいという学生の希望に沿うことができたと考ええる。今後は決められたペースで課題に取り組むことを促す工夫が必要である。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：フードビジネス・イングリッシュⅠ、Ⅱ	アンケート項目すべての平均値が3.60であった。学生にとって学びやすい講義の進め方になっていたと考えられる。自由記述からはWebClassにすべての資料と教材を掲載していることが、積極的に課題に取り組み、理解を深めるきっかけになったことがうかがえる。毎回行う個別の英文添削は、学生自身が伝えたいことを共にことばにする作業であるため、学生と積極的にコミュニケーションをとりながら進めたが、学生の出席状況によっては十分な時間を取ることができなかったため、WebClassの機能を利用した添削も行なった。今後は、WebClassの機能を利用した添削の充実を図る必要がある。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：卒業演習、研究発表	授業評価アンケートなし。3年次から継続して研究を続ける学生と4年次から新たに研究を始める学生が混在するクラスであったが、学生どうしが理論的な枠組みを教える工夫もみられ、全員が枠組みを学び、調査を行い、考察して、卒業論文を仕上げることができた。学生自らが輪読会や討論会を運営するために、各回の司会者、レポーター、サブレポーターとの事前打ち合わせを行いながら進めたが、学生の就職活動の状況によっては、調査の時間とサブゼミの時間を確保することが難しいこともあった。今後は、WebClassの機能を利用した打ち合わせ方法を検討する必要がある。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：フードビジネス学入門	授業評価アンケートなし。オムニバス形式の授業の1回分を担当。予習課題と復習課題を課すことによって、講義の日の前後1週間ずつをWebClassを通した学生とコミュニケーションに充てた。復習課題とレポート課題への取り組みからは、興味を持って講義に臨む学生の姿がうかがえたが、WebClassのアンケートからは予習課題に取り組んでいなかったり、その日限りの取り組みとなる学生がいたことも明らかになった。今後は、15回の授業全体の中での担当回の位置付けを明確に伝えることが課題である。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	アンケート：毎回の個別英文添削の時間を利用して、学生から講義に対する希望や、講義中に困難に感じる点を聞き取った。WebClassのアンケート機能を利用して、学生から演習に対する希望や、演習中に困難に感じる点を聞き取った。 FD講習（学外）：一般社団法人「ことばの教育」主催・共催の講演会等に参加した。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の教育方法の実践例：WebClassの機能を利用した教材の作成と掲載、音声付き授業資料のWebClass掲載、WebClassとiPadを活用した発音クリニックの実施、個別の英文添削。英文レシピ発表会の実施。卒業論文のピアレポートの実施。
令和6年度の目標：WebClass掲載の教材の改良と、新たな教材の作成。WebClassを利用したよりよい英文添削方法の開発。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科： フードビジネス学科

職位： 准教授

氏名： 堤 浩一

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース
モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。
2. 映像メディアコース
映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。
3. サウンド制作コース
音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。
4. メディアデザインコース
グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

学びに対して誠実であること。誠実であることが「世界から信頼され」、「自由と責任を重んじ」、「特に品性を高め」ることにつながっていると信じているため。知識だけでなく、知恵、すなわち知識を生かした“考え方”のほうを重視するように心がけている。こういった、知識の“使い方”を多く知ること、知識をより深い理解に基づいて身につけることにつながり、これがすなわち「学問を通して知識技術を磨く」ことであると考えているため。と同時に、「正しい歴史観と人生観を培う」ことにもつながると信じているため。また、現場で知識が使われているということは、そこにあった問題が解決された結果であるので、知識の使われ方の事例を多く知ことはすなわち問題解決の事例を多く知ることと同義である。したがってこのような教育をおこなうことで「実践力を身につけ」「課題発見力を有し」「問題解決力を身につける」ことにもつながると考えている。

学生自身が自己完結する形で知識技術を磨くだけでなく、プレゼンテーションの場を設けて他者からの質問にさらされる機会を与えることで、自分自身を“修正する”機会も提供する。これにより自己の主張を客観視できるようになり、より「正しい歴史観と人生観を培う」こと、および「問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけ」、「社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけ」ることにつながると考えている。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 食品学I、食品学II、食品衛生学	座学科目である。教科書レベルの知識をできるだけ噛み砕いて解説することを心がけている。勉強を苦手とする学生が、対策が必要なレベルの教受講していると想定して、以下のような取り組みをおこなっている。 ・実際の事例や最近のニュースと結び付けて教えることで、授業で習う知識が現実の知恵として生かされている、すなわち知識だけでなくその“使い方”まで繋げて教えることで理解しやすくなるようにしている。上記の通り「実践力」「課題発見力」「問題解決力」にもつながると考えている。 ・空欄を穴埋めする形式のプリントを配付している。穴埋めすればノートとして完成するようにしてあり、ノートというものの一つの見本となることを目指している。 このプリントを参考に、他の授業でもノートが取りやすくなるようになればとも考えている。 ・可能な限り、他の科目と関連する話題については、その旨を紹介するようにしている。フードビジネス学科の多くの科目で学ぶ知識はお互いにつながりがあることを示すことによって「フードビジネスの基本を体系的に理解」することにつながると考えている。そのために、自分の担当していない科目の教科書やシラバスも余裕のある時にチェックしている。 ・毎授業で感想を書いてもらうことで、少しでも授業内容を覚えて帰ることができるようにしている。また質問も書いてもらい、次の授業時にそれに対して答えることで、各学生自身の個別の知識に基づいて、その“使い方”“考え方”につながるように対応している。 ・学生が知識を実際に“使う”機会を与えることにより「知識技術を磨く」実践ができるようにするために、WebClassにいつでも繰り返し挑戦できる練習問題を設置している。本学科がフードスペシャリスト養成認定校であることに鑑み、フードスペシャリスト資格試験の過去問の第1回から最新の回までの、食品学、食品衛生学に関連する問題をすべて網羅しているものである。「定期試験対策にもなる」という呼びかけもおこなっているが、学生の利用率は極めて低い。 業績は特に無い。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 食品学実験	実験実習科目である。毎授業、実験内容の解説を書いたプリントを配付し、学生には測定結果と考察を記入してもらう。そのプリントを回収、採点し、返信や解説を入れた、次週に返却するというスタイルをとっている。また文字情報だけでは通じにくい面が多い授業であるので、実験を実演している様子を見せる動画教材を用意し、WebClass経由でYoutubeで限定公開している。授業1週間程度前には公開し、学生が予習できるようにしている。 採点評価の際は、得られたデータに基づいてどのように考察しているかを重視している。どのような考察をすべきかは、ある程度は授業中に解説している。正しくない考察に対しては、なぜ正しくないのか解説のコメントを入れたうえで各学生に返却することで個別対応している。このように“考察する”という行為を通して知識を正しく運用する体験してもらうようにしている。これにより、座学系科目では実施できない方法で知識を生かした“考え方”が身につく、すなわち「学問を通して知識技術を磨く」ことにつながると考えている。また、授業時間中に“体験”してもらいたいため、考察を書く手が止まっている学生にはできるだけ積極的声をかけ、助言を与え、筆が進むようにしている。 インターネット検索を利用することも許可しているが、測定データとの整合性が取れていない考察については、たとえ（本来あるべく通りの実験データが得られていれば）正解と言えるものだったとしても注意を与えるようにしている。実験データに対して誠実に向き合うことを追求することで、「世界から信頼され」「自由と責任を重んじ」「特に品性を高め」ることができるようになると考えているためである。またこうすることで学生に“厳しすぎる”“わけが分からない”という印象を抱かせないように、可能な限りすべての事項に対して理由を付けて学生に説明するようにしている。学生が理不尽に感じる部分が無いように心がけ、誠実であることとリーズナブルであることが両立するようにしている。 業績は特に無い。

3.教育活動や教育業績 科目名③： 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究	調べものが中心となる演習科目である。 基礎演習では学生自身が決めたテーマに沿って、各々が主に図書館にある書籍を読み、その内容をまとめてプレゼンテーションをおこない、他の学生からの質問を受けるという内容の授業をおこなっている。学生自身で調べ物を進め、それを発表できる形にまとめることで「主体的に学習に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけ」ることにつながると考えている。また調べた内容を一つの発表として話をつなげるには「体系的」であることが必要になるため、「フードビジネスの基本を体系的に理解」することにつながると考えている。教員から質問・助言を与えることで、学生自身では気付きにくい"「体系的」にする"ための視点や方法を提供できるように心がけている。 卒業演習および卒業研究では学生自身が決めたテーマに沿って論文を読み、その内容をまとめてプレゼンテーションをおこない、他の学生からの質問を受けるという内容の授業をおこなっている。題材として論文を採用しているのは、科目「卒業研究」における発表を見据え、研究というもののフォーマットがどのようなものであるのかを身につけてもらうためである。また、論文自体が何かしらの課題を見出してそれを解決している文書であるため、その内容を理解する経験を積むことが「課題発見力」「問題解決力」の養成につながるとも考えている。 論文に掲載されているデータについて、どういった理屈でそれが取られたかを解説することで、学生にフードビジネス学科のカリキュラムでは教えきれない最先端の科学的知識（必ずしも最新ではないが）に触れさせる。また、そのデータが論文全体の文脈の中でどのような役割を果たしているかを解説することで、相手を説得することができる文書・資料の作成法についても実例を示すことができると考えている。これらにより「学問を通して知識技術を磨く」き、「修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけ」る力が身につくと考えている。選んだテーマによっては実験をおこなう。 なお、このような"なぜ論文を題材として卒業演習をおこなっているか"についての意図も授業中に説明して演習授業が目指す方向性を学生に示すほか、教員が率先して各学生の興味に合った論文を紹介・解説していくことで、学生が"過度に難易度の高いことが要求されている"というような理不尽を感じにくくなるようにしている。 業績は特に無い。
4.教育活動や教育業績 科目名④： 専門演習Ⅰ・Ⅱ	食品学・食品衛生学に関連した実験をおこなう。実験自体は食品学実験でもおこなっているが、演習系科目は受講人数が少ないことを利用して、設備やコストの関係で実習系科目ではおこないにくい、やや高度な実験を中心におこなっている。 材料として身近な食品を利用しつつ、実験をおこない、実験レポートをゼロから書く訓練を積む。実験の中で関連する食品学・食品衛生学の知識を復習するとともに、復習したその知識を実際に"使う"機会を提供するという点は食品学実験と同じであるため、食品学実験と同様に「学問を通して知識技術を磨く」と同時に、「世界から信頼され」「自由と責任を重んじ」「特に品性を高め」ることができると考えている。また、できるだけ分析してみたい(=課題解決してみたい)実験材料を学生に持ち寄ってもらう機会を提供することにより、「課題発見力」「解決力」を身につけてもらうきっかけとなると考えている。 実験レポートは"問題提起し、それを検証するための方法を示し、得られた結果をもとに、提起した問題をどこまで解決できたかを考察する"文書であるため、これをゼロから組み立てる経験を積むことは、研究論文を書く際の練習ともなる。したがって、卒業演習・卒業研究の下地ともなると考えている。また、断片的な知識を組み立てて論理的な文に仕上げることは、知識を「体系的に」する体験にもなると考えている。 業績は特に無い。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： 食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、食品衛生学	3科目5コマの授業評価の理解度平均は3.36±0.12、満足度は3.64±0.15である。毎期出される全学の授業評価アンケートの点数分布と比較してきた経験から、学内の他の科目と比べて平均的な水準であると思われる。理科系科目になじみのない学生が多いことを考えれば、悪くはない成績であると考えて良さそうではある。 授業評価の自由記述に「質問コーナーで疑問が解消された」「詳しく解説してくれて適切だった」「復習のスライドがわかりやすい」とあることから、上記の取り組みは学生の理解度向上に有効であることが示唆される。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 食品学実験	授業評価の理解度は3.82、満足度は3.76である。毎期出される全学の授業評価アンケートの点数分布と比較してきた経験から、学内の他の科目と比べて平均的な水準であると思われる。理科系科目になじみのない学生が多いことを考えれば、悪くはない成績であると考えて良さそうではある。 授業評価アンケートの自由記述に「丁寧におしけ(教え)てくれた」「質問したらの確に教えてもらえた」「わかりやすく教えて下さった」などの声があったので、それなりに効果があったと思われる。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究	授業評価アンケートが取られていないので、省察の根拠にできる資料が無い。学生の反応を書くにしても根拠は主観しかない。ただの主観や妄想を省察として書く意味は無い。ゆえにここに書くことは何も無い。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートをとり、その結果に基づいて「総括と意見」を作成、提出した。その他には必要と思われる事項は無いように思われたので、「授業改善のために行ったFDの取り組み」としては個人的には特に何もしていない。今のところ、する予定も無い。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

平年通りであり、成果・業績は特に無い。次年度は、これまでの授業内容を維持するために努める予定である。 卒業演習Ⅰ、Ⅱで、ゼミ生の一人が私の研究テーマを選んだので、顕微鏡観察を手伝ってもらった。知見が深まったので、次年度再現性を確認し、数年以内に学会発表等の成果につなげるつもりである。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 中村麻理
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

フードビジネス学科のディプロマポリシーを教育理念としている。具体的には下記の通り。 フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。	1.
--	----

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：フードスペシャリスト論	フードスペシャリストとは、流通から消費にいたる過程で、食品の品質判定、食品の情報調査とその提供、食品知識の普及教育、販売促進とサービス、料理店におけるコーディネート、消費者のクレーム処理など、食べ物について総合的に良品を選定し、コーディネートする専門職である。ここでは、フードスペシャリストの意義とその概要について講義する。卒業後のフードビジネスの現場において役立つ基本的な知識を習得するとともに、最終的にはフードスペシャリスト資格の取得に必要な基礎力を身につける。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食文化論	古くから食はさまざまな地域に根ざし、人々の生活の中心としての食文化を生み出してきた。世界の食文化は、それぞれの時代背景の中で進化し、異なる自然環境の中で受け継がれてきた。ここでは、日本と西洋の食文化を学ぶことを通じて、食の世界のおもしろさ、奥深さを感じていただきたい。授業の後半では、演習的な課題も取り入れることとした。日本料理とフランス料理を中心に、それぞれの歴史と献立について、フードコーディネーターにとって必要とされる知識を身につけることができる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：フードプランニング	フードビジネスの第一線の担い手としてのフードスペシャリストには、さまざまな専門知識が必要とされる。ここでは、食情報の探索と食企画、食空間のコーディネート、メニュープランニング、フードマネジメント、食環境とフードシステム等に関する基本的な知識について講義する。卒業後のフードビジネスの現場において役立つプランニングのための基礎知識を身につけることができる。最終的にはフードスペシャリスト資格の取得につなげる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：食社会学	本講義では、現代日本の食生活を社会的に考察する。キーワードは食育である。最終的には、フードビジネスの現場における食企画の立案につなげる。フードビジネスの現場では、食育に関する網羅的な知識を持つ人材が必要とされている。この要望に応え、本講義では食育に関する基礎知識を身につける。これらの知識習得を通じて、社会に必要な基礎能力の訓練も行う。最終的には食育に関する提案のできる人材の育成につなげる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト資格取得の導入科目である。資格試験対応であるため、理解度が課題であるが、「11. 授業の内容が理解できた」は3.8で、昨年の3.7よりやや上昇した。「12. この授業に満足している」は3.93で昨年の3.7よりこちらも上昇傾向である。自由記述では、「卒業生の話が聞けてよかった」というコメントが複数見られた。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食文化論	「11. 授業の内容が理解できた」の昨年の平均値は3.8であった。昨年は3.62であったので、やや上昇している。「12. この授業に満足している」の平均値は3.77、昨年は3.65であった。自由記述では、「わかりやすい」というコメントが多く見られた。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：フードプランニング	「12. この授業に満足している」が3.74、「11. 授業の内容は理解できた」が3.68であった。昨年より数字が若干下がっている。最終回で回答を呼びかけたが、回収率が低かったため、さらなる工夫が必要である。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：食社会学	「12. この授業に満足している」が3.76で昨年と同じであった、「11. 授業の内容は理解できた」が3.64であった。自由記述では「わかりやすい」という記述が多く見られた。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートの結果を精読し、次年度につなげている。
-------------------------	------------------------------

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

・食文化論では、複数回の小テストを実施し、自宅での学習習慣を学生に身に着けてもらうように工夫した。ノートのチェックなども行い、学習意欲の向上を図った。 ・フードスペシャリスト論でも、小テストを実施し、3年で受験する資格認定試験の合格率アップに備えた。ノートのチェックなども行い、学習意欲の向上を図った。 ・フードプランニングは資格試験対応授業なので、練習問題を宿題としている。 ・食社会学では、視聴覚教材や演習課題を取り入れ、実践的な授業内容になるようにしている。さらに小テストを複数回行い、理解度の向上に努めている。	
---	--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：成田 裕一
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

管理栄養士として必要な知識の礎となる基礎栄養学分野の知識を、身につける。講義と実験の内容を連携させ、講義で学んだ内容を実験で、実験で身につけた知識を次年度の講義でさらに発展させる形で確実に知識を積み上げていく。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養学I	栄養学の基礎的知識を修得し、人々の健康の維持増進や、生活習慣病の予防などについて理解できるようになる。 三大栄養素について化学的な特徴と働きを理解し、実際の生活やその後の学修に应用できるようになる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：栄養学II	人々の健康の維持増進や、生活習慣病のなどの予防のための栄養学の基礎的知識を修得する。 栄養の基礎概念と、五大栄養素のうちのビタミン、ミネラルについて、および水や食物繊維についても化学的な特徴と働きを理解し、実際の生活やその後の学修に应用できるようになる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：栄養生化学	食べ物に含まれる栄養素について、体に取込まれた後どのように代謝されていき、エネルギーや体の構成成分になるのか、またそれらが食後と空腹時でどのように変化するのかを理解し、実際の生活やその後の学修に应用できるようになる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：基礎栄養学実験	基本的な実験技術を習得するとともに、各臓器の機能や病気との関係、脂質代謝の詳細について理解できるようになる。 また、実験レポート作成の基本を身につけるとともに、生命の尊厳についても考えられるようになる。 これらはいずれも、人々の健康の維持増進、生活習慣病などの予防のため、科学的実践的な能力を豊かに発揮できる管理栄養士には欠かせない知識と技術である。
5.教育活動や教育業績 科目名⑤：栄養生化学実験	基本的な実験技術を習得するとともに、各臓器の機能や病気との関係、たんぱく質の機能について理解できるようになる。 また、レポート作成の基本を身につけるとともに、生命の尊厳についても考えられるようになる。 これらはいずれも、人々の健康の維持増進、生活習慣病などの予防のため、科学的実践的な能力を豊かに発揮できる管理栄養士には欠かせない知識と技術である。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養学I	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。自由記述において、定期的な復習をする良い機会となると肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、引き続き授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：栄養学II	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。自由記述において、定期的な復習をする良い機会となると肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、引き続き授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：栄養生化学	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。自由記述において、定期的な復習をする良い機会となると肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、引き続き授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。 授業動画で事前に予習させ、授業時間中には練習問題と、3～5つ程度の論述問題に取り組ませるという反転授業を取り入れてみた。自由記述をみると、肯定的な意見(15件)と否定的な意見(12件)がほぼ半々の数であった。ただ、クラス間での違いもあったことから、その理由の検討が必要だと考えられる。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：基礎栄養学実験	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。これまで以上に、「一年生で学習した内容の復習である」点を強調して、内容の解説を行った。理解度も高い基準を維持することができており、また最終のまとめレポートや授業内テストをみても理解を深めることができた学生が増えた手応えがあった。自由記述においてもその点を理解したコメントが複数見られたため、継続していきたい。
5.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名⑤：栄養生化学実験	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。「一年生で学習した内容の復習である」点を強調して、内容の解説を行うことを継続している。理解度も高い基準を維持することができており、最終のまとめレポートや授業内テストをみても理解を深めることができた学生が増えた手応えがあった。さらに、自由記述においてもその点を理解したコメントが複数見られたため、継続していきたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	各回の授業時に学生からのコメントを自由に記入できる体制の整備、および期末の授業評価アンケート
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

昨年度、栄養生化学で試した反転授業について、それまでの知識の積み重ねが大きく異なる学生たちを対象にするには、細かくレベル分けした授業動画を、自分に合わせて試聴する形は有益であると考えられるため、型式などを工夫しつつ、次年度にも実施してみたいと考えている。 授業動画の作成とwebclassへの公開と、小テストの実施は、手間がかかる作業ではあるものの、学生に対してのメリットが大きいとえられるため、今後も継続していこうと考えている。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：長谷川聡
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

自由と責任を重んじ、学問の価値を理解して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、信頼される人間を育成するために、学生とともに考え、学び、情報システムコースおよび他コースの情報メディア学科の学生に必要な知識と技術を身につけさせ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、学生個人の学びを支援する。他学科や学外との交流も含めて学びの場とし、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけさせる。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：プログラミング演習I	情報システムコースおよび他コースの情報メディア学科の学生に必要なプログラミングに関する知識と技術を身につけさせるため、情報実習室にてC言語によるプログラミングの実習を実施。SAを配して個別指導を行うほか、対面およびLMS上で理解度の確認テストやプログラミング結果（提出課題のソースプログラム）の共有を行ってフィードバックに利用した。
2.教育活動や教育業績 科目名②：情報メディア論	通常の講義室でiPadを利用して学習アプリの利用やLMSによる情報交換、デジタルコンテンツの作成等を行って、一方向の講義だけでないアクティブラーニングの時間を設けた。情報メディア学科の学生に必要な知識と技術を身につけさせ、情報活用・分析能力も身につけられるような課題設定を心がけた。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習・専門演習・基礎演習	少人数でコロキウム（研究テーマについての・調査・研究・開発の途中経過などを報告してディスカッションを行う）を実施して、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、そして、学生個人の学びを支援した。学年を超えた交流も促した。
4.教育活動や教育業績 科目名④：情報メディア特別演習	コード教育プロジェクトを指導し、学年を超えた学生どうしの学び合いと研究により、小学生向けのプログラミング教材を開発し、「小学生プログラミング教室」を開催している。情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、学生個人の学びを支援した。他学科や学外との交流も含めて学びの場とし、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけさせることにつながる活動である。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：プログラム演習I	「5.教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」は3.79と高く、「11.授業の内容は理解できた」は3.38と低い。「12.この授業に満足している」は3.48。自由記述は賛否両意見があった。難しいとの記述があるが、実用レベルの教育は必要である。オンラインでのフィードバック方法は改善する。 <table><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr><tr><td>平均値</td><td>3.69</td><td>3.59</td><td>3.68</td><td>3.52</td><td>3.79</td><td>3.62</td><td>3.52</td><td>3.66</td><td>3.48</td><td>3.45</td><td>3.38</td><td>3.48</td><td></td></tr><tr><td>標準偏差</td><td>0.54</td><td>0.57</td><td>0.47</td><td>0.57</td><td>0.41</td><td>0.49</td><td>0.57</td><td>0.55</td><td>0.57</td><td>0.63</td><td>0.68</td><td>0.57</td><td></td></tr></table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値	3.69	3.59	3.68	3.52	3.79	3.62	3.52	3.66	3.48	3.45	3.38	3.48		標準偏差	0.54	0.57	0.47	0.57	0.41	0.49	0.57	0.55	0.57	0.63	0.68	0.57																																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																								
平均値	3.69	3.59	3.68	3.52	3.79	3.62	3.52	3.66	3.48	3.45	3.38	3.48																																																																									
標準偏差	0.54	0.57	0.47	0.57	0.41	0.49	0.57	0.55	0.57	0.63	0.68	0.57																																																																									
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： ヒューマンインフォメーション	「1.授業に積極的に出席し学ぶことができた」が3.80と高く、「2.授業での課題にしっかり取り組むことができた」は3.20と低い。「12.この授業に満足している」は3.40。受講者数21に対してアンケート回答者数は5と少ない。複数担当者によるオンデマンド型オンライン授業。内容はかなり高度なものを含む。 <table><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr><tr><td>平均値</td><td>3.80</td><td>3.70</td><td>3.60</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td>3.40</td><td></td></tr><tr><td>標準偏差</td><td>0.45</td><td>0.54</td><td>0.55</td><td>0.60</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td>0.55</td><td></td></tr></table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値	3.80	3.70	3.60	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40		標準偏差	0.45	0.54	0.55	0.60	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55																																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																								
平均値	3.80	3.70	3.60	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40	3.40																																																																									
標準偏差	0.45	0.54	0.55	0.60	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55	0.55																																																																									
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：情報と教育	「5.教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」は3.57、「11.授業の内容は理解できた」は3.14と低い。「12.この授業に満足している」は3.43。抽象度の高い内容の議論は受講生に理解されにくい、教育の本質を議論するために必要であり表面的な知識に終始するべきでない。次年度担当教員を変更する。 <table><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr><tr><td>平均値</td><td>3.38</td><td>3.50</td><td>3.50</td><td>3.36</td><td>3.57</td><td>3.43</td><td>3.43</td><td>3.38</td><td>3.50</td><td>3.43</td><td>3.14</td><td>3.43</td><td></td></tr><tr><td>標準偏差</td><td>0.54</td><td>0.65</td><td>0.65</td><td>0.53</td><td>0.65</td><td>0.65</td><td>0.65</td><td>0.64</td><td>0.65</td><td>0.64</td><td>0.55</td><td>0.64</td><td></td></tr></table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値	3.38	3.50	3.50	3.36	3.57	3.43	3.43	3.38	3.50	3.43	3.14	3.43		標準偏差	0.54	0.65	0.65	0.53	0.65	0.65	0.65	0.64	0.65	0.64	0.55	0.64																																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																								
平均値	3.38	3.50	3.50	3.36	3.57	3.43	3.43	3.38	3.50	3.43	3.14	3.43																																																																									
標準偏差	0.54	0.65	0.65	0.53	0.65	0.65	0.65	0.64	0.65	0.64	0.55	0.64																																																																									
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：情報メディア論 (2コマ開講、内容は同じ)	「1.授業に積極的に出席し学ぶことができた」が3.73と高く、「11.授業の内容は理解できた」は3.31と低い。「12.この授業に満足している」は3.40。 <table><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr><tr><td>平均値</td><td>3.73</td><td>3.64</td><td>3.53</td><td>3.44</td><td>3.56</td><td>3.51</td><td>3.56</td><td>3.40</td><td>3.38</td><td>3.51</td><td>3.31</td><td>3.40</td><td></td></tr><tr><td>標準偏差</td><td>0.45</td><td>0.61</td><td>0.66</td><td>0.76</td><td>0.59</td><td>0.55</td><td>0.56</td><td>0.72</td><td>0.83</td><td>0.63</td><td>0.70</td><td>0.68</td><td></td></tr></table> 「12.この授業に満足している」は3.38。 <table><tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th><th>13</th></tr><tr><td>平均値</td><td>3.58</td><td>3.50</td><td>3.31</td><td>3.19</td><td>3.27</td><td>3.27</td><td>3.25</td><td>3.27</td><td>3.27</td><td>3.38</td><td>3.35</td><td>3.38</td><td></td></tr><tr><td>標準偏差</td><td>0.64</td><td>0.65</td><td>0.66</td><td>0.75</td><td>0.67</td><td>0.67</td><td>0.63</td><td>0.72</td><td>0.72</td><td>0.57</td><td>0.56</td><td>0.57</td><td></td></tr></table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値	3.73	3.64	3.53	3.44	3.56	3.51	3.56	3.40	3.38	3.51	3.31	3.40		標準偏差	0.45	0.61	0.66	0.76	0.59	0.55	0.56	0.72	0.83	0.63	0.70	0.68			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値	3.58	3.50	3.31	3.19	3.27	3.27	3.25	3.27	3.27	3.38	3.35	3.38		標準偏差	0.64	0.65	0.66	0.75	0.67	0.67	0.63	0.72	0.72	0.57	0.56	0.57	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																								
平均値	3.73	3.64	3.53	3.44	3.56	3.51	3.56	3.40	3.38	3.51	3.31	3.40																																																																									
標準偏差	0.45	0.61	0.66	0.76	0.59	0.55	0.56	0.72	0.83	0.63	0.70	0.68																																																																									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																								
平均値	3.58	3.50	3.31	3.19	3.27	3.27	3.25	3.27	3.27	3.38	3.35	3.38																																																																									
標準偏差	0.64	0.65	0.66	0.75	0.67	0.67	0.63	0.72	0.72	0.57	0.56	0.57																																																																									

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業アンケート実施 ・情報メディア学科FDワーキンググループ位置合わせ（不定期継続開催） ・学内夏季拡大FD/SDフォーラム：「大学院「健康情報学研究科」設置の趣旨、教育内容、教員構成」報告（8月17日） ・短期大学部FD/SDフォーラム：「名古屋文理大学大学院 健康情報学研究科 健康情報学専攻 設置について」報告（3月13日） ・学内FD/SDフォーラム：「大学院「健康情報学研究科」の概要」報告（3月21日）
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度授業担当科目：（前期）情報メディア論2コマ、ヒューマンインフォメーション、基礎演習I、専門演習I、卒業演習I、情報メディア特別演習I（コード教育プロジェクト）。情報メディア論ではiPadを活用しSAとのディスカッションや実演を取り入れた授業を行った。ヒューマンインフォメーションはオムニバスの授業をオンデマンド型オンライン授業として実施しておりLMSでの授業配信とコーディネート・採点を担当している。今年度は3回分をあらたに動画授業で追加して構成した。社会人の聴講生も受け入れた。授業評価は概ね平均点であるが低い評価も多く、自由記述の内容も参考に改善する。（後期）プログラム演習I、情報と教育、基礎演習II、専門演習II、卒業演習II、情報メディア特別演習II（コード教育プロジェクト）。iPadを活用した教育、アクティブラーニングの促進に取り組んでいる。コード教育プロジェクトの活動をもとに2年生2名が口頭で報告（2月実施）を経て「情報メディア特別演習I・II」の単位認定に至った。10人の卒業研究を指導し、それぞれの研究テーマを完成させて報告会にて報告。1名が奨励賞受賞。多くは企業への就職を果たし、1名が私立星城高校の「情報」科の正規常勤教員として採用された。また、大学院健康情報学研究科を企画し大学院設置準備委員会（委員長）としてカリキュラムを構成し3月14日に設置申請に至った。令和6年度は、上記のような活動に加え、学生からの企画により「情報教育プロジェクト」を新規追加予定。高校のDXハイスクール、高校新課程の高大接続教育等を踏まえて、新しい情報教育を構築・実践する。アクティブラーニングを実践する「ハッカソン」の名古屋文理大学での開催も行う。また、令和6年度に愛知県で開催予定の「全国高校情報教育研究会」への研究発表も計画したい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：濱口 輝士
------	-------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインターフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

健康栄養学科及び情報メディア学科の学生が教員免許状を取得するために必要な知識及び実践的技術を修得できるよう、1年次の講義科目から4年次の実習科目までの一貫した指導を行う。 教職志望の学生に対しては、教員採用試験受験に向けて、筆記試験・面接試験等の支援を行う。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：教育原理	グループワークやディスカッションを通じて、教育に関する理論・歴史等に関する知識の定着を図っている。 また、LMSとipadを活用して、授業中での課題実施と評価、ならびに学生の学習状況の確認を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：教師論	場面指導の課題を取り入れることで、教師としての実践的な技術の習得を図っている。 また、LMSとipadを活用して、授業中での課題実施と評価、ならびに学生の学習状況の確認を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：生徒・進路指導論	生徒指導・進路指導に関するケーススタディとディスカッションを行うことで、現代の教育課題に対応できる知識・技術の定着を図っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：教育課程論	本学の学生の特性を踏まえつつ、将来の教育実習を見据えて、1年次から模擬授業を行うことで、教員に必要な授業技術・指導技術の習得を図っている。 模擬授業では教員による評価だけでなく、学生同士の論評やディスカッションを行うことで、受講生全体の能力向上を目指す。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：教育原理	授業の理解度は3.5ポイントであり、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。授業に取り入れたグループワークや学生による作業課題についても、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：教師論	授業の理解度は3.5ポイントであり、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。授業に取り入れたグループワークや場面指導についても、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：生徒進路指導論	授業の理解度ははじめ、全ての項目で3.75-4.00の評価を受けており、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。ただし受講者数が4名のみのため、通常よりも数値が高く出ていると思われる。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：教育課程論（情報）	受講生5名のみではあるが、授業の理解度ははじめ、学生の授業評価は良好である。学習指導案の添削や早期の模擬授業の体験は、学生からの評価も高く、教育上有効であったと考えられる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業評価アンケートに基づく指導方法の改善 ・学校における調査・研究
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

講義科目の理解度はいずれも3.5以上の結果が得られており、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。講義においては、グループワークや学生による作業課題、指導の実践・体験を多く取り入れており、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。基本的には授業の状況に特段の問題はないと考えられるため、次年度以降も同様の評価が得られるよう取り組みを継続していく。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：平林義章
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要の思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

医療系従事者の基礎的な学問の一つである、人体の構造と機能について初心者にもわかりやすい講義をすることを心がけている。管理栄養士にとって解剖生理学は、栄養に関する専門知識を深め、患者やクライアントに対して適切な栄養サポートを提供するために重要な知識の基盤になると考える。このことから、以下の点に留意して、解剖生理学教育に臨むよう努力している。 1）解剖生理学の基本理解：管理栄養士には生体の基本的な構造とそれによってもたらされる生理学的プロセスを理解することが求められる。呼吸・循環・消化・代謝・神経などに関する構造と機能を把握し、栄養との関連性を理解するのに解剖生理学は重要である。 2）栄養関連科目と解剖生理学の統合：解剖生理学の知識を栄養関連科目と統合し、栄養素の消化・吸収や成長・発育におけるエネルギー代謝のプロセスが栄養素とどの様に関連しているかを理解することが必要である。 3）臨床的アプローチ：解剖生理学の知識は臨床的な事象を理解するために必須な知識である。患者の健康状態や栄養ニーズに基づいた栄養プランや疾患管理に役立つ内容が講義・実験（実習）に含まれている。また、将来的に医師・看護師・薬剤師などと協力してチーム医療を行う時、解剖生理学の知識が他の医療専門家と連携するための重要なコミュニケーションツールとして活用することとなることを学生が理解することが大切だと考える。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅰでは、主に人体の構造（解剖学的項目）を中心に講義している。自己学習のために、昨年度より、従来PowerPointやPDFファイルで作成した講義資料に音声を付け動画化（mp4ファイル）することを進めてきたが、今回、神経系を除いてほぼ全ての動画の資料を作成することができた。1本2から5分程度の動画にまとめ神経系を除く9つの学習項目、計89本の動画を作成しWebClassに資料として掲載した。また日頃の勉学の手助けとなるよう、学習項目ごとの小テスト（11項目200問）も作成し予習・復習に役立てるようにした。他に、レポート課題として骨レポートを課した。骨の名称は血管や筋の名称にも用いられるため、確実に覚える必要がある。頭蓋・四肢・胸郭・脊柱・骨盤等を構成する骨や関節の図に骨や靱帯の名称を記入するレポートととし評価の対象とした
2.教育活動や教育業績 科目名②：解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅱでは、主に人体の機能（生理学的項目）を中心に講義している。昨年度より、従来PowerPointで作成した講義資料に音声を付け動画化（mp4ファイル）することを進めてきたが、すべての資料を変更することができた。1本2から5分程度の動画にまとめ19の学習項目、計141本の動画を作成しWebClassに資料として掲載した。また日頃の勉学の手助けとなるよう、学習項目ごとの小テスト（19項目260問）も作成し予習・復習に役立てるようにした。また、国家試験対策として利用できる用に、内分泌系のレポート（設問および穴埋め形式）を課して評価の対象とした。
3.教育活動や教育業績 科目名③：解剖生理学実験Ⅰ	解剖生理学実験Ⅰは、人体の組織観察を主体とした実習内容となっている。今年度は従来提出レポートに課していた組織の機能を問う設問をなくし、組織標本の検索に特化した内容とし、10器官系のべ96枚の組織標本を観察した。また従来、1回の実験で、初めの30分を説明時間、残りの150分を組織観察実験の時間としていたが、実験2ないし3回を1クールとして、1回目に組織の説明の講義、2回目および3回目を組織観察の実験とした。
4.教育活動や教育業績 科目名④：解剖生理学実験Ⅱ	解剖生理学実験Ⅱでは、学生自身の生理学的データを測定して考察する内容となっている。循環器系（心電図・心音・血圧・脈拍）、呼吸器（肺機能検査）、消化器系（唾液のアミラーゼ活性測定）、内分泌器（75G糖負荷試験）、体指数、体温、感覚器（皮膚感覚・深部感覚・味覚）、ラットの解剖、血液学等の実験を行っている。実験3回ないし2回を1クールとして、1回目に講義、2、3回目を実験という形をとっている。学生自身が測定するため、1回目の講義では実験の安全性を確保するために操作手順や注意事項を細かく説明している。また、レポート提出に当たっては、実験の目的が明確になるような設問を設け、実験結果を考察しやすいようにノートを改変した。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅰでは、PowerPointを用いて講義を進め、WebClasseでの動画の資料を用いて講義を行った。学生の満足度は、昨年（3.38）よりやや低下して3.20で、理解度も昨年で3.11であったものが、Aクラスで3.21、Bクラスで2.95とクラス間で差が出た。課題の量については、3.46で比較的良好な評価であった。板書の書き方や教員の話し方についてはそれぞれ3.04、3.00と普通であったが、自由記述では、「PowePointと板書の両方を使っていて分かりやすい」「資料をWebClassにあげてあるので復習がしやすい」など好意的な意見がある一方、「板書の字が小さい」「用語が難しい」「講義が速い」などの意見もあった。講義スピードは例年と変わらないが、板書能力が例年に比べて低いためか（落合先生も言っていたことだが）、板書などに時間がかかるようだ。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅱでは、PowerPointを用いて講義を行い、動画をWebClasseに添付し授業の資料とした。学生の満足度は、昨年（3.21）よりやや上昇して3.46で、理解度も昨年で3.10であったものが、Aクラスで3.52、Bクラスで3.28と上昇した。しかし、満足度や理解度の標準偏差も値が大きく、評価にばらつきがあった。課題の量については、3.64（昨年は3.39）で比較的良好な評価であった。自由記述では、「PowePointと板書の両方を使っていて分かりやすい」「小テストがあるので理解が深まった」など好意的な意見が多かったが、逆に「板書の字が小さい」「授業内容が難しい」などの意見もあった。今年度は、全て対面授業でできたところも高評価を得た原因だと考える。また、WebClassの履歴を見ると、今回作成したmp4ファイルの動画はあまり利用していないようである。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：解剖生理学実験Ⅰ	実験を全て対面で行うことができた。今年度は、組織の機能を問う課題をなくし、スライドの組織の検索に特化した内容とした。組織構造を理解し判別できる能力は、将来的に医療機関でカンファランス等に参加する時に非常に役立つと考えるが、学生はあまり理解していないようである。学生の満足度は3.30（昨年は3.25）、理解度は3.25（昨年は3.18）で例年よりもわずかに上昇した。学生の評価としては、「わからないところを聞くと教員が丁寧に説明してくれるので良かった」「スライドがとてもわかりやすかった」などの肯定的な意見があった半面、「レポートの量が多い」「机が狭い」などの意見もあった。学生の実験への取り組みに関しては積極性の評価が3.61（昨年は3.70）でやや下がった。レポートを見ると、ネットや提示した資料を丸写ししているものが多く、内容を簡潔にまとめて書くということができていないように感じた。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：解剖生理学実験Ⅱ	学生の満足度は3.50（昨年は3.49）、理解度は3.36（昨年は3.29）で例年よりも上昇した。学生の評価としては、「普段できないことを経験できた」「実験の授業の前に解説の授業があるので実験が行いやすかった」「質問に対して丁寧に回答してくれた」などの肯定的な意見があった半面、「レポートの内容が難しい」「黒板の字が見にくい」などの意見もあった。学生の積極性に関しては評価が3.73（昨年3.63）で積極的に取り組んだ傾向がみられたが、提出レポートを見ると、昨年同様、学生間で理解の程度のばらつきが大きく、個々の学生に対応した指導が必要だと感じた。特に、質問をしてこない学生にこの傾向が高かった。課題の量については3.45で適切だったと考える。実験当日にレポートを完成させて提出させる点に関しては、肯定的な意見が多かった。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	前期・後期の全ての担当科目において、講義・実験の最終回に授業評価アンケートを取って、「総括と意見」という形でまとめている。また、私（平林）は日本解剖学会に所属しており医療系大学における解剖学および組織学教育の進め方や他大学の取り組み等を参考にして授業計画を立てるよう努力している。また、今年度は公私立大学実験動物施設協議会総会に参加し、動物実験のあり方や飼養について講演を受けることができた。これらの内容を解剖生理学実験に役立ててゆきたい。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

【令和5年度の成果・教育業績】 【解剖生理学Ⅰ】昨年より作成していた自己学習用の動画（9項目、計89本）が完成し、項目ごとに1～5分の音声ガイド付きの資料を提示することができた。講義だけでなく、学外での予習復習に利用することを期待している。また、WebClassの予習復習用の小テストも内容を改変した。 【解剖生理学Ⅱ】昨年より作成していた講義用の動画（19項目、計141本）が完成し、項目ごとに1～5分の音声ガイド付きの資料を提示することができた。講義だけでなく、学外での予習復習に利用することを期待している。 【解剖生理学実験Ⅰ】今年度は、器官の機能を説明する課題をなくし、全て組織を検索する内容とした。従来より組織スライドの観察枚数は増えたが、わかりやすい組織もあれば、分かりにくい組織もあったようで、レポートの評価は例年よりも大分低くなった。全員が組織の検索を行うには顕微鏡の台数が少ないので、実験内容を改変する必要があると考えた。 【解剖生理学実験Ⅱ】自己無く安全に実験を行うことができた。各実験毎に時間内にレポートを作成することができたので、課題の量は妥当だと考えた。 【令和6年度の目標】 【解剖生理学Ⅰ】管理栄養士における解剖生理学の必要性を学生に理解してもらうように努力する。自己学習用の神経系の動画を完成させる。小テストの問題数を増やす。またレポートの内容を改変する。 【解剖生理学Ⅱ】小テストの内容に国試によく出る問題を加えてゆきたい。WebClassの資料を活用するために反転授業を行うことも考えたい。 【解剖生理学実験Ⅰ】実験内容・観察する資料の数と種類を変更する必要があると考える。特に、組織観察時のスケッチの数を増やしたい。組織構造以外に組織の機能を理解するために、従来課していた組織の機能に関する設問もレポートに加えてゆきたい。 【解剖生理学実験Ⅱ】実験の考察が難しいとの意見があったので、実験の目的をより明確にして学習内容を詳しく説明するようにする。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：本多一彦
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報活用・分析能力、課題解決能力を磨くための学習環境を提供する。そのために講義を通しての知識の教授と、演習を通して自らの問題解決能力向上のための指導を行う。基礎的知識としては、情報の生成、伝達、変換、認識の理論を学ぶ。また、利用の観点では、情報を最も効果的に処理できる情報システムのソフトウェア開発の側面からのアプローチをおこなう。日進月歩の分野であるため、最新の技術に注目するのは当然であるが、時代の流行廃れに依存しない学力を身につけられるように配慮する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：情報学概論	1年次前期の必修科目であり、情報の生成、伝達、変換、認識の理論を学ぶことを中心とする。ただし、これらの理論は数理的かつ抽象的な概念を含むため。初学者にとって学習困難な内容である。また学生各自が高等学校等で学習・理解した内容に差異があるため、基礎理論を具現化したコンピュータシステムを例に講義を進めている。その際、数理的知識の理解と活用については避けて通ることができない課題である。しかし多くの学生にとってその知識の有用性を認識できていない段階では、学習効果を上げることが困難である。そこで、詳細な説明は講義期間の後半で行うこととし、学生が利用しているコンピュータシステムへの認識、疑問を確立した後数理的知識の課題に取りかかるよう配慮している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：ソフトウェア基礎	2年次前期の情報システムコース必修の科目である。現カリキュラムでは、ソフトウェア開発にかかわる講義、具体的にはプログラミングの演習は1年次から行われている。本格的なプログラミングの演習は1年後期のC言語の演習からである。C言語は多くのモダンなプログラミング言語の基となった言語であり、様々なプログラミング言語が登場した現在においても、学習の意義があると考えている。しかしC言語は本格的なコンパイル言語であるため、初学者にとってはテキスト通りにプログラムを記述し動作させるだけでも多大な労力を有する。さらに演習のみでは、プログラムの正常動作に気を取られて、プログラミングの基本的知識の習得が充分でないことが課題となる。本講義ではプログラミングの演習と併せて受講することで、情報システムの駆動に必要な知識を確実なものとする。
3.教育活動や教育業績 科目名③：モバイル情報論	モバイル情報機器の発達により、情報の生成、伝達、変換、認識がいつでも、どこでもできるようになった。本講義では、情報活用が時間や場所に縛られることなく実現できるように、モバイル情報機器のハードウェアとソフトウェアの両面からの理解を促す。さらに個人情報のセキュリティの問題に考慮しつつ、通信ネットワークを介したコミュニケーションツールとしての活用について理解・実践し、学生の分析能力、課題解決能力の向上を行う。
4.教育活動や教育業績 科目名④：プログラミング入門（再履修コース）	本講義は1年次前期に行われる「プログラミング入門」における再履修を対象とした講義である。プログラミング教育の演習と理論にたいする教授方法については、「ソフトウェア基礎」において述べた通りである。しかし、実際にはプログラミングの技術の習得に置く学生が多いことも事実である。理解を困難としている原因として、プログラミング技術を得得するための、継続的な取り組みが必要ながことが挙げられる。しかし学生によっては自らのペースで演習に取り組みないことに戸惑いを示している可能性がある。本講義はコロナ禍でのオンライン・オンデマンド講義の経験を生かして、いつでもどこでも学習と演習ができるようにオンデマンドの教材を配布している。学生には入学時にiPadを無償貸与しているが、本講義ではこのiPadを利用して演習が完結できるようになっている。ただしオンデマンド教材だけでは、問題や疑問に対応することが困難であるため、随時メールによる相談と対面での質問日を用意して学習成果を向上するよう努めている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：情報学概論	授業評価の自由記述を見ると、WebClassを利用した資料の提示について一定の評価が得られていることがわかる。ただし、遠隔授業で蓄積した動画コンテンツも随時利用し、教育効果の向上が見られると期待していたが充分ではない傾向がある。コロナ禍中の遠隔授業時は社会的な緊張感もあり、動画の視聴に関しても真剣に取り組まざるを得ない状況であった。しかし、対面授業に復帰し、電子資料の活用に関して重要性の意識が低下しているように思われる。これは、高等学校等で強いられてきた遠隔授業への悪い意味での慣れによるものであるかもしれない。自学自習といっても、どのように学習するのかスキルが必要であり、動画コンテンツについても、どこがポイントになるか、試聴のポイントを解説すべきであった。こうした解説を今後の授業では取り組む必要があると感じている。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ソフトウェア基礎	授業評価の自由記述を見ると、WebClassの課題提出の運用についてアドバイスを受けることがあった。参考にし講義で取り入れる。一方で運用目的のため、学生のすべての要望を叶えることはできなかった事項もあった。この点に関しては、授業評価アンケート結果の「総括と意見（改善計画書）」でコメントし、フィードバックを行っている。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：モバイル情報論	本講義は講義内容が日進月歩で変化していく。そのため講義内容は適時入れ替えを行い、時代に遅れないよう心がけている。ただし一度は廃れたように思える内容が、時代が循環することにより、再度注目すべき内容となることもある。昨年度から、現在のAI主導のモバイルライフと過去に夢見られていたモバイルライフとの隔たりについて、近過去から見た現在の想像動画を復活させて講義に取り込んだ。学生の反響が大きい講義となった。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：プログラミング入門（再履修コース）	「教育活動や教育業績」で述べたようにオンデマンド主体の講義形式を取っている。本講義は各週1回の講義を実施していたこともあるが、出席率が悪く再履修となる学生も存在した。オンデマンド主体で学生が理解し、課題を提出してくれるか心配もあったが、課題の精度も高く充分効果があることが確認できた。課題の電子的な提出となるので、安易な複写の問題が懸念されるが、学内での作業結果を反映させないといけない課題や創造的な作品を求める課題など工夫を凝らした。結果、個性的なよい作品が課題として提出されている。なお、履修者数少数のため、授業評価アンケートは実施していないが、オンデマンド主体講義の可能性について、検討を重ねていくことにする。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	WebClassを利用し、動画コンテンツを含めた資料の提示、講義後の毎回のコメントの提出といった学習サイクルを定着化させた。これにより、理解が不充分であった学習項目や、何らかの理由で講義に出席できなかった講義内容についても自学自習できるようになった。特に今年度、資料提供を週ごとに整理して作成し、復習時の利便性を高めるようにした。次年度は、改善の結果について総括を行う。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

「授業改善のために行ったFDの取り組み」で述べたように、学生にとってWebClassの資料に加え、インターネットを介して自由に利用できる教材は充実してきているといえる。しかし今回、提供元の情報を機械的に利用するだけで、正しく情報を活用できていない多くの事例に遭遇した。今後、提供元の情報をよく吟味して活用できるよう指導を行いたい。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：松原 友子
------	-------------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報メディア全般の基礎的な科目については、進化を続けるコンピュータや情報活用に関わる知識や技術の理解を深める。これは、卒業後も社会において自ら学ぶことができる素養を身に付けることにつながる。 また、情報システムコースの専門的な科目については、プログラミングやシステム開発の技術を習得することで論理的思考を育み、問題解決を実現できる能力を習得する。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 情報システム入門 メディア情報技術	いずれも基本情報技術者試験の対応科目であり、メディア情報技術はFE講座の認定科目でもある。 1コマの講義構成は、座学後に関連分野の過去問を複数問解くことにしている。難易度の高い問題は、ステップごとにヒントを出し途中で諦めず正解までたどり着けるように工夫している。また、学生に解答を発表させることにより、常に考えるという姿勢を積極的に育成するようにしている。 メディア情報技術は、JavaScript、Photoshop、Shade、Accessを使った実習を取り入れ、知識の定着に努めている。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 基礎演習	Pythonを使ったゲームプログラミングを行っている。 Pythonの基礎知識→CUIのミニゲーム→GUIのミニゲームと、レベルアップしていく構成にしている。見本のコードを入力するだけでなく、穴埋め形式にすることにより、考えながらプログラミング技法を習得できるよう工夫している。また、習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 専門演習 卒業演習	XcodeとPythonistaを使ったiOSアプリ開発を行っている。 専門演習では、決まった課題の作成に取り組む。見本のコードを入力するだけでなく、穴埋め形式にすることにより考えながらプログラミング技法を習得できるよう工夫している。また毎時間、前の時間の内容の小テストを実施することで、知識の定着に務めている。また、習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。 卒業演習では、各自でオリジナルのiOSアプリ開発に取り組む。自分で調べたり考えたりする姿勢を重視し、また、質問支援や提出レポートの確認に多くの時間を使っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④： 情報処理演習	教職必修科目で、ExcelとExcel VBAを行っている。 Excelは日本情報処理検定協会の問題を扱う。操作方法の説明後、各自で過去問に取り組む。習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。 Excel VBAは条件分岐や繰り返しなどの基本的なプログラミングに取り組む。PAD図からコードを作成する訓練も行う。 受講者をグループに分け、グループ間で教え合うことを推奨している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： メディア情報技術	2コマ担当した。 1コマ目は12のアンケート項目のうち10項目が平均以上、2コマ目は平均以上はなしという結果で、大きな差が生じたが、その理由を推定できる自由記述の内容はなかった。穴埋め式のプリントが分かりやすく、実習の難易度も適切であると概ね好評であった。ただ、問題の部分を学生に口頭で解答させていたが、それを止めて欲しいという意見があった。授業に積極的に参加する姿勢の向上に繋がるとも思い取り入れていることなので、他の先生の状況も参考に検討していきたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 情報処理演習	2コマ担当した。 1コマ目は12のアンケート項目のうちすべてが平均以上、2コマ目は9項目が平均以上という結果であった。若干コマ間で結果が異なるが、受講人数に差があったことも原因だと思われる。私自身も人数の少ない方のクラスはサポートも行き届き、学生の進捗状況が把握しやすかった。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： デジタルアート入門	2コマ担当した。 2コマとも、すべてのアンケート項目で平均以上であった。自由記述では、進め方についてほとんどが「分からないところはすぐに聞ける」「やり方が丁寧なのでおいてかれない」と好評で、私自身も準備した内容をすべてこなすことではなく、全員が完成できることに重点を置いた結果だと思う。若干「遅い」「早い」とのコメントもあったが、おそらく今のペースが一番多くの受講生に合っているのではないかと思う。「マウスが見つけにくい時がある、少し動かすとも見つけやすくなるのでは」との意見があった。（来期は担当しない科目である）
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： 情報システム入門	2コマ担当した。 1コマ目はすべてのアンケート項目で平均以上、2コマ目は12項目中11項目で平均以上であった。1コマは、受講者が多く、縦長の教室だったため、ZOOMも併用した。これは自由記述から好評であったことが伺える。また、どちらのコマでも机間巡視を多く行い質問をしやすい雰囲気作りを心掛けたことや、問題を回答させる学生には間違った答えを言ってしまい恥ずかしい思いをしないように予め答え合わせをしていたが、これらは好評価であった。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	実習科目では、習得度の高い学生用に、難易度の高い課題を準備した。 情報処理演習では、テーブルごとにグループを設定し、グループ内での教え合いを推奨する形式をとった。 情報システム入門では、問題を解く時間は「回っていますから質問があったら言って下さい」と言いながら必ず巡回した。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

実習科目では、習得度の高い学生用に、難易度の高い課題を準備した。こちらに取り組んだ学生も数名おり、有効だったと思われる。 情報処理演習では、テーブルごとにグループを設定し、グループ内での教え合いを推奨する形式をとったが、「学生同士で分からない箇所を教え合う授業形式は良いと思った」との記述から好評だったことが伺える。学生も教員やSAでなく、同じ立場の友人の方が聞きやすいこともあるようで、今後も継続していきたい。 情報システム入門では、問題を解く時間は「回っていますから質問があったら言って下さい」と言いながら必ず巡回して、スマホの時間にせず「解く」ことに意識が向くようにした。回を重ねるごとに質問をする学生も増え、自由記述からも「先生が席側まで回ってくれたので質問しやすいのが良かった」「実際に問題をやってみて理解がより深まった」と好評であった。また、授業の最初に前の時間のスライドを流して、前の時間に欠席した人は動画で撮影するように促した。 基本情報技術者試験の過去問が年4回更新されるので、常に最新のものに更新していく。 授業用動画を新たに作成する。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 宮島 彩
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

フードビジネス業界で必要とされる食について、調理を通して理解してもらい、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につける。特に調理学においてはビジネス科目と関わりや地域との関連性にも触れ、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につける。また、調理学実習や食品官能評価の授業を通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につける。そして、フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：調理学	調理は、食品素材が食べ物となって喫食者に提供される最終過程である。フードスペシャリストとして調理についての確かな知識が求められており、主に「おいしさの設計」、「調理操作」、「食品素材の調理特性」、「調理と食品開発」について学ぶ。フードスペシャリストに必要な調理学の知識を習得できる。調理は理論だけでなく技術も重要であるため、調理系の実習科目や日常生活での調理において応用できるようになるように、同時期に開講している調理学実習と内容をなるべくリンクさせて行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：調理学実習	調理は、食品素材が食べ物となって喫食者に提供される最終過程である。調理学実習は1年生科目であり、まずは基礎を身に着ける事が重要であるため、調理をするにあたっての衛生面・安全面について理解を深めると共に、食材の基本的な扱い方や調理技術について実践的に学ぶ。また、グループに分かれて実習を行うため、個人の積極性や仲間との協調性も養う。これらの知識や技術、能力をフードビジネスの現場で応用できるようになる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食品官能評価	フードスペシャリストには食品についての深い知識とそれらの品質について見抜く技能が必要である。食品の「化学的・物理的評価法」及び、嗜好に直接結びつく「食品官能評価法」について講義と実験、実習を通して学ぶ。商品開発に携わる場合、自ら食品の評価をするだけでなく、パネリストに評価をしてもらいデータを集計し結論を出すスキルが必要となるため、食品官能評価の基本的な知識を学んだ上で、実際に食品官能評価を計画・実施できるようにグループごとでテーマとなる食品を決め、食品官能評価を一から体験する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：調理学	調理学では、授業のスライドや説明の仕方については分かりやすいとの意見が複数あった。今年度は他学科の学生の履修が多かったため、基礎を省略しないように丁寧に説明することを心がけた。定期的に小テストを実施しているため、授業の復習をおこなうきっかけとなっている。また、今年度は、授業の最後に解いてもらうフードスペシャリストの練習問題を例年より増やし、フードスペシャリストの出題傾向などについても説明をした。アンケートの自由記述にてプリントが多いとの意見が2つ程あったため、フードスペシャリストの出題傾向に沿って内容を再度見直し整理していく必要がある。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：調理学実習	調理学実習は、調理学と並行して授業を行っているため、内容もなるべくリンクするように献立を調整し、講義で勉強した内容を実践することで理解度が高くなっている。この実習を通して学生同士のコミュニケーションが深まったり、調理の楽しさを知って家でも調理をする機会が増えるきっかけとなったので良かった。作業を伴うため、時間通りに終わらない日もあったことから、再度献立や作業手順を見直し、授業時間内に余裕を持って進められるように改善していく。また、グループの学生同士で意見が合わない事もあったため、より全体に目を配り、スムーズに進められるようにしていく。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食品官能評価	食品官能評価では、授業資料やフードスペシャリストの練習問題を学生がいつでも確認できるようにWebClassに掲載することで、授業後の復習に役立てられているため、次年度以降も続けていきたいと考えている。自由記述にて「官能評価の手法によっては練習問題がない日もあったのであった方がよかった」との意見があったため、練習問題の種類を増やし、学生が全ての手法におけるデータの集計や検定、まとめ方について復習できるように整えていく。学生が企画運営する食品官能評価実習では最終週に報告会を行うため、他の班の結果や考察から様々な商品について詳しく知ることができ、対象者（消費者）の特徴についても学ぶことが多くあるため、今後も継続していく。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	調理学と調理学実習に関しては、同時期に同学生を対象として開講しているため、調理学の講義内容と調理学実習での調理上のポイントをリンクさせて説明することで、理解が深まり特に調理学実習の理解度が例年に比べて向上した。具体的な調理例を出し、さらにその調理を実際に行うことでイメージがしやすく理解度向上に影響を与えたと考えられる。 食品官能評価では、食品の評価をする際に正しい数値を得るために1回の評価人数を制限しているため、評価の待ち時間ができてしまうので、その待ち時間にフードスペシャリストの過去問題や食品官能評価の検定の練習問題や課題、官能評価の集計の時間として活用することで、実験後の検定やまとめもスムーズに進める事ができた。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度は調理学実習をコロナ前の授業内容に戻し、コロナ禍よりも実習回数が増えたことから理解度が例年よりも向上したため、次年度は調理学の理解度も向上するように、調理学の方でも具体的な調理例や実習でのエピソード等を今年以上に交えながら授業内容を検討していく。今年度は調理学の授業において、フードスペシャリストの練習問題を解く時間を増やしたため、次年度も継続して行い、フードスペシャリストの合格率向上に貢献する。調理学のプリントについて、授業評価アンケートの結果から「プリント数が多い」や「記入する穴埋めが多い」などの意見があったため、次年度は配布プリントを見直し、フードスペシャリストの出題傾向を分析し、大事な項目を再度見直して整理し、分かりやすくまとめたプリントや授業資料の作成に努める。 調理学実習では、今まで以上に学生に目を配り、丁寧に教える事を心がける。調理技術だけでなく、グループワークや衛生面の重要性についてももしっかり理解してもらえるように学生の調理中に各調理台への巡回を増やし、積極的に声掛けをしていく。 食品官能評価では、次年度も安全に全ての実験と学生が企画運営する官能評価実習やグループワーク、プレゼン発表会が行えるように設備や授業スケジュールを整える。フードスペシャリストの練習問題以外に官能評価の各手法の模擬問題を提示したところ、授業の復習に役立っているとの意見があったため、次年以降は練習問題のボリュームを増やして、検定や考察を書く機会を増やすことで更に知識を定着させる。今年度よりも更にスムーズに進むように、授業全体の流れを再度検討していく。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：山田 直子
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神における自由と責任を重んじ、学生主体の自由さを活かし、責任を持って行動を行うように働きかけて教育を実施する。また、講義からの知識を実習で実際に体験し、学生の技術を磨かせたい。 調理学においては、知識・技術をもとに教養として、マナーを培うことができる科目である。そのため、基礎科目としての知識を応用系科目に活かせるように教育を行う。食べ物と栄養の基礎となる科目であるため、科目の特性による特徴を学生に伝えられるにしたい。講義の内容が身をもって実感してもらえるように1回1回の内容に要点を置いて、テーマとポイントを絞って伝えていきたい。そして、調理学実習は、少量調理が基本となるため、高学年科目である給食経営管理実習に繋がるように、実施したい。包丁の握り方、基本の切り方、基礎的なメニューから行事食など、多岐にわたるメニューを行う。調理における食材の特徴や特性があるため、実習を通じて身に付けてもらいたい。実習では、グループワークが主体となることから、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力など知識や技術以外で管理栄養士が身に付けるべきスキルも磨かせたい。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：調理学	調理学では、大教室での一方的な講義とならないように、質問をし、ポイントとなる部分に線を引かせることや国試に出てきた要点などを強調して伝えるような工夫をしている。また、授業内で最後にレポートを書ける取り組みを行っている。レポートを書かせることで、授業内で行った内容を振り返り、復習できるようにしている。また、次の授業のはじめに解説を行うことで知識を反復して、長期記憶に繋げるようにしている。章ごとのまとめとして、次週に小テストを設け、知識の確認を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：調理学実習	調理学実習では、通年にわたって実習を行うため、できるだけ実習回数を多くできるようにしている。調理学での講義理論を実習で体験するため、実際の作り方以外の補足知識を説明するなど、単純に料理を作ること以外に学生の知識へ繋がるような授業を心掛けている。また、包丁の持ち方、基本の切り方、基本の調理から身に付けることができるように難易度も回数を追うごとにレベルアップするように組んでいる。また、基本的な栄養価計算の理論、調味%の出し方や求め方などが最終的に自分の力で計算できるようにサポートしている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食事計画論	食事計画論では、大教室での一方的な講義とならないように、演習を取り入れている。授業内容には、計算方法やレシピを考える力を身に付けられるように、プリントの中で随時授業内に質問できるような時間を設けている。最終的には、自分自身で考えたレシピがポーションサイズや調味%、作り方が適正であるものを作り上げる力を身に付けさせることが目的である。管理栄養士として、必要な基本的な知識や献立作成のスキルを習得させるために授業の内容をさらに充実させていきたい。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：調理学	調理学では、毎年授業評価アンケートの結果が向上している。ただ、やはり講義形式の授業であるため、学生を飽きさせない工夫が必要であると感じている。特に、一方的に話を聞いている場面では、学生の集中力が持たないことから、いかに手を動かし、メモや線を引く、問いかけや考える時間を持たせるかが重要だと考える。毎回、授業の終わりにレポートを記述させていることから、少しでも授業のポイントをおさえられるように工夫を行っている。今後は、さらにプリントの穴埋めを増やすことや章末問題の解説を行うなど学生の満足度が向上するように努めたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：調理学実習	調理学実習では、毎年授業評価アンケート結果が向上している。実習科目ではあるが、栄養価計算方法やレシピの説明などの演習も行っている。通年を通じて、基礎的なメニューから行事食、応用レシピも行っていることから、講義科目より、体験を通じて知識と技術が身に付いているのだと考えられる。特に、包丁の使い方から、基本の切り方、飾り切りなど多岐に渡る手法も教えることから、デモンストレーションを行っている。自由記述より、作り方のコツやデモンストレーションなどが分かりやすい等のコメントがあった。実習での経験は、学生の印象に残りやすいことからできるだけ、実習回数を増やす工夫などを行っている。今後もより学生に身に付けて欲しい技術を培ってもらえるように授業内容を工夫していきたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食事計画論	食事計画論では、毎年授業評価アンケート結果が向上している。講義形式の授業ではあるが、演習を取り入れ、各自のペースで課題に取り組み、質問しやすいようにしていることも理解度が高い要因になったと考えられる。また、授業の目標には、自分自身で考えたレシピのポーションサイズや調味％、作り方を考える力を身に付けさせることが目的であるため、気軽に質問できるという点が自由記述からも良かった点であったことが伺える。今後は、さらに深く身に付けてもらうべき内容を重点的に指導していくことや高度な内容を盛り込んでいきたいと考えている。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業改善のために、栄養士会の講習会や学会へ参加し、講演会の内容について新しい知見などを授業内容に取り入れている。例えば、調理においての減塩の手法やSDGsに関する取り組み、食物アレルギーでの最新情報など、学生にとって今後知っておくべき知識を新たに盛り込んでいる。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

授業評価アンケートにおいて、平均値が令和4年度より上昇した。このことから、それぞれの科目ごとの授業への理解度や満足度が上がっているのではないかと考えられる。講義や実習形式でのそれぞれでのメリット・デメリットを踏まえ、学生が主体的かつ実践できることや知識や技術の習得や向上に励むことができるように働きかけた。授業ごとの課題やレポート、小テストなど個々での取り組みが成績に反映されるように行うことで、学生自身が努力する姿がみられた。また、授業の予習復習ができるように授業の予定表やスケジュール連絡を毎週行っていた。毎授業においても授業の振り返りを設けるレポートや授業内での質問時間を設けるなどの取り組みは今後も継続したい。令和6年度においても、それぞれの科目の各項目や平均値の上昇を目指し、授業内容をさらにブラッシュアップすることを目標に授業の質を向上させる。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：山田 ゆかり
------	-----------	-------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育科目（教養教育）が主担当であり、「大学のディプロマ・ポリシー：立学の精神に則った知識・技術と人間力の修得する 総合的な学修経験を積むことで創造的思考力を培い、人間力を高める」を踏まえて、教養を深め、自らの心の健康に配慮して生きていく力を高め、将来の専門性の修得に必要な資質の養成を行うことができるように教育をする。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：心理学	講義と実体験を交えた演習による授業を実施。令和5（2023）年度前期受講者234名（3クラス編成）。大規模クラスではあるが、体験的な要素を交えた授業、学生の実験に即した内容を心がけて、知識の修得だけにとどまらず、自らを振り返り、人間力を育てるように授業を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：人間関係論	講義と実体験を交えた演習による授業を実施。令和5（2023）年度後期受講者2094名（3クラス編成）。大規模クラスではあるが、体験的な要素を交えた授業、学生の実験に即した内容を心がけて、知識の修得だけにとどまらず、自らを振り返り、人間力を育てるように授業を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習Ⅰ・Ⅱ（健康栄養学科）	学生が個別の研究テーマを設定し、資料を収集し、卒業論文を完成するように指導している。卒業論文のテーマが、管理栄養士としての職業に生きるように配慮している。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：心理学	心理学について、大規模クラス解消対応のため、3クラス開講としている。クラス規模格差はまだ少し残る一方、クラスによる評価結果の差はあまりないが、最大規模の1100000202のクラスでの「11.理解度」が3.47とやや低くなっていた。10000202・100000203のクラスでは、担当教員校務のため、オンデマンド形式の遠隔授業を2回実施したことの影響が、大規模クラス（1100000202）でより顕著に表れたとも考えられる。授業時に複数回にわたって回答時間を設け、回答を促したが、回答率は80%前後に留まっている。各クラスの授業への満足度は、3.75、3.67、3.78であり、総じて高い評価となっている。このほか3クラス共通して評価結果が高いのは、「5.教員の話し方（3.77、3.77、3.76）」「6.教科書やプリント（3.80、3.73、3.80）」「8.授業の進み方（3.78、3.75、3.78）」「9.課題の量（3.78、3.71、3.78）」等である。評価が3.5を下回ったのは、「1100000201」と「100000203」2クラスでの「4.自主学习でのシラバスの有効性（3.49、3.34）」であり、シラバスの活用を促していきたい。自由記述については、「プリントや実践を踏まえた授業でとても受けやすかった」「講義は興味深く、心理学をとって良かった」「わかりやすかった」「話が聞きやすかった」「性格検査や実験など実際に行って確かめるやり方が楽しくできた」「すごくおもしろかった」「心理について学んだことで少し心が軽くなった」「先生の話し方も取り扱う授業内容も毎回興味深いです」など肯定的な自由記述が多くなっていた。今後も評価される授業となるよう努力する。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：人間関係論	人間関係論は3クラス開講であり、回答率は79.4%、82.5%、72.3%であり、昨年度後期より5～15%上昇し、改善が見られた。受講者数は68名、97名、44名であり、クラス規模には依然として2倍以上の差がみられた。評価結果のうち、満足度は、3.65、3.79、3.72、理解度は、3.65、3.55、3.66であり、クラス規模等による大きな差はないといえる。1100000302、1100000302の2クラスは担当者の校務との関連でオンデマンド形式によるリモート授業を1回行ったが、対面授業時での「復習」に配慮した効果か、特に大きな影響はなかった。また、各クラスとも「話し方」や「プリント」の評価が特に高くなっていた。評価がやや低い項目は「シラバスは自主学习に役立つ（3.44、3.55、3.38）」であるが、特に改善が必要なレベルではない。自由記述では、「話し方や声が聞き取りやすい」「プリントがわかりやすかった」「話が面白い」「説明がわかりやすかった」「日常生活に役立つ内容」「楽しい」など授業内容を肯定的に評価するコメントが多いくなっている。今後も評価される授業となるよう努力する。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：吉田友敬
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

大学における教育の基盤として、学生が自身の人生の目標を定め、そのために自己研鑽をし、教育成果をもって希望する進路に進めることが必要である。 そのための教育理念として以下のような方針を立てている。 ・学生が学修内容に興味を持ち、自ら進んで学修を楽しめること ・各科目の学習を通して、一定の学修成果・達成感を得られること ・前提知識としては、すべての学生に寄り添い、可能な範囲で個別に対応すること ・対面授業でも、可能な範囲で課程での学修が可能ないようにすること また、演習授業では上記に加え、以下のことに留意している。 ・学生の自己実現を促し、協働作業を通して人間関係・コミュニケーションを広げること ・演習での学修を通して目標を達成し、高い自己評価を得ること

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：デジタルサウンド入門	1年次前期の科目であり、音楽的素養のない学生であっても、感覚的な制作活動で魅力のある作品制作ができることを体験させている。 主な実習は大学のMacでのAudacityとGarageBandを使用しているが、同等の内容をiPadでも実習できるように配慮している。 音の編集作業を体験し、面白い音を作成したり、効果音を使うなどしてクリエイティブな学修ができるようにしている。 最終課題によって音の作品を制作し、優秀な作品はWebで発表している。 1年前期ということもあり、Macの使い方から懇切丁寧に実習指導を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：音響学	2年後期の科目であり、実習先行のカリキュラムの中で理論的基礎を身につける科目である。 音響学に必要な理論的基盤と数学的基盤を、高等数学を用いずに学修する。 WebClassを最大限に活用し、必要な資料を提示の上、学生各自が課題に取り組む形としている。 課題の中には、応用的な内容を調べて答えるものもあり、学生にとっても興味深い設問内容としている。 初めて音響学を学ぶ学生が多いため、5回に1回復習の回を設けて、知識の定着を図っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：各演習	担当する演習では、コンサートを開催することを大きな目標としており、これを達成することで学生が大きな達成感を得られるようにしている。 コンサートでは、学生の特性により、楽曲を制作する者、映像を制作する者、演奏発表を行う者、また、裏方スタッフとして音響、照明、舞台制作、録音さらには、ポスター・パンフレットのデザイン、Web制作、広報、配信用映像の編集などの役割分担を行って、規模の大きい協働作業を行っている。 コンサートの実現は、学生にとってもたいへんな負担であるが、成功したときの達成感は大いなものである。 また、就職や卒業後の進路を見据え、さまざまな業界の研究をさせている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：デジタルサウンド入門	全体的には概ね理解度、満足度とも高く、学生の需要に応えるものであると思われる。実習室の設備の老朽化などによる問題があったが、次年度にはPCの入れ替えによって改善できると思われる。自由記述の中で、クオリティの高い作品となるためのテクニックを教えてほしい、というものがあるが、クリエイティブな作品制作においては、それはそうそう容易なことではなく、また、特定のテクニックによって作品が限定されてしまうことは、学生の創造活動の可能性を下げてしまうことにつながるかと考える。いくつかのヒントは出しているものの、こうすれば誰でも同じような作品ができるというようなやり方はかえって望ましくないのではないかと感じる。クラスによって若干評価に差があるが、課題の到達度と概ね相関しているように思われる。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：音響学	授業評価項目の数値および自由記述の内容は、おおむね良好なものであった。出席できなかったり、結果として課題に十分取り組みなかったりした学生が一定数いたが、主の要因は朝1限の授業で寝坊等によるものであろう。ただ、近年こうした学生は増加傾向にあり、単に寝坊ということだけでなく、起立性調節障害などの要因も推測されるため、このような学生への対応が今後の課題となる。また、他の項目と比べると理解度がやや低いが、これは授業で扱っている内容が相当程度専門的であることに起因すると思われる。また、計算が苦手な学生も少なくない。 授業のスタイルなどについてはおおむね好評であり、基本的にはこのスタイルを継続していくことになると考えている。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	主にサウンド関係の授業を中心に、オープンクラスとして、他の先生の授業を拝見している。 また、実務家教員の先生に学修についての意見を求め、アドバイスを受けている。 関係業界の企業の担当者や社長などとコンタクトをとり、業界に必要な人材の資質を聞いている。 授業についてのコメントを関係の学生から日常的に聞いている。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度実績 授業の理解度 デジタルサウンド入門：3.76、3.78 音響学：3.33 授業の満足度 デジタルサウンド入門：3.86、3.84 音響学：3.67 演習の総まとめとしてのコンサートを文化フォーラムの大ホールで開催し、大きな会場にもかかわらず、内容の濃いコンサートとして成功した。特に4年生の学修意欲が高く、高度な演出を実現した。 その他の業績：第29回STのための音響学特別講演「いまさら聞けない、でも聞きたい、音響学匿名質問大会」2024.3.17 オンライン開催 令和6年度の目標 学生による授業評価については、現状を維持し、特に音響学の理解度が上がるよう検討する。 演習における学生の達成度を高め、より大きな達成感を得ることで、卒業後の進路に向けての足がかりとする。

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：フードビジネス学科	職位：教授	氏名：吉田 洋
------	--------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神にあるように自由と責任を重んじ、学問を通じて知識技術を磨くべく教育を行っている。学園動続年数31年 常に立学の精神を意識して教育を行っている。フードビジネス学科のディプロマポリシー1にあるように授業ではビジネスの基本を体系的に理解できるように講義を行ってゆく。アクティブラーニングを実施している。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：簿記	フードビジネスにおける簿記の重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：企業会計	フードビジネスにおける企業会計の重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：ヒューマンリソースマネジメント	フードビジネスにおけるヒューマンリソースの重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。
4.教育活動や教育業績 科目名④：経営学	全学部全学科基礎教育科目として学問を通して知識技術を磨くという立学の精神のもと経営学の講義を行っている。わかりやすい授業を心がけている。教科書に代わる教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：簿記	私の計算ミスが少し多かったとの指摘があった。今後注意したい。簿記がさっぱりわからない受講生も一部にいる。プリントを配布しただけでは困難なようだ。本人にやる気があるのであれば、オフィスアワーなどを使って個別指導をしたい。アクティブラーニングを増やしたい。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：企業会計	講義によって進み方が早かったりしたので改善してほしいとの意見があった。学生の理解度を見ながら徐々に講義のペースを速くしたり遅くしたりしている。今後は、この意味を丁寧に説明する。1限の授業のため、冬になると遅刻してくる受講生が目立つ。粘り強く注意喚起を行いたい。定期試験からレポート提出に変えてほしいという意見があった。受講者が多い場合は定期試験を実施している。就職後役に立つように税務に関する授業も取り入れたい。アクティブラーニングを増やしたい。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：ヒューマンリソースマネジメント	板書が少し見にくかったという意見があった。今後は注意して授業を行う。就職後役に立つように労働法、労働問題に関する講義内容を充実したい。アクティブラーニングを増やしたい。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：経営学	スライドがわかりやすかった、経営について詳しいことを学ぶことができて良かったなど肯定的な意見が多かった。プリントを毎回配布してほしいという要望があったので適宜プリントを配布する。アクティブラーニングを増やしたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケートを用いて受講者から指摘のあった事項について改善を進めている。日本簿記学会、日本会計研究学会、システム監査学会などに参加して最新の動向についても授業に反映している。
-------------------------	--

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

令和5年度の成果・教育業績：令和5年度前期は授業評価の理解度はやや芳しくなかったが、後期は概ね3.5以上の評価が得られた。企業会計については副読本として続々ズバツとわかる会計学（同文館）共著を出版した。令和6年度の目標：日本簿記学会、日本会計研究学会、日本経営学会、システム監査学会などに参加して最新の動向について授業に反映してゆきたい。授業評価 全項目3.5以上を目指す。簿記については使用する教科書をビジュアルなものに変更する。企業会計についてはエクセルを用いたフードビジネスと管理会計についても1回程度講義を追加をしたい。ヒューマンリソースマネジメントについてはフードビジネスを題材に具体的なトラブルについて取り上げたい。経営学については中小企業・ベンチャー企業に関する講義を充実させたい。全科目アクティブラーニングを充実したい。
--

名古屋文理大学

令和5年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：	フードビジネス学科	職位：	准教授	氏名：	渡邊 正樹
------	-----	-----------	-----	-----	-----	-------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私の教育理念は「企業ニーズに応える人材の育成」です。 「立学の精神」が目的とする「世界から信頼される日本人」の育成にあたっては、まずは、卒業生が就職先の企業・組織から信頼される存在となることが必要であると考えます。 本学の教育プログラムを終えた学生が、まず評価される場が、就職先の企業・組織です。ここで信頼を得ることができなければ、「世界から信頼される日本人」となることはないでしょう。 このような考えに基づき、企業から信頼される人間、そして「世界から信頼される日本人」を育てるべく、企業ニーズへの対応に主眼を置いた教育活動を行っています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：マーケティング論	・卒業生の多くは日本の企業に就職します。この日本企業の特徴が、“現場”を重視した企業経営です。しかし、文字情報中心の座学では、この“現場”という概念を学生に理解させることは困難です。そこで、この授業では、企業の事例を扱った映像資料を活用し、“現場”への想像力を養うことに力を入れています。 ・遅刻については厳しく指導しています。新入社員が入社直後、社内から信頼を得るためには、まずは絶対に遅刻しないことが重要です。遅刻について、多くの日本企業では厳格な規律が保たれており、新入社員が1分でも遅刻したとしたら、そこで一瞬にして社内での信頼を失うことになります。このような事態を卒業生が招くことがないように指導しています。
2.教育活動や教育業績 科目名②：海外事情	・本学が毎年実施している企業ニーズ調査によれば、新卒採用担当者が最も重視する能力がコミュニケーション能力です。このコミュニケーション能力を養う上でベースとなるのが、他者の多様な考え方を受け入れる態度です。この授業では、毎回ミニレポートを課し、その内容について、次の授業の中で、匿名で全員分を確認・共有しています。これにより、同じテーマの課題に取り組んでも人によって捉え方・考え方が様々であることを理解させ、多様な考え方を受け入れる態度の重要性を理解させることができると考えています。 ・遅刻については、上記「マーケティング論」同様、厳しく指導しています。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	・地元飲食店との産学連携事業を行いました。 ・この中では、稲沢市が新たに始めたカレーによる地域活性化事業の一環として実施された「稲沢カレーフェスティバル」（11月開催）に参加し、当日提供するメニューの開発を協力飲食店と進めるとともに、一部学生は当日の店舗運営にも関わりました。これにより、自らが考えたメニューが形となっていく過程、そのメニューが顧客に受け入れられた時の喜び、及びこれら一連の活動が地域の活性化に繋がることから得られる充実感を体験させることができました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習	・学科の取り組みとして10年以上続いている産学連携の商品開発プロジェクト「NBMS」を中村教授より引き継ぎ、専門演習の中で取り組んでいます。 ・フードビジネス学科には、将来、商品開発の仕事をしたと考えている学生が多数在籍します。しかしながら、実際の商品開発の仕事や、企業内での商品開発部門の位置づけ等について、具体的に理解できていない学生が多いのが実状です。そこで私の演習では、「商品開発では、アイデアを考えることよりも、アイデアを実現していく過程の方が大変である」ということの理解に重きを置いて指導を行っています。これは企業の商品開発の現場ではしばしば直面する事態であり、将来、商品開発の仕事をしたと考えている学生には必須の知識であると言えるからです。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：マーケティング論	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「動画で学ぶ事が多くとても具体的にわかりやすかった」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。
2.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：広告論	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「企業のサイトを見ているだけではわからない視点を知ることができた」「動画を見る授業が多くわかりやすかった」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。
3.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：リスクマネジメント	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「授業内容がわかりやすくなるような動画があって良かった」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。
4.令和5年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：海外事情（月5/金3）	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、「もう少し色々な点から物事を見れるようにしたいなと感じた」といった感想が見られました。全員のミニレポートを共有することによって、コミュニケーション能力のベースとなる他者の多様な考え方を受け入れる態度を養うという、この授業の趣旨が理解されたものと思われます。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和5年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・前年度の授業アンケートの結果をもとに、授業中の話し方、講義資料の内容について改善を行いました。 ・専門演習では、「NBMS」や就職活動に関する指導において、木村ゼミとの連携を強化しました。
-------------------------	---

○令和5年度の成果・教育業績、令和6年度の目標

・基礎演習で取り組んだ「稲沢カレーフェスティバル」の模様はテレビの情報番組でも取り上げられ、そこで開発したメニューは、その後、店舗において販売、多くのメディアでも取り上げられました。学生においても、開発に関わったメニューが広く認知・受容されていく過程を体験することができました。 ・専門演習で取り組んだ商品開発プロジェクト「NBMS」からは、1品が実際に商品化、もう1品が現在、販売に向け商品開発が進んでいます。ここでも、開発に関わった商品が形となっていく様子、それが実際に受容されていく過程について学生が体験することができました。 ・遅刻への指導によって、授業の規律を保つことができました。他の授業で、遅刻、欠席で問題となる学生も、私の授業では問題なく単位を取得していくことがあります。 ・今後も「世界から信頼される日本人」を育てるべく、企業ニーズに応える人材を育成するため、あらゆる努力を払っていききたいと考えています。
--